



韓國日本語文化學會
Japanese Language & Culture Association of Korea

2021年度 春季国際シンポジウム 要旨集

- ▶ 学会長のご挨拶
- ▶ プログラム
- ▶ ZOOM 使用案内
- ▶ 要旨

◆ 招待の言葉 ◆

韓国日本語文化学会 会員の皆様

新型新型コロナウイルスの世界的パンデミックから1年以上が経過した今でも、国や地域の自由な往来がいつからできるのか、未だに先の見通しが難しい状況が続いています。

韓国日本語文化学会の会員の皆様におかれましては、終息の見通しがつかない状況下で、長引くオンライン授業などの環境変化に心身ともに疲れが増しておられるとともに、健康面でのご配慮など、ご心労が尽きないことと存じます。

＜韓国日本語文化学会＞もこのような状況を踏まえ、2020年の春季国際学術大会を本意ではありませんが、またもやオンラインでの開催とさせて頂くこととなりました。教育、研究活動などでお忙しい中、企画発表と学術発表を担当して下さいます発表者の皆様に深く感謝いたします。またこのような学問の交流の場で活発な討論が行われますことを期待しております。

今回は東北大学の吉本啓教授をお招きいたし、「高度文法情報付きコーパスと日本語研究」というタイトルで特別講演が行われることになりました。また、在大韓民国日本国大使館公報文化院の山本剛一等書記官の「日本の大学入試-高大接続改革の中における大学入試改革-」についての招聘講演も行われます。お二人のご講演を拝聴できますことに期待を抱きつつ、深く感謝の気持ちを申し上げます。

企画発表としては、「文学で視る家庭の概念」というテーマでセッションが設けられておりますので、こちらも会員の皆様方のご関心をお願いいたします。

今回の学術大会が本学会の「言語と文化」というメインテーマに即して研究成果を収め、これを通じて学問的な理解と貴重な学術的土台を提供できるきっかけとなることを切に願いながら、多数の会員の皆様が本学術大会に積極的にご参加くださいますことを、心よりお待ち申し上げます。

5月 8日

韓国日本語文化学会会長 朴 蕙 成

韓国日本語文化學會

2021年度 春季国際シンポジウム

- 日 時：2021年 05月 15日(土) 12:30~18:00
- 方 法：オンライン (ZOOM 使用)
- 運 営：牟世鍾(運営委員長)・尹榮珉(運営委員)

▶ 学会の日程 ◀

* 12:30~13:00 入場

zoom (<https://us02web.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvlRrTm5lSE4zYjdCQT09>)

* 13:00~13:40 開会式 司会：權赫仁(總務理事・光云大)

開 会 辞：朴蕙成(會長・ハンバツ大)

招請講演：山本剛(在大韓民國日本國大使館 公報文化院 一等書記官)

「日本の大学入試-高大接続改革の中における大学入試改革-」

* 13:40~14:15 特別講演：吉本啓(東北大學) 司会：宋惠仙(仁徳大)

「高度文法情報付きコーパスと日本語研究」

* 14:20~18:00 学術発表会 (20~25分 発表//5~10分 討論)

言語：(1部+2部)

zoom (<https://us02web.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvlRrTm5lSE4zYjdCQT09>)

文化：

1グループ(1部+2部) zoom① (<https://us02web.zoom.us/j/88389908471?pwd=djVak0JKNlVLZlVPcmRXemRuV2l6UT09>)

2グループ(2部) zoom② (<https://korea-ac-kr.zoom.us/j/878246253710?pwd=WFFheGN3Y3NNaVZ0MlVmb3FvQit6QT09>)

<言語> 第1部 発表

zoom (<https://us02web.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvlRrTm5ISE4zYjdCQT09>) 座長:鄭惠卿(世宗大)

時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
14:20 ~14:50	方允炯 (水原大)	動詞に後続する「ほど」と「ほどに」について	河在必 (釜山大)	朴江訓 (全州大)
14:50 ~15:20	中村有里 (仁川大)	「もらう」「受ける」の使い分けについて	李忠奎 (西原大)	李羽濟 (白石藝術大)
15:20 ~15:50	具明會 (韓國外大)	日本の教育漢字の成立と変遷について	朴孝庚 (漢陽サイバー大)	閔丞希 (中源大)

<言語> 第2部 発表

zoom (<https://us02web.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvlRrTm5ISE4zYjdCQT09>) 座長:金賢廷(白石大)

時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
16:00 ~16:30	辛銀眞 (仁川大)	学習者多様化のための教師の役割 —日文科視覚障害学生の事例研究—	玄仙令 (高麗サイバー大)	金義泳 (ハンバツ大)
16:30 ~17:00	趙恩英 (釜山外大)	「際」はどんなときに現れるのか —BCCWJを用いて—	全紫蓮 (慶尙大)	姜旻完 (大邱カトリック大)
17:00 ~17:30	孫範基 (サイバー 韓國外大)	日本語のル言葉の形態的変異について	文昶允 (筑波大)	張根壽 (祥明大)
17:30 ~18:00	孫榮爽 (齊州大)	「そうですね」に関する計量的観点からの一考察	林始恩 (韓國外大)	高恩淑 (韓國外大)

<文化> Group1 (第1部 発表)

zoom① (<https://us02web.zoom.us/j/88389908471?pwd=djVaK0JKNIvLZ1VPcmRXemRuV2l6UT09>)

座長:李炫英(建國大)

時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
14:20 ~14:50	康志賢 (全南大)	四方正木、及び『深契情話恋の若竹』の成立時期について	琴榮辰 (韓國外大)	康盛國 (ソウル 神學大)
14:50 ~15:20	申智淑 (啓明大)	宮沢賢治「鹿踊のはじまり」のディスクール 一語りの転説法を中心に一	丁相珉 (韓國外大)	趙柱喜 (誠信女大)
15:20 ~15:50	崔泰和 (群山大)	相思病の終末 一メタフォーとしての疾病一	金學淳 (忠南大)	金珍暎 (全北大)

<文化> Group1 (第2部 発表)

zoom① (<https://us02web.zoom.us/j/88389908471?pwd=djVaK0JKNIvLZ1VPcmRXemRuV2l6UT09>)

座長:金京姬(韓國外大)

時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
16:00 ~16:30	金英 (大邱韓醫大)	日本の線香伝來說に対する再検討	金英珠 (韓國外大)	李京和 (韓國外大)
16:30 ~17:00	朴熙永 (ハンバッド大)	議論の日本文化コンテンツに対する韓国の受け入れ方と 批判の論点について一日本のアニメを中心に一	杉本章吾 (高麗大)	片龍雨 (全州大)
17:00 ~17:30	李忠濬 /韓アルム (釜山外大)	日本における外国人移住民に対する 「災害安全情報多言語支援」の現況	柳政勳 (高麗大)	嚴仁卿 (高麗大)

<文化> Group2 第2部 <企画発表：文学で視る家庭の概念>

zoom② (<https://korea-ac-kr.zoom.us/j/878246253710?pwd=WFFheGN3Y3NNaVZ0MWtmb3FvQit6QT09>)

座長:金孝順(高麗大)

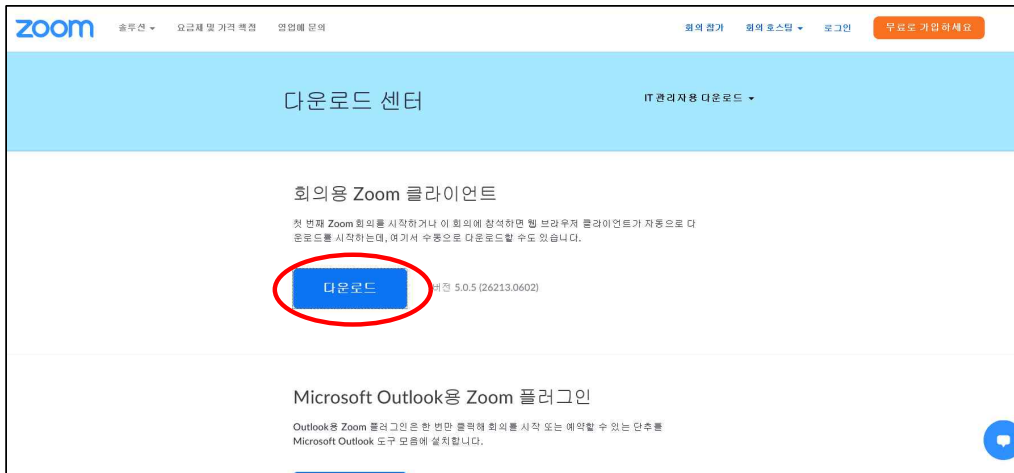
時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
16:00 ~16:30	金孝順 (高麗大)	日露戦争後の家庭小説における戦争・家庭・感染症 一篠原嶺葉の家庭小説『新不如帰』を中心に一	吳聖淑 (韓國外大)	任ダハム (嘉泉大)
16:30 ~17:00	李賢珍 (高麗大)	戦争と在朝日本人の家庭の子供達-『京城日報』に載った 童話を中心に	俞在眞 (高麗大)	
17:00 ~17:30	宋惠敬 (高麗大)	戦後引揚げ文学における家族表象 一藤原ていの流れる星は生きている」を中心に一	李嘉慧 (仁川大)	
17:30 ~18:00	李貞和 (高麗大)	現代日本社会の働く女性と家庭 一桐野夏生の『OUT』を中心に一	李榮鎬 (東國大)	

<ZOOM 설치방법>

◎ 컴퓨터 노트북의 경우

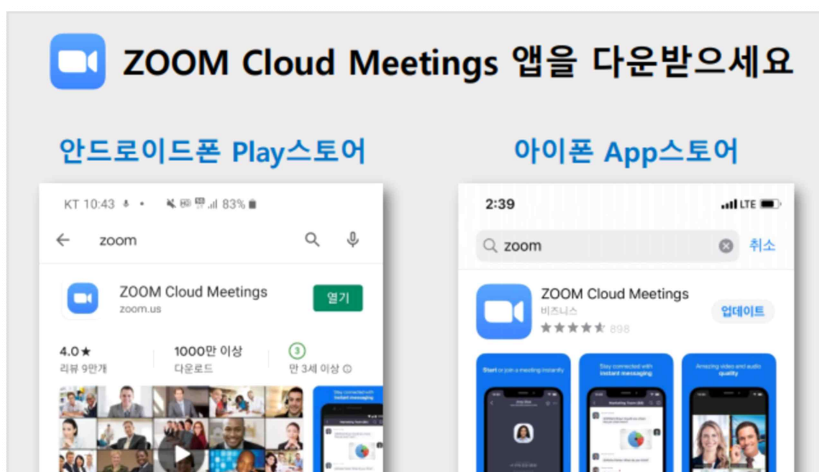
<https://zoom.us/download>

회의용 줌 클라이언트 다운로드를 클릭하여 다운합니다.



◎ 모바일 태블릿의 경우

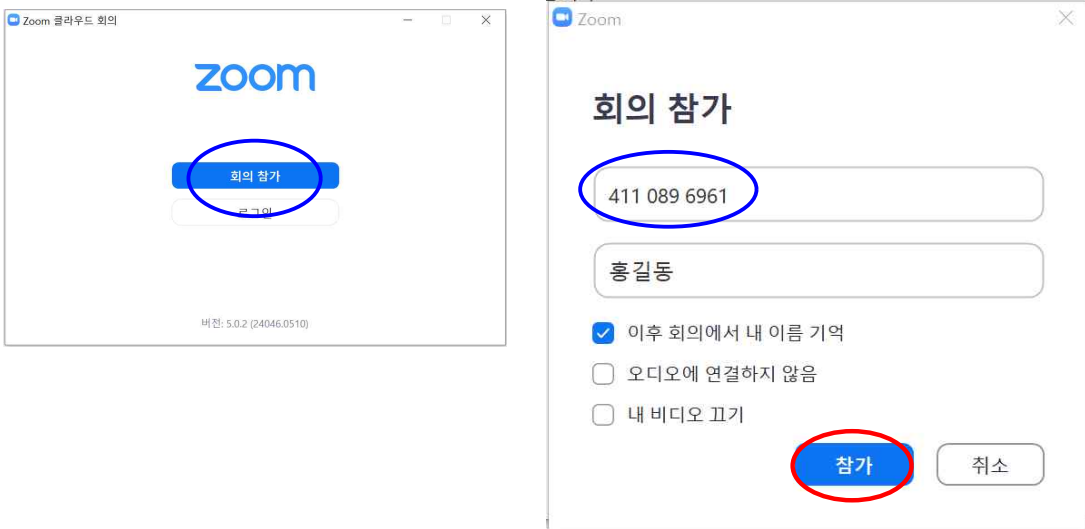
구글 플레이스토어에서 zoom을 검색하여 아래 사진과 같은 어플을 설치하십시오.



ZOOM 회의 참여하실 분들은 가입 필요X

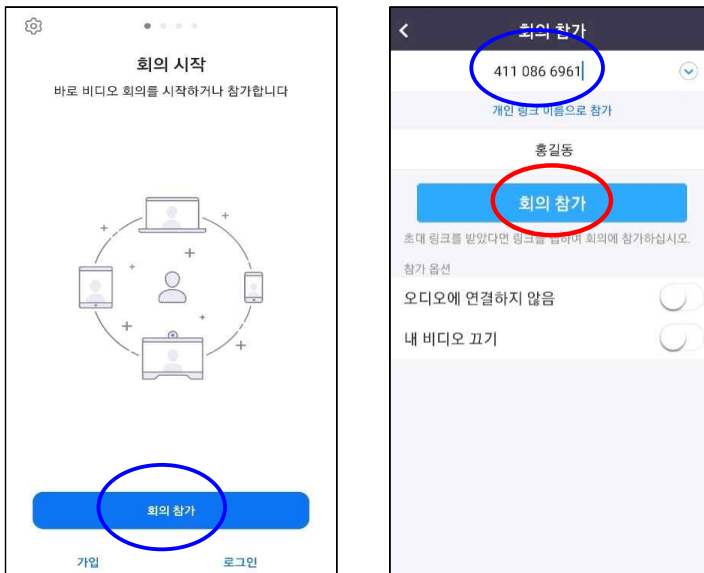
<ZOOM 회의참여 방법>

◎ 컴퓨터 노트북의 경우



회의 ID에 **411 089 6961**을 입력하여, '참가'를 누릅니다.

◎ 모바일 태블릿의 경우





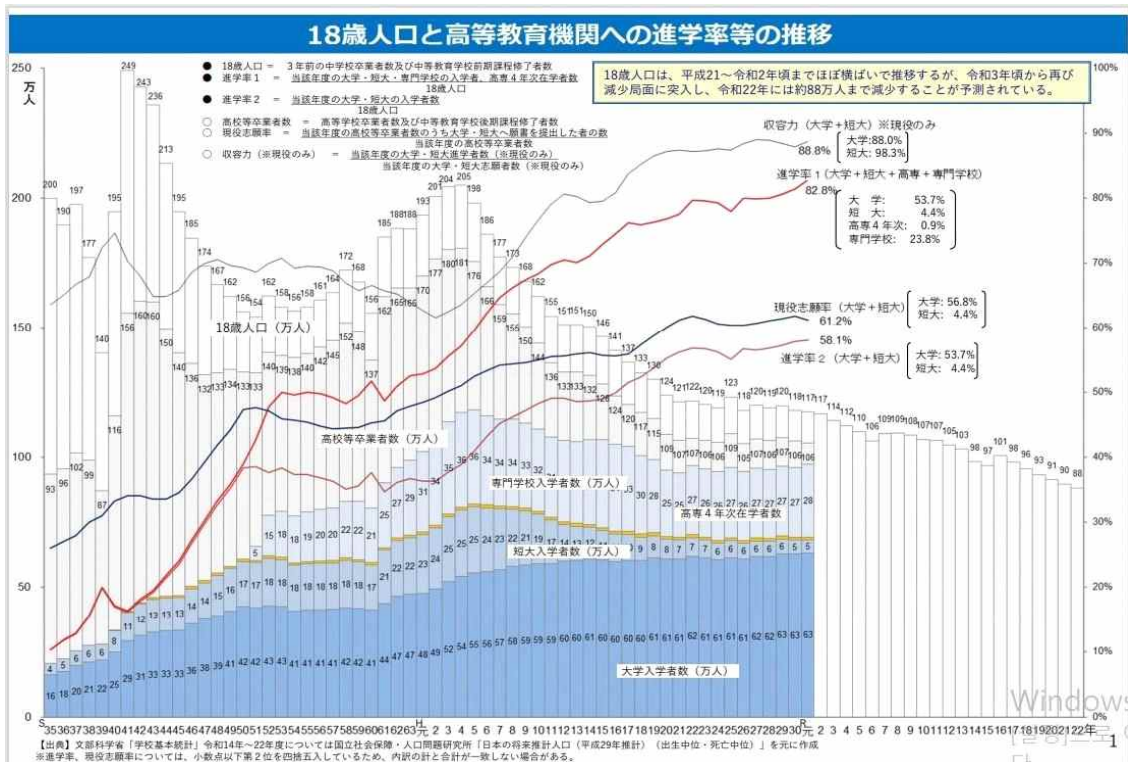
招請講演

日本の大学入試

-高大接続改革の中における大学入試改革-

駐韓日本国大使館一等書記官
山本 剛

Window
[설정]으로



大学入試の基本的な考え方

大学入試の円滑な実施に資するため、以下のような省令や基本方針に基づき、多様な入試方法や学力検査の在り方等について、毎年度、**大学・高等学校関係者との協議を踏まえ、ガイドラインとして「大学入学者選抜実施要項」**を定め、**各大学に通知**している。

○大学設置基準（昭和31年10月22日文部省令第28号）

（入学者選抜）

第2条の2 **入学者の選抜は、公正かつ妥当な方法により、適切な体制を整えて行うものとする。**

（基本方針）

大学入学者選抜は、**各大学が**、それぞれの**教育理念に基づき**、生徒が**高等学校段階までに身に付けた力を**、大学において発展・向上させ、社会へ送り出すという大学教育の一貫したプロセスを前提として、各大学が、卒業認定・学位授与の方針（「ディプロマ・ポリシー」）や教育課程編成・実施の方針（「カリキュラム・ポリシー」）を踏まえ定める**入学者受入れの方針**（「アドミッション・ポリシー」）**に基づき、大学への入口段階で入学者に求める力を多面的・総合的に評価することを役割とするものである。**

このことを踏まえ、各大学は、入学者の選抜を行うに当たり、公正かつ妥当な方法によって、**入学者志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に判定**する。その際、各大学は、年齢、性別、国籍、家庭環境等に関して多様な背景を持った学生の受入れに配慮する。あわせて、高等学校における適切な教育の実施を阻害することとならないよう配慮する。

令和3年度大学入学者選抜実施要項（令和2年6月19日付文部科学省高等教育局長通知）より

総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の区分

○総合型選抜（AO入試） （概要）

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学者志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

- ①入学者志願者本人が記載する活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書等を積極的に活用。
- ②入学者志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。なお、高度な専門知識等が必要な職業分野に求められる人材養成を目的とする学部・学科等における選抜では、当該職業分野を目指すことに関する入学者志願者の意欲・適性等を特に重視した評価・判定に留意。
- ③小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等などの評価方法又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用。

（時期）

出願期間は9月1日～（令和3年度は15日～）
結果発表は11月1日～

学力検査を課す場合の試験期日は
2月1日～3月25日

○学校推薦型選抜（推薦入試） （概要）

出身高等学校校長の推薦に基づき、調査書を主な資料として判定する入試方法。
この方法による場合は、以下の点に留意する。

- ①小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等などの評価方法又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用。
- ②推薦書の中に、入学者志願者本人の学習歴や活動歴を踏まえた学力の3要素に関する評価や、生徒の努力を要する点などその後の指導において特に配慮を要するものがあればその内容について記載を求める。
- ③募集人員は、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲で定める。

（時期）

出願期間は11月1日～
結果発表は12月1日～
（一般選抜の試験期日の10日前まで）

学力検査を課す場合の試験期日は
2月1日～3月25日

○一般選抜（一般入試） （概要）

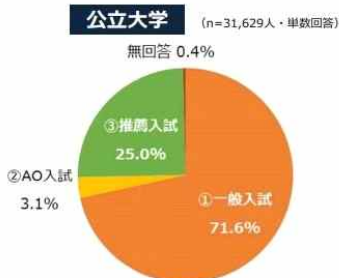
調査書の内容、学力検査、小論文、入学者志願者本人が記載する資料の他、エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション、各種大会や顕彰等の記録、総合的な学習の時間などにおける生徒の探究的な学習の成果等に関する資料やその面談等により、**入学者志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法。**

（時期）

学力検査を課す場合の試験期日は2月1日～3月25日
結果発表は～3月31日まで

入試方法（国公私・入学者数別）

入試方法を入学者数（延べ人数）別で見ると、一般入試52.5%、AO入試11.2%、推薦入試36.2%である。

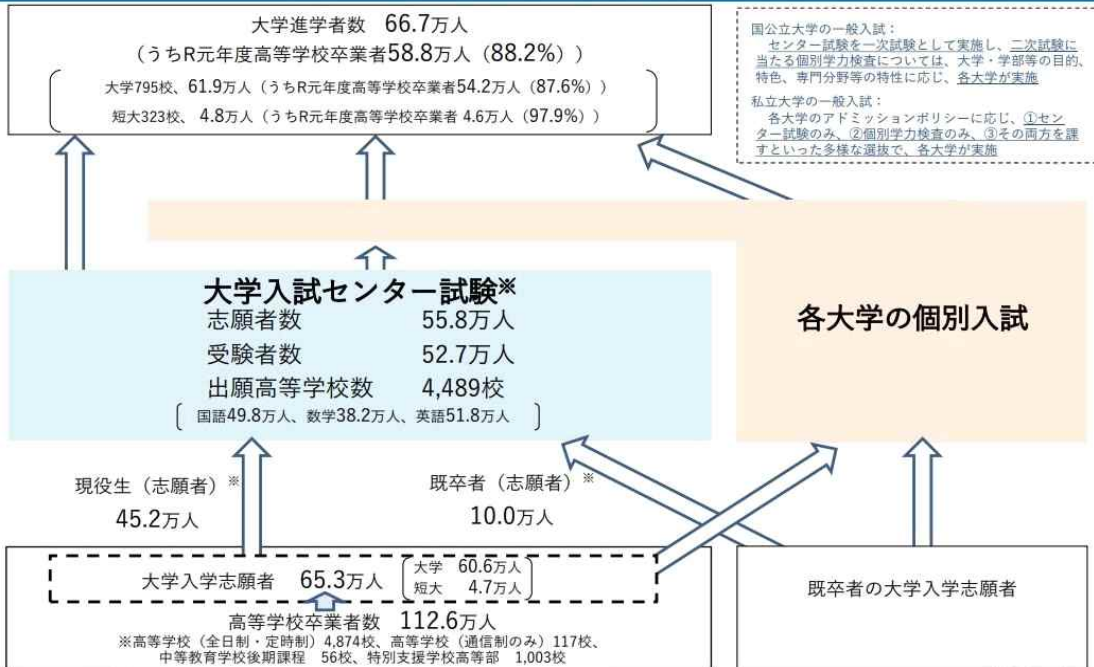


※本調査では、一般入試、AO入試及び推薦入試以外の入試方法は調査対象外としている。

※本調査では、学部・学科を選択した上で選抜区分ごとに入学者数を回答するため、複数の学部・学科にまたがって実施される選抜区分の場合は、入学者数が重複して回答される。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」4

令和2年度入学者選抜における受験者数等



注1) 数値については千人未満は四捨五入している。

注2) 学校基本調査に基づく既卒者の大学入学志願者は、卒業した高校等が把握している数値であり、大学入試センター試験に出願する既卒者の数値とは一致しない。

注3) 高等学校には、高等学校全日制・定時制・通信制のほか、中等教育学校後期課程及び特別支援学校高等部を含む。

注4) 現役生45.2万人及び既卒者10.0万人と志願者数55.8万人の差分(0.6万人)は、高卒認定試験合格者(0.4万人)や外国の学校(12年の課程)修了者(0.04万人)等による。

【出典】令和2年度学校基本調査(※については令和2(2020)年1月及び2月に大学入試センターから公表した資料より)

大学入試センター試験

大学入試センター試験とは

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、**大学が共同して実施する試験。**

【大学入試センター試験導入の背景】

昭和54年度から実施された共通一次学力試験は、大学の2次試験との組み合わせによる多様な選抜の実現に寄与するとともに難問・奇問を排した良質な問題を確保するなどの成果を挙げた。
一方で、私立大学が基本的に参加しなかったことで、効果が限定的であり、5教科7科目（昭和62年度から5教科5科目）の画一的な利用が大学の序列化をもたらすなどの課題が生じた。
このため、**選抜に利用する教科・科目は各大学が自由に選択可能（アラカルト方式）とし、設置主体を問わず各大学が多様な選抜資料の一つとして利用できる試験として、共通一次学力試験の成果を引き継ぎつつ、大学入試の個性化・多様化に貢献する試験として導入。**

【大学入試センターが果たす役割】

1 難問奇問を排除した良質な問題の確保

昭和53年度以前は、高等学校教育の程度や範囲を超えた難問奇問の出題が少なくありませんでしたが、共通一次学力試験や大学入試センター試験の導入により、難問奇問を排除した良質な問題が確保されるようになり、高等学校等の関係者からも高い評価を受けています。

2 各大学が実施する試験との適切な組合せによる大学入試の個性化・多様化

大学入試センター試験を利用することで、小論文、面接等を実施する大学や推薦入試、帰国子女・社会人を対象とした特別入試を実施する大学が増えています。このように大学入試センター試験は大学入試の個性化・多様化に貢献しています。

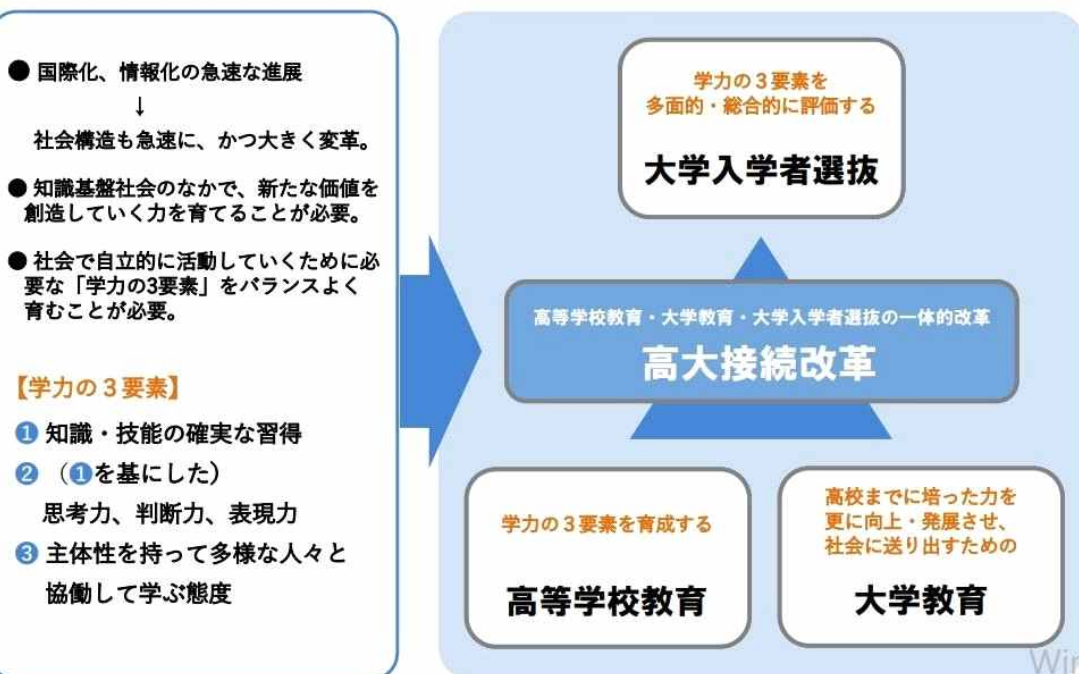
3 国公立大学及び公私短期大学を通じた入試改革

公私立大学・短期大学の利用数は、令和2年度入試では、**174大学・短期大学**であり（平成31年3月31日現在）、利用した大学・短期大学からも好評を得ています。

4 アラカルト方式による各大学に適した利用

大学入試センター試験では、**利用教科・科目を各大学が自由に指定できるアラカルト方式**により、各大学がその大学・学部に必要な教科・科目を指定することができます。

高大接続改革



高大接続改革

中央教育審議会(平成26(2014)年12月22日)

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」

⇒ 教育改革最大の課題でありながら実現が困難であった「高大接続」改革をはじめて現実のものとするための方策として、「高等学校教育」「大学教育」及び両者を接続する「大学入学者選抜」の抜本的改革を提言するもの。

英語民間試験活用:

英語については、4技能を総合的に評価できる問題の出題(例えば記述式問題など)や民間の資格・検定試験の活用により、「読む」「聞く」だけでなく「書く」「話す」も含めた英語の能力をバランスよく評価する。

記述式問題導入:

大学入試センター試験は「知識・技能」を問う問題が中心となっており、…「知識・技能」を単独で評価するのではなく、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価するものにしていくことが必要である。

このため、現行の大学入試センター試験を廃止し、…新テスト「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を新たに実施する。
解答方式については、多肢選択方式だけでなく、記述式を導入する。

「高大接続システム改革会議」(平成27(2015)年3月～平成28(2016)年3月)

⇒ 高大接続改革の実現に向けた具体的な方策について検討。2016年3月に最終報告。

英語民間試験活用:

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の英語については、「書くこと」や「話すこと」を含む四技能を重視して評価する。
また、民間との連携の在り方を検討する。

記述式問題導入:

共通テストとして多くの大学入学希望者の学習に大きな影響を与えることとなる「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」において、複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめるための思考力・判断力やその過程や結果を表現する力などを評価することができるよう、マーク式問題の一層の改善を図るとともに、自ら文章を書いたり図やグラフ等を描いたり式を立てたりすることを求める記述式問題を導入するための具体的な方策等について今後更に検討する。

記述式問題導入に当たっては、作問・視点・実施方法等について乗り越えるべき課題も存在していることから、今後、記述式導入の具体化に向けて、以下のような論点ごとに実証的・専門的な検討を丁寧に進める。

対象教科については、当面、高等学校で共通必修科目が設定されている「国語」「数学」とし、特に記述式導入の意義が大きいと考えられる「国語」を優先させる。

大学入試改革について

◆中央教育審議会答申(平成26年12月)、高大接続システム改革会議最終報告(平成28年3月)等に沿って、大学入学者選抜の改革を推進

◆受験生の「学力の3要素」*について、**多面的・総合的に評価する入試に転換**

*:①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

◆ 大学入試センター試験から**大学入学共通テスト**へ

(大学入学共通テスト問題作成の基本的な考え方)

- 高等学校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題を重視
- 「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定
授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視

●**大学入学共通テスト実施方針**(平成29年7月13日)

●「知識・技能を十分有しているかの評価も行いつつ、**思考力・判断力・表現力を中心に評価**

●全受験者の中での当該受験者の成績を表す**段階別表示**の検討

●「国語」「数学I」「数学I・数学A」については、マークシート式問題に加え、**記述式問題を出題**

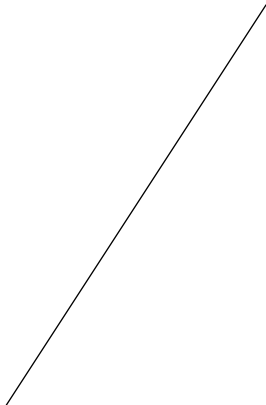
●英語の「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を適切に評価するため、**共通テストの枠組みにおいて**、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している**資格・検定試験を活用**

マーク式問題の工夫・改善

科目別得点における**9段階表示**

令和元年11月・12月
安心して受験できる配慮などの準備状況が十分ではないことから、共通テストにおける英語成績提供システム・記述式問題の**導入見送り**を発表

令和元年12月
「大学入試のあり方に関する検討会議」設置
→英語4技能評価や記述式出題を含めた**大学入試のあり方について改めて検討**



特別講演

高度文法情報付きコーパスと日本語研究

吉本 啓 (国立国語研究所)

1. はじめに

国立国語研究所共同研究プロジェクトで開発中の統語・意味解析情報付きコーパス NINJAL Parsed Corpus of Modern Japanese (NPCMJ; バトラー他 2016, パルデシ・吉本 2020) について解説し、日本語研究においてそれが持つ意義について検討する。NPCMJ は、日本語に対し句構造をタグ付けした初めてのコーパスである。これにより、日本語研究者や日本語教員が構文にもとづいて言語データを検索、入手することが容易になる。まず NPCMJ 開発の動機について述べ、さらにコーパス構築の基本方針および基本特徴について述べる。次に、日本語文法研究への応用例を紹介する。最後に本コーパスの意義について考察する。

2. なぜ統語・意味解析情報が必要か

NPCMJ は、文の意味を直接反映する句構造 (Phrase Structure) を日本語に対してタグ付けした、初の本格的で一般に入手可能なコーパスである。これによって、日本語の研究や教育に携わる人々が関心のある文法事象や文型にマッチする言語データを容易に入手できるようになる。また同時に、その時々が必要や対象データに応じてダイナミックに文法情報を抽出して利用することを可能にする。

従来日本語に関して利用可能なコーパスは、文節 (アクセント句) を単位として形態素や係り受けに関する情報を付加したものに限られていた (Maekawa et al. 2014)。文法研究者の多くが関心を持つ様々な構文に関して、これらのコーパスはきわめて限定された知識しか提供しない。

文の理解にあたって、文法役割 (格) が最重要な情報であることはよく知られている。日本語において文法役割は格助詞 (「が、を、に」など) により表示されることが多いが、それだけに限られない。文法役割を持つ名詞句に「は、も」等の係助詞が付加され、格助詞は使用されないこともある。また、格助詞が脱落したり、あるいは名詞句が省略されて格助詞も使われないことがある。さらに、連体修飾の一種である「内の関係」の場合、修飾される主名詞は連体節の中の述語に対し文法役割を果たすが、ここでも格助詞は使われない。他方、一つの格助詞が表示する文法役割は一つとは限らない。例えば、格助詞「が」は主語を表す他に、「たい」を伴うなどのいくつかの構文で直接目的語を表示する。このように、文法役割を表示する形態論的手段 (省略されている場合を含む) と表示される文法役割とは、多対多の関係にある。そのため、特定の文法役割を持つ名詞句を過不足なく検索するためには形態論的情報だけでは不十分で、文法役割をあらかじめアノテートしておく必要がある。

また、日本語の文を文節へと分割し、文節間の関係を係り受けとして捉えることは、文の意味理解という点で問題を生じる。一例を挙げると、否定辞「ない」はそれが否定している述語句と同一の文節に属し

ているため、文節セグメンテーションに従うかぎり、当該の述語句のみを否定すると解釈されてしまう。しかしながら、否定文においては、否定のスコープをより広く設定することがしばしば必要とされる。一般に、付属語が独立したスコープを持つような統語構造が認められなければならない。意味を反映する正確な検索結果を得るには、意味にもとづいて文を解析して得られる統語構造、すなわち句構造をタグ付けしたコーパスが必要である。

NPCMJ では、文の統語解析情報に加えて、意味解析情報（述語論理式）も各文に対してタグ付けされている。このことは意味論の研究上の意義にとどまらず、文中の語句間の文法的関係（依存関係 dependency）をすべて把握できるという意義を持っている。

単純な例として、動詞「買う」の直接目的語として出現する語句のリストの作成を課題として考えてみる。これには、「昨日買ったりんご」のような、動詞を含む関係節が主名詞を修飾する場合も含まれる。しかし、動詞の次に隣接する主名詞から直接目的語を選ぶというやり方はうまく行かない。関係節と主名詞との関係は非有界依存（unbounded dependency）なので、「昨日買って冷蔵庫に入れたりりんご」のように両者が離れて出現することもありえ、しかもその距離には理論的に限界が無い。

しかし、上記の2つの例に共通して、統語構造から自動的に得られる述語論理式の一部に「買う(x, y) ∧ りんご(y)」が含まれる。NPCMJ ではこの情報を利用して、「買う」と「りんご」とを述語およびその直接目的語として関連付けることができる。

3. アノテーションの方法

NPCMJ のアノテーション方式としては、ペン通時コーパス (Penn Historical Corpora; Santorini 2010) のものを採用している。この解析規約では、文の統語構造をラベル付きの括弧によって表示する。文のすべての単語に対して、品詞情報を表す品詞タグ (N, ADJI, VB, P など) がタグ付けされる。句に対しては、統語タグ (NP, PP, IP 等) が付加される。

NPCMJ の統語解析の基礎をなすのは X-bar 理論だが、そのスキーマは考えられる限りフラットなものである。句のヘッド (N や P 等) が原則的にそれと同一カテゴリーの句 (NP, PP 等) を投射するに際して、両者の間に中間的なカテゴリーは存在せず、修飾語句 (modifiers) や補語句 (complement) とは同一レベルの姉妹となる (ヘッドはつねに句の右端にあらわれる)。このようにすべての種類の句が同一のフラットな構造を取ることで、木構造の検索や変換が簡単に行える。また、これにより異なるスコープ間の包含関係が見られる節の内部において、統語構造の埋め込みによる干渉を防ぐことができ、柔軟なスコープ包含関係の指定を可能にする。

また、本方式では、上記の品詞タグや統語タグに対して必要に応じてさらに機能タグを付加して、曖昧な統語構造からの正確な意味情報の抽出に利用する。統語アノテーション (1) に見るように、PP (助詞句) の後に機能タグ SBJ や OBI を付けて、主語や直接目的語であることを表し、日本語における格表示の曖昧性を解消している。P (助詞) には ROLE や OPTR を付加し、それぞれ格助詞、係助詞であることを示す。また、文全体には主節を表す IP-MAT が与えられている。

(1) (IP-MAT (PP-SBJ (NP (NPR 太郎))

(P-OPTR は))

(PP-OBI (NP (N 手))

(P-ROLE を))

(VB 上げ)

(AXD た)

(PU。))

上記のアノテーションの基本的方針を踏まえて、さらに以下の原則を立ててアノテーションを行っている。

まず、いくつかの単語が緊密に連結して1つの機能語として働くものは、1つの助詞 (P) やモーダル助動詞 (MD) として扱っている。単一の複合助詞 (P) としてラベル付けされるものには、「うえに、という、として、に当たって、に関して、に対して、によって、を通じて」等がある。また、単一のモーダル助動詞 (MD) として扱われる連語には「かもしれない、ちがいない」等がある。

「内の関係」の関係節の場合は、関係節内に空所 (トレース) に相当するノードを与えて文法役割を明示する。関係節 IP-REL の中に (NP-OBI *T*) のように、空所に関する情報が与えられる。トレースと主名詞とが同一であるとの情報は自動意味解析によって得られるので、両者を関係付けるためのインデックスは不要である。

さらに、動詞の必須格である主語または目的語が文中で表現されていない多くの場合について、それらをゼロ代名詞として明示する。ただし、複文中の従属節においてそれらが明示されていなくても、それと同一指示の名詞句が主節中に存在してコントロール関係にある場合は自動意味解析によりコントロール関係が補完されるので、ゼロ代名詞のタギングは行われない。

4. 日本語研究への応用

NPCMJ はすでにウェブ上で公開されており (<http://npcmj.ninjal.ac.jp/>)、文法を中心として日本語研究への応用も盛んに行われるようになった。本節では、文法研究への応用例の中から2つの研究を紹介する。

日本語には「ようだ」「らしい」「そうだ」等、推測のモダリティを表す表現がいくつか存在し、それらの間の違いをめぐってしきりに研究が行われてきた。しかし、それらは当のモダリティ助動詞が文末にあらわれる用例を中心にして行われ、文中の他の位置にあらわれる場合については考察はほぼ皆無であった。ここでは吉本 (2018) に従って、副詞節中に出現した「ようだ」「らしい」「そうだ」(推量・推定の意義に限定する)の違いについて検討する。

コーパス中の用例を調べてまず目につくのは、これらの助動詞が従属節中で使用される割合が非常に高いことである。「ようだ」は65.38%、「らしい」は27.6%、「そうだ」は35.16%が従属節中に出現している。これらの助動詞の意義を考える上で、副詞節中の用法は無視することができない。

それぞれのモダリティ助動詞の従属節中の用例を詳しく検討すると、それぞれに特色のあることが分かる。

まず、「らしい」は「らしいのだが」「らしく(て)」の形で使われるものが大部分である。これらは、比較的長い副詞節を構成して主説に対する付帯状況を表す用例が大半を占める。

(2) 実際には2種類の花押を使い分けていた可能性が高く、秀吉も疑ったらしいのだが、確証が得られなかった。

次に、「そうだ」は「そうに」や「そうなほど」の形で、短い副詞節を構成して、行為や状態の様態を表す用例がほとんどである。

(3) のびをして、もの臭そうに椅子から立ちあがった。

最後に、「ようだ」の用例の大部分は、「ように見える/感じる/記憶する/思う」の形となったり、「ような気がする」となるものがほとんどである。これらは、統語論的には副詞節であっても、実質的な意味としては修飾先の動詞と一体化してモダリティ述語を構成している。

以上、3つのモダリティ助動詞は副詞節の中で用法上の際立った違いを見せる。このことは、これらの助動詞の全体的な意

味・用法を考察する上で重要な事実である。

次に、理解動詞「分かる」の格フレーム情報に関する調査結果について、吉本・バトラー・パルデシ（2021）に従って説明する。「分かる」のいくつかある語義のうち、最大数（280例）の「不明瞭な事柄の明確化」に限定して述べる。

まず指摘されるのは、主語が出現する用例が63例なのに対し、目的語が出現するのは217例、主語が無く目的語のみが出現するものでも172例あるということである。このように、目的語のみがあらわれる文が多く、主語の出現は限定的であると言える。「分かる」は主観表現の一種であり、主語は一人称や感情移入の対象となる登場人物となることが多く、省略されやすいと考えられる。

次に、目的語が現れる217例のうち「こと」「か」「の」「と」が導く節が目的語となるものが145例、普通名詞や代名詞により構成される短い名詞句が72例ある。約3分の2を節が締めていることになる。

一般に日本語において、主語が目的語に先行する文は目的語が主語に先行する文に比べて無標であり、前者の方が後者に比べてずっと頻度が高い。ところが、「分かる」を述語とする文においては、両者の間に大差が無い（29例対16例）。なぜこのようなことになるのかは不明である。上に述べた、目的語が節となり長くなりやすいことから、記憶の負担を避ける必要があるのかもしれない。更なる調査が必要である。

目的語の格標示は「が」が圧倒的に多い。主語はほとんどが「に」により表示されるが、これは目的語の「が」との衝突を避けるためと考えられる。

コーパス検索によって得られる以上のような事実は、直観によって気づくことは出来ない。このような事実を積み重ねることにより、日本語文の語順や文理解の認知的メカニズムについて新しい知見が得られることが期待される。

5. おわりに

NPCMJ の開発について解説し、日本語文法研究への応用例としてモダリティ助動詞と理解動詞の2つを取り上げて考察した。従来の日本語コーパスは形態素解析情報を中心とするものであったため、構文を手がかりとする例文の収集には限界があった。NPCMJ が利用されることにより、これまで作例や少数の実例により行われてきた日本語の構文研究を十分な量のデータに基づいて行う道が開ける。質と量の両方を兼ね備えた日本語文法研究が可能になると言える。また、日本語教育に携わる人々に対しても、現実に使用されている多様な日本語表現の実例を提供することが出来る。

本研究は日本学術振興会科研費基盤 (B) 15H03210, 基盤 (C) 19K00593, および国立国語研究所共同研究プロジェクト「統語・意味解析コーパスの開発と言語研究」の助成を受けた。

<参考文献>

バトラー-アラステア・吉本啓・岸本秀樹・プラシャント-パルデシ（2016）「統語・意味解析情報付き日本語コーパスのアノテーション」, 『言語処理学会第22回年次大会発表論文集』.

Maekawa, K., et al. (2014) Balanced corpus of contemporary written Japanese, *Language Resources and Evaluation* 48(2).

吉本啓・プラシャント-パルデシ（2020）「統語・意味解析情報付き日本語コーパスの構築」*KLS Selected Papers 2: Selected Papers from the 44th Meeting of The Kansai Linguistic Society*,.

Santorini, B. (2010) Annotation Manual for the Penn Historical Corpora and the PCEEC (Release 2).

Tech. rep., Dep. of Computer and Information Science, University of Pennsylvania.

吉本啓 (2018) 「言語研究と統語・意味解析情報付きコーパス」, 日本英語学会第 36 回大会シンポジウム
「ツリーバンク開発と言語理論」, *Conference Handbook* 36.

吉本啓・アラスデア・バトラー・ブラシャント・パルデシ (2021) 「日本語ツリーバンクからの動詞格フレームの抽出」, 『言語処理学会第 27 回年次大会発表論文集』.



言語

動詞に後続する「ほど」と「ほどに」について

方允炯（水原大学校）

1. はじめに

現代日本語の「ほど」は大きく①名詞に後続する場合や②動詞に後続する場合や③形容詞に後続する場合の3つに分けることができる¹⁾。①はさらに、以下のa.のように、の格の名詞に後続する場合と以下のb.のように、名詞のすぐあとにつく場合が見られる。次に、②は以下のc.とd.のように「ほど」の形をとる場合と「ほどに」の形をとる場合が見られる。また、③は以下のe.のようなイ形容詞の場合とf.のようなナ形容詞の場合が見られる。

- a. 自信のほどを見せる。（作例）
- b. 修理には2時間ほどかかる。（作例）
- c. 人はあなたが考えているほど、あなたのことを見ているわけではない。（イチロー）
- d. 日ごろの鬱気がたちまち散じるほどに、その言葉はふしぎな魔力をもった。（銀座）
- e. この商品はおもしろいほどよく売れる。（グループ・ジャマシイ編著（1998）p.529）
- f. 高橋さんは異常なほど高い理想を持っている。（作例）

このうち、本稿では上のc.とd.のように、現代日本語の動詞に後続する「ほど」と「ほどに」について分析・考察を行う。

2. 先行研究と考察方法

本稿で取り上げる動詞に後続する「ほど」と「ほどに」については大きく①古語での研究と②現代語での研究との2つに分けることができる。

まず①古語では日本国語大辞典第二版編集委員会編（2001）で「ほどに」について次のような意味があると述べている。

- a. 活用語の連体形を受け、原因・理由を表す。～ので。
- b. 時間的経過を表す。～するうちに。～すると。
- c. ～するにつれて。ますます。

次に、②現代語では「くらい」と「ほど」を比較した研究を中心に既に多くの議論が行われているが、ここでは、グループ・ジャマシイ編著（1998）を紹介することにしたい。グループ・ジャマシイ編著（1998）では「ほど」を大きくa.概数・b.比較・c.程度・d.比例変化の4つの項目に分けて説明しているが、このうち、本稿の内容と関係がある項目は比較・程度・比例変化の3つである。まず比較については「XはYほど～な

1) 本稿でいう「現代日本語」とは1980年以降の作品に見られた日本語である。

い」の形で、Yを基準にして考えて、XはY以下であるという意味を表すとしている。次に、程度については、動作や状態がどれぐらいかという程度を、比喻や具体的な例を使って表すのに使うとしている。最後に、比例変化については「～ほど」で表されることがらの程度が高くなるにつれて、もう一方も程度が高くなるという場合に使うとしている。一方、「動詞+ほどに」は比例変化のみに現れて、書き言葉的な表現であるとしている。

以上のように、従来の研究では①古語的な意味についての分析と②類似表現との比較分析などが行われてきているが、現代日本語の「動詞+ほど」と「動詞+ほどに」の違いや使用様相に関しては管見の限り、あまり議論されてきていない。殆どどの場合は動詞後続の「ほど」と「ほどに」は自由に言い換えられるという指摘、あるいは「ほどに」は「ほど」の書き言葉的な表現という指摘があるぐらいである。そこで、本稿では現代語の「動詞+ほど」と「動詞+ほどに」の類似点と相違点について、実際の例文を元に、分析・考察することを目標とする。用例の考察の時は、①「ほど」と「ほどに」に前接する動詞のタイプ、②述語のタイプ、といった2点に重点を置いて分析した。ここで用例分布を表で示すと次の<表1>のようになる²⁾。

<表1> 「動詞+ほど」と「動詞+ほどに」の用例分布

	程度	比例	原因	合計
動詞+ほど	298	22	0	320
動詞+ほどに	40	12	2	54
合計	338	34	2	374

3. 分析

3.1 「動詞+ほど」

3.1.1 「程度」を表す場合

- 1) Mさんは断然、自分で至君に「早期教育」を施すことに決めました。カードを使って字の読み方を教える、サイコロのようなドットのついたカードで数の概念を教える、絵本の助けを借りて動物やものの名前を教える…。Mさんは、自分でも「私って、こんなに忍耐強い人間だったのかしら」と驚くほど努力しました。(生きる)
- 2) そのどれにも、自分で自分をコントロールできない母親、子どもを愛しながら逆上し、暴力をふるうことでますます逆上していく母親、子どもの脅えた表情に、火に油を注がれるように怒りを増幅させていく母親、あるいは、這い這いして自分を慕ってくる子どもに恐怖心を抱き、脅えつつ暴力をふるう母親、寝る時に、今日もまた叩いてしまったと死ぬほど落ち込むにもかかわらず、翌日にはまた暴力をふるってしまう母親の姿などが告白されている。(危機)
- 3) 同君が書いた自伝『知の光を求めて』(中央公論新社)、及び『哲学以前』(講談社学術文庫版)の巻末「解説」に、先生の人柄についての思い出が書かれている。今道君は、私と全く異なった道を歩いた学究だが、彼の出先生についての文は、よく先生の人柄と、私と別な面での師弟の底知れぬ愛情が書かれており、今読んでも涙が出るほど私を深く感動させるものがある。(人生記)
- 4) フェロモン、フェロモンと気安く呼んでいるが、本当のところヒトでどんな化合物がフェロモンとして働いているのかは、今一つはっきりしていない。MHC型を伝える役目をする匂い物質はフェロモンと呼んでよいが、ヒトの場合

2) この<表1>の他に、「～ば～ほど」文型の例文が110例見られたが、本稿では対象外にしている。また、「動詞+ほどに」の場合、「動詞+ほどになる」という「ほどに」のあとにすぐ「なる」が来る文型の例文が9つ見られたが、これも対象外にしている。

その本体は未確定だ。物質として取り出すには、ヒトのMHC型の違いはあまりに微妙と言わざるを得ない。しかしヒトのフェロモンの中に、びっくりするほど効果が見てとれるものが存在している。(遺伝子)

- 5) 何台かの自動改札機の端には、黒いドゴール帽に鶯色の制服をつけた、えらく腹の突き出た眼鏡の駅職員が立っていて、喉ちんこが見えるほど大口開けてあくびしていた。(闇)

この場合、前接動詞には存在動詞、移動動詞、視覚活動動詞、聴覚活動動詞、言語活動動詞、動作動詞、変化動詞など様々なタイプの動詞が用いられており、述語には動詞述語のみならず形容詞述語や名詞述語も用いられ特に制約が見られない。ここで具体的には、前接動詞に「驚く」が26例使用され圧倒的に多い。次は「死ぬ」が9例、「出る」が8例、「びっくりする」が6例、「見える」が4例、「考える」が4例の順である。そして、前接動詞に「びっくりする、うっとりする、はっとする、ゾクゾクする、ぞっとする」などのような、擬態語の使用が目立つ。文中での機能としては「動詞+ほど」全体で副詞化していると言えるようである。

3.1.2 「比例変化」を表す場合

- 6) たとえば2020年時点の支出額の総額はシミュレーション1では321万円ですが、シミュレーション2では425万円となり、生きるためのコストは年間100万円以上もアップしていることになります。このコストアップは先に行くほど大きくなります(これが複利計算の怖さです)。たとえば2031年にはシミュレーション1では321万円、これに対しシミュレーション2では524万円と203万円のアップとなってしまいます。(50歳)
- 7) この分野においても情報インフラの活用が進むほどコンテンツの本源的な価値が間われることになる。ここでいうコンテンツの本源価値とは「どれだけ人々を幸せにできるかどうか」を意味すると考えてほしい。(進路)

この場合、前接動詞には存在動詞、移動動詞、言語活動動詞、動作動詞、変化動詞など比較的に様々なタイプの動詞が用いられており、述語には「高くなる、強くなる、大きくなる、なくなる、近づく」などのように、基本的に変化を表す動詞が用いられる。これらの例では述語の語彙的な意味(変化)が全体として「比例変化」を意味するのに大事な役目を果たしているように思われる。また、この場合も3.1.1と同様に、文中での機能としては「動詞+ほど」全体で副詞化していると言えるようである。

3.2 「動詞+ほどに」

3.2.1 「程度」を表す場合

- 8) そのあと、「その外に何がはいっていたかは考えておきます」と弁明していたのだが、それから八日もたってからの取調べで、チャックをあげ、鉛筆や万年筆がはいっていた筆入れをとりだしたことを思いだしている。そのなかにもいっしょにはいていた万年筆は、自宅の鴨居に隠したほどに愛着があるものだから、これが鞆のなかにはいっていたのを忘れることなどありえない。(狭山)
- 9) 一枚の写真がピュリッツァー賞をとるほどに世界中に知られることになって実に十七年。ようやくもう一人の被写体となった男の身元が分かった。グエン・バン・レム。彼の家族を訪ねることになった。(現場)
- 10) 一九五〇年代後半から六〇年代前半に、観測所の人たちはススキの根掘りをし、間引き、地下茎を切り、ススキの活力をみちがえるほどに回復させた経験をもっている。また肥料を施しススキの生育を促進した。(アホウドリ)

この場合、前接動詞には視覚活動動詞、言語活動動詞、動作動詞、変化動詞のようなタイプの動詞が用いられており、述語は殆どの場合、動詞述語である。特に、この場合の全用例40例のうち、38例が動詞述語であり、この点は「動詞+ほど」とは異なる点である。ここで具体的には、前接動詞に「隠す」が2例、「とる」が1例、「見違える」が1例見られた。文中での機能としては、この場合も「動詞+ほどに」全体で副詞化していると言えるようである。

3.2.2 「比例変化」を表す場合

- 11) 病気が進行するほどに、病識といって、自分が病気であるという意識を持ってなくなるからです。そういう意味でいえば、軽いうちに精神科を受診できればいいのですが、親が連れていこうとしても、どうしても本人が拒む場合が少なくありません。(思春期)
- 12) 供述は実に詳細だったが、語るほどに矛盾が噴出してくる。(麻薬)

この場合、前接動詞には「近づく、進行する、かむ、思案する」などのような動詞が使われており、述語には3.1.2と同様に「持てなくなる、なくなる、広がる、噴出してくる」などのような基本的に変化を表す動詞が用いられる。これらの例では、3.1.2と同様に、述語の語彙的な意味(変化)が全体として「比例変化」を意味するのに大事な役目を果たしているように思われる。また、この場合も3.1.1と同様に、文中での機能としては「動詞+ほどに」全体で副詞化していると言えるようである。

3.2.3 「原因・理由」を表す場合

- 13) 「さあさあ、そんなところに立っていらっしやお風邪をめします。それに人眼にもつきましよう。こちらへあがっておあたりなさいまし。いまに舟が戻ってまいりましたら、置ごたつの用意もさせますほどに、ぬくぬくと暖まって若旦那のところへ逢いにいらっしやませ。ここらとちがって向島は風流なところでございます。雪見をしながら置ごたつの差しむかい、ほっほっほ、お楽しみなことでございます。さあ、さあ、どうぞこちらへ…」(江戸)
- 14) 「あれ、まあ、ちょうどよい都合でございました。それでは置ごたつに火をつぎますほどに…」(江戸)

この場合、例13)と例14)を見ると分かるように、前接動詞の「～ます」のあとに「ほどに」がついて、原因や理由を表す。これらは「～ますので」に言い換えられそうである。この用法は「源氏物語」のような平安時代にはよく出現するが、現代語を対象にした今回の調査では上の2例しか確認できなかった。現代ではこの用法としては使わなくなったことを物語っているように思われる。詳しい分析は今後の課題としたい。

3.3 「動詞+ほど」と「動詞+ほどに」の比較

3.3.1 両方に使われた前接動詞について

「動詞+ほど」と「動詞+ほどに」に使われた全体の前接動詞の異り語数は223個であるが、この両方に使用された動詞は9つに過ぎなかった。それらを示すと「なる、近づく、凌ぐ、忘れる、聞こえる、思う、生まれる、言う、言われる」である。このうち、ここでは特に「思う、聞こえる、言う」について詳しく見てみる。

- 15) それに、なんだかんだと理屈をこねても、生まれたての赤ちゃんは、ただそこにいてくれるだけで可愛い。手、足、顔、目、口…、体のすべての器官が小さくて、お世辞にも力強いとは言えない生命力で一生懸命生きているその姿は、「この世にこんな汚れない存在があるのか」と思うほど感動的だ。(アンコ)

- 16) 体を震わせ悶える。よく動くものだ、と思うほどに動いている。人がやっているのを眺めているのもよいものだ。確かに、絶景と言いたくなる。(剣鬼)
- 17) 結果はかんばしかなかった。故人を思って意識的にそうしているのか、カフェテリアではジョセフィン・テイラーの名前すらささやかれなかった。クラスメイトは、ジョセフィンとは学年が二つ違うこともあり、彼女の日常をほとんど知らなかった。ただ、授業を抜け出したり、喫煙で処分されたりと、ヘインズ夫妻がいほどよい子ではなかったことだけはわかった。(鬼密室)
- 18) 大介はテーブルの上でマドンナの手をずっと握っていた。そしてやることしかできない。いくら言葉で励まして、なんになるというのだろう。マドンナの心の傷は決していえないのだ。下手な慰めの言葉なんて、役に立たないどころか、さらに傷つけてしまうかもしれない。そのことが、頼子の失踪の件でいやというほどにわかった。(頼子)
- 19) 表門の向かいが旗本の武家屋敷で、その先が江戸湾になっている。海上を渡る風音が聞こえるほど、海にちかい地であった。(血)
- 20) 規則第5条は、以下のようであった。「利用者は他の利用者の権利を尊び、次のような他人を困らせ迷惑をかける行為をしてはならない。騒がしく粗暴な行動、困らせる意図を持って他人を凝視すること、困らせる意図を持って館内で他人の後をつけ回すこと、他人に聞こえるほどに音響機器の音量を上げること、他人や自分自身に対し大声で話しかけたり歌いかけたりすること、または、明らかに他の利用者の迷惑となるような挙措動作。」(図書館)

上の例15)と例16)は前接動詞に「思う」が使われているが、前者は述語が形容詞であり、後者は述語が動詞である。そして、例17)と例18)は前接動詞に「言う」が使われているが、前者は述語が名詞であり、後者は述語が動詞である。また、例19)と例20)は前接動詞に「聞こえる」が使われているが、前者は述語が名詞であり、後者は述語が動詞である。これらのことから、「動詞+ほどに」にえられる述語のタイプは原則的に動詞述語に限られると言えるようである³⁾。

4. まとめと今後の課題

本稿で述べてきたことは次のようにまとめられる。

- ① 今回の調査では、文中で副詞化している「動詞+ほど」と「動詞+ほどに」について、量的分析と質的分析の二通りの分析を行った。まず量的には「ほど」が「ほどに」より約6倍も多く出現することが分かった。次に、質的には、意味のうえで、「ほど」と「ほどに」は両方とも程度を表す場合と比例変化を表す場合を持っていることが分かった。そして、前接動詞のタイプも「ほど」が「ほどに」より様々なタイプを持っており(例えば、擬態語の使用)、述語のタイプも「ほど」のほうが様々であることが分かった。要するに、現代語では「動詞+ほど」のほうが一般的であると言えるようである。
- ② 「動詞+ほど」と「動詞+ほどに」の例文を比較してみた結果、「ほど」は述語に動詞述語・形容詞述語・名詞述語などが自由に使用できるのに対し、「ほどに」は2例を除けば、すべて動詞述語が使用される傾向が見られた。一方で、これらの両方に使われた前接動詞は9つに過ぎなかった。
- ③ 古語における従来の研究では「ほどに」を別項目として挙げ、a.「すると、するうちに」を表す、b.原因・理由を表す、c.比例変化を表す、という指摘があるが、b.の原因・理由は2例しか見られなかったし、c.の

3) 両方に使われた前接動詞9つのうち、「動詞+ほどに」の全用例11例は全て述語が動詞述語である。一方で、9つのうち、「動詞+ほど」の全用例65例は動詞述語のみならず形容詞述語や名詞述語も見られた。

比例変化は「動詞+ほど」にも多数見られたことから、現代語ではこのような指摘はあまり適切ではないと思われる。

- ④従来の研究では、動詞に後続する「ほど」と「ほどに」は自由に言い換えられると言われたり、「ほどに」は「ほど」の書き言葉的な表現であると言われたりしたが、今回の調査を通して、現代語では前接動詞によって「ほど」をとるか「ほどに」をとるかがある程度決まっていることが分かった。したがって、現代語ではこのような指摘はあまり適切ではないと思われる。

最後に、今後の課題としては用例を増やして、「動詞+ほど」と「動詞+ほどに」の本稿での結果をより精密に検証してみる必要があると思われる。

<用例出典>

- * 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ領域内公開データ（2009年度版のモニター公開データ）、国立国語研究所）

<参考文献>

- 奥田靖雄（1976）「言語の単位としての連語」『教育国語』45, むぎ書房, pp.2-13
グループ・ジャマシイ編著（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版, pp.528-532
言語学研究会編（1983）『日本語文法・連語論（資料編）』 むぎ書房, pp.3-19
鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』 むぎ書房, pp.1-512
高橋太郎（1989）「形式名詞についてのおぼえがき」『吉沢典男教授追悼論文集』, 東京外国語大学音声学研究室, pp.307-316
高橋太郎他（2005）『日本語の文法』 ひつじ書房, pp.1-285
日本国語大辞典第二版編集委員会編（2001）『日本国語大辞典 第二版 第12巻』小学館, pp.161-162, p.171
吉川武時編（2003）『形式名詞がこれでわかる』 ひつじ書房, pp.1-215

「もらう」「受ける」の使い分けについて

中村有里(인천대)

1. はじめに

日本語の授受表現は、日本語学習者が初級段階で学ぶ文法項目の一つである。そのため、「やる(あげる)・もらう・くれる」、「てやる(あげる)・てもらう・てくれる」の使い分けに関しては、初級段階から各種教材や教師向けの指導手引書でも詳述されており、また、多方面からの研究も活発に行われている。

だが、韓国語母語話者にとっては、授受表現間の使い分けのみならず、「やる(あげる)」と「与える」、「もらう」と「受ける」といった類義語間の使い分けも初級段階から直面する課題の一つとなる。これは、韓国語の「주다」が「やる(あげる)」と「与える」、「받다」が「もらう」と「受ける」のいずれにも対応する、極めて広範な意味を有する多義語であることに起因する。その上、日本語の「やる(あげる)」「与える」、「もらう」「受ける」もまた多義語であり、語義が一様でないことから、中級・上級とレベルが上がっても使い分けを身につけることは容易ではない。そのため、韓国語母語の日本語学習者にとって分かりやすい「やる(あげる)」と「与える」、「もらう」と「受ける」の使い分けの提示、およびその基盤となる語義の研究が求められる。本発表は、このうち、「もらう」と「受ける」の異同に焦点を当てたものである。

2. 先行研究

「もらう」と「受ける」の異同に関する先行研究は、管見の限りでは、金珉秀(2004)、権奇洙(2007)、金玉英(2008a,2008b,2008c)と韓国人研究者によるもののみとなっている。このことは「받다」という語を介することによって始めて、「もらう」と「受ける」が類義語として捉えられることを意味しているように思われる。

これらの先行研究は、各語の大まかな特徴を明らかにしようとするものと、各語の文法的特性や語義を網羅的に明らかにしようとするものに大別できる。「もらう」「受け取る」「受ける」と「받다」「얻다」を《求心的方向性》《所有権の移動》《物理的空間移動》という3つの意味特徴に関して対照分析した金珉秀(2004)は前者に当たる。他方、「もらう」と「受ける」の文法的特性と意味用法の異同を網羅的に考察した権奇洙(2007)、「もらう」「受ける」「받다」のそれぞれの語義を網羅的に提示したうえで各語の異同を明らかにした金玉英(2008a,2008b,2008c)は後者に当たる。前者は、日本語の基本動詞にまだあまり馴染みのない初級レベルの学習者が各語の大まかなイメージをつかむのに有効であろうし、また、後者は、上級・超級の学習者が自らの知識を確認・整理するのに役立つであろう。しかしながら、前者には、上述の3つの意味特徴だけでは捉えきれない各語の特徴や語義が残されてしまうという限界があり、後者には、文法的特性や語義を羅列する形では各語の体系的な把握が難しいという限界がある。

学習者に多義語である「もらう」と「受ける」の使い分けを分かりやすく提示するためには、まずは、各語の語義間の相互関係を明らかにし、それをもとに類義語間の類似点と相違点を示す必要があると思われる。これが本研究の目的である。

3. 「もらう」のみが有する語義

3.1 基本義

語義①：<人・組織などから><[具体物4]を><受け取って><自分(の組織)のものにする>

- (1) a. 合格祝いとして父から腕時計を{もらった／*受けた}。(具体物)
- b. 友だちのうちの犬が子どもを産んだので、その子犬を一匹{もらう／*受ける}ことにした。(生き物)

3.2 対象の拡張による派生義

語義②：<人・組織などから><[抽象物]を><受け取って><自分(の組織)のものにする>

- (2) a. 有給休暇を{もらって／*受けて}旅行に行くことにした。(時間)
- b. セットアップを{もらった／*受けた}のだから、あとは結果を出すだけだ。(機会)
- c. 大事な試合の前日に友人から励ましの言葉を{もらい／*受け}、自信がわいてきた。(メッセージ)
- d. 子どもが幼稚園でインフルエンザを{もらって／*受けて}きた。(病気)

語義③：<人・組織から><[人]を><迎え入れて><自分(の組織)のものにする>

- (3) a. 母は、いいお嫁さんを{もらった／*受けた}と喜んでいる。
- b. トレードで若手選手を{もらう／*受ける}ことになった。

語義④：<人・組織から><[対象に対する裁量権]を><受け取って><自分(の組織)のものにする>

- (4) a. よし、この試合は{もらった／*受けた}！
- b. おい、待て待て！このけんかは俺が{もらった／*受けた}！

3.3 与え手との関係性の拡張による派生義

語義⑤：<人・組織が手放した><具体物を><取って><自分(の組織)のものにする>

- (5) a. 「ご自由にお持ちください」と書いた箱に入っていた本を、一冊{もらって／*受けて}きた。
- b. まだ使えそうなテーブルが捨ててあったから、{もらって／*受けて}きちゃった。

語義⑥：<具体物・抽象物から><力やアイデアを><得て><自分(の組織)のものにする>

- (6) a. 朝日を浴びて、一日を乗り切るパワーを{もらう／*受ける}。(力)
- b. 先輩の話から、仕事を楽しむためのヒントが{もらえた／*受けられた}。(アイデア)

4. 「受ける」のみが有する語義

4.1 基本義

語義①：<[一定方向に進んでいる具体物]を><自分に到達するがままにする>

- (1) a. ボールを顔面に{受けた／*もらった}。
- b. 風を{受けて／*もらって}走る。

4) 「制度で定められた基準を満たすことで与えられる具体物」は「もらう」に言い換え可。詳しくは本稿5を参照。

語義②：<一定方向に進んでいる具体物に> <応じる>

- (2) a. ボールを手で{受けた／*もらった}。
b. 雨漏りをバケツで{受ける／*もらう}。

4.2 語義①の拡張による派生義

語義③：<作用の結果を> <享受・甘受する>

- (3) a. 農作物は、自然の恩恵を{受けて／*もらって}育つ。
b. 悪い知らせにショックを{受けた／*もらった}。

語義④：<受け手を喜ばせるため、もしくは懲らしめるための行為を> <享受・甘受する>

- (4) a. 訪問先で歓迎を{受けた／*もらった}。
b. 敵からの攻撃を{受ける／*もらう}。

4.3 語義②の拡張による派生義

語義⑤：<挑戦に> <応じる>

- (5) a. ライバルからの挑戦を{受ける／*もらう}ことにした。
b. 相手が試合を{受けて／*もらって}くれるかどうか分からない。

語義⑥：<不特定多数の人に向けられたサービスに> <応じる>

- (6) a. 来月、入学試験を{受ける／*もらう}。
b. 健康診断を{受けて／*もらって}きた。

語義⑦：<他者の意見や出来事を> <判断材料にする>

- (7) a. 理事会の決定を{受けて／*もらって}、人事が行われた。
b. 今回の事件を{受け／*もらい}、少年法が見直された。

5. 「もらう」と「受ける」がともに有する語義

「もらう」語義①'：<人・組織から> <制度で定められた基準を満たすことで与えられる具体物を> <受け取って> <自分(の組織)のものにする>

「受ける」語義⑧：<制度で定められた基準を満たすことで与えられる具体物の支給・給付・授与に> <応じる>

- (8) a. 給与を{もらう／受ける}。(報酬)
b. 生活保護を{もらう／受ける}。(給付金)
c. 賞を{もらう／受ける}。(褒章・栄典)
d. 学位を{もらう／受ける}。(荣誉称号)

5) 「身体から身体へと振るわれる暴力」は「もらう」に言い換え可。詳しくは本稿5を参照。

「もらう」語義⑦：<人・組織から><行為に付随する具体物・抽象物を><受け取って><自分(の組織)のものにする>

「受ける」語義⑨：<具体物・抽象物を与えようとする行為に><応じる>

- (9) a. 周辺諸国から支援を{もらった/受けた}。(行為+物資・金銭)
b. 当局の許可を{もらう/受ける}。(行為+メッセージ)

「もらう」語義⑧：<人から><暴力を><身体から身体へ振るわれる><->

「受ける」語義④’：<身体から身体へ振るわれる暴力を><甘受する>

- (10) a. あごにパンチを{もらった/受けた}。
b. 腹部に打撃を{もらう/受ける}のは危険だ。

6. まとめ

「もらう」は、<人・組織から><具体物を><受け取って><自分(の組織)のものにする>という4つの構成要素からなる基本義と、対象(2つ目の構成要素)の拡張および与え手との関係性(1つ目の構成要素)の拡張による複数の派生義を有している。これら複数の語義に共通する(語義⑧を除く)特徴としては、対象がコトではなくモノであることが挙げられる。

「受ける」は、<一定方向に進んでいる具体物を><自分に到達するがままにする>という受動的な語義と、<一定方向に進んでいる具体物に><応じる>という能動的な語義の、2つが基本義となり、それぞれの基本義から拡張した複数の派生義を有している。これら複数の語義に共通する特徴としては、対象が動きや作用、行為などといったコト性を有していることが挙げられる。

最後に、「もらう」と「受ける」のいずれもが使えるのは、対象が、1)「制度で定められた基準を満たすことと与えられる具体物」である場合、2)「行為+具体物・抽象物」である場合、3)「身体から身体へ振るわれる暴力」である場合、の3つとなっている。1)の場合、「もらう」は個別的な出来事の叙述、「受ける」は制度の説明に用いられる傾向があり、前者では受け取る具体物、すなわちモノ性が、後者ではその具体物の支給・給付・授与、すなわちコト性が際立つ傾向が見られる。これは、前述のとおり、「もらう」はモノ的、「受ける」はコト的な対象をとることから生じる差異であると思われる。2)の場合も、「もらう」では「行為+具体物・抽象物」のうち「具体物・抽象物」が、「受ける」では「行為+具体物・抽象物」のうち「行為」が際立つ傾向があるが、これもやはり、「もらう」はモノ的、「受ける」はコト的な対象をとることから生じる差異であると言えるだろう。3)の場合は、「暴力」は行為であるため、本来は「受ける」を用いるのが妥当であり「もらう」が用いられるのは例外的であるようにも思われる。しかし、「身体から身体へ」という条件を満たさない「暴力」の場合は「もらう」が使えないことを考えると、「身体から身体へ」という要素が「もらう」の基本義が有する「(手から手へ)受け取って」という要素と相通じており、これによって「もらう」の使用が可能となっていると見ることができよう。

※ 参考文献は、発表の際に紹介させていただきます。

체는 물론이거니와 그 숫자를 어느 수준으로 해야 할 것인가를 둘러싼 논의가 활발했다. 물론 그러한 논의 자체가 불필요하다고 하는 주장하는 세력들도 존재했고, 반대로 한자의 전폐(全廢)를 주장하며 가나문자 사용을 주장하는 세력들 및 로마 알파벳 사용을 주장하는 세력들 등등 다종다양한 주장들이 착종하던 시대였다⁹⁾.

여러 주장과는 별도로 일본 사회적 구속력을 갖지는 못했으나 일본 정부는 여러 기관¹⁰⁾을 설치하여 기본적으로는 교육 및 업무 등에서 사용하는 한자를 일정 수준의 기본적 자종(字種), 자체(字体), 음훈(音訓)만으로 한정하려고 하는 「한자제한」을 위한 여러 기구들을 만들었고 그 결과 여러 종류의 한자표(漢字表)가 발표되었다.

이러한 한자표들은 여러 조사를 통해 그 나름의 충분한 설득력을 지니고 있었으나 아이러니하게도 그 때마다 큰 사회적 변동기를 겪으며 좌절을 맛보게 되었다. 예를 들어 1923년 5월 임시국어조사회(臨時國語調査會)가 정리한 「상용한자표(常用漢字表)」는 같은해 9월에 발생한 관동(關東)대지진으로 인해 실시되지 못했다. 또한 1931년 5월에 발표한 「수정(修正)상용한자표」 역시 중일전쟁의 전초전이라고 할 수 있는 상하이사변(事變)의 발생으로 인해 좌절을 맛보게 되었다. 그리고 마지막으로 1942년에 정리된 표준한자표(標準漢字表)는 전쟁 말기라고 하는 특수상황 속에서 원활한 시행으로 연결되지 못했다¹¹⁾.

일본어의 표기방법을 놓고 제세력 간의 갈등이 있었던 것은 사실이나 이른바 전전(戰前) 시기¹²⁾의 일본에 있어서 한자제한(절감)을 위한 기본적 노력이 시대별로 꾸준히 이루어진 것은 부정할 수 없다.

3.2 교육한자의 제정

일본에 처음으로 초등학교가 개설된 것은 1873년의 일이다. 다만 이른바 의무교육에 해당하는 무상교육이 시작된 것은 그로부터 27년 후인 1900년이 된 후였다. 의무교육이 되었다는 것은 그 교육의 범위를 명확히 해야 하는 필요성이 커졌다는 것을 의미한다.

그런데 앞에서 언급한 바와 같이 교육한자는 1948년 2월에 만들어졌다. 다만 1900년 초등학교에서 의무교육이 시작됨에 따라 국어과(國語科)의 교과서는 국정독본(國定讀本)의 형태로 총 6기에 걸쳐 만들어졌고 시기별로 수록된 한자의 수는 다음과 같다.

<표1 국정독본 시기 초등학교 학년별 배당한자수의 추이>¹³⁾

	실시년도	1년	2년	3년	4년	5년	6년	합계
국정독본 제1기	1900년	10	73	161	256	152	202	854
국정독본 제2기	1906년	34	119	268	351	313	275	1360
국정독본 제3기	1918년	49	173	307	343	262	232	1366
국정독본 제4기	1933년	82	234	336	298	215	197	1362
국정독본 제5기	1941년	129	276	244	225	234	193	1301
국정독본 제6기	1947년	50	98	150	144	133	109	684

제1기와 제6기를 제외하고는 대략 1300자 정도의 한자가 실려 있었던 것을 알 수 있다. 1기의 경우 배당한자(配當漢字) 이외에 배당외한자(配當外漢字)의 형태¹⁴⁾로 실린 한자가 상당수 있었기에 단순히 적었다고 하기에

9) 武部良明, 「現代表記30年の経緯」 『紀要論文』 第12分冊, 早稲田大学語学教育研究所, 1977, pp.109-110

10) 1902-1913년의 국어조사위원회, 1921-1934년의 임시국어조사회, 1934-2001년 국어심의회, 2001년-현재 문화심의회 국어분과회 등이 있다.

11) 구명회, 「근대 일본의 문자정책에 대하여 - 2차 대전 후의 변화를 중심으로 -」, 『인문과학논총』 제37권제1호, 2016, pp.75-76

12) 전전시기는 광의로는 메이지 유신(1868년) 때부터 2차 대전 종료(1945년)까지를, 협의로는 1차대전 종료(1918년)부터 2차 대전 종료까지를 지칭한다.

13) 国立国語研究所, 『常用漢字の習得と指導』, 東京書籍, 1994, p.10

14) 후리가나(ふりがな)가 붙은 형태로 사용된 한자가 많았다.

는 다소 오해의 여지가 있을 수 있다. 한편 6기의 경우 1946년에 공포된 「당용한자표」라고 하는 이른바 한자를 제한하는 정책이 막 시작된 시기인 관계로 5기에 비해 절반 가까운 정도로 줄어든 것을 확인할 수 있다.

1947년 3월 공포된 학교교육법의 규정에 의해 (국어)교과서는 기존의 국정제에서 검정제(檢定制)로 바뀌게 된다. 그 과정에서 여러 문제점이 생겨나게 되었는데 예를 들어 아동의 전학 시 교과서별 한자 수의 차이, 신학년이 된 후 전학년도와 다른 종류의 교과서를 사용하는 경우 등이 그것이다.

3. 일본 교육한자의 확대

3.1 9년간의 881자가 6년간의 881자로

1946년의 당용한자표의 제정은 이른바 전후 한자 제한정책의 시작이고 표준이었다. 그로부터 2년 후인 1948년 당용한자별표는 9년 간의 의무교육기간 동안 익혀야 하는 한자의 수를 정한 것이었다. 이것은 총 881자의 한자를 9년 동안 학습하면 된다는 것으로 학습부담적 관점에서는 종래에 비해 매우 낮아졌다고 할 수 있다.

한편 당용한자별표에 의해 의무교육기간 동안의 학습한자가 정해지기는 했으나 구체적으로 어느 시기에 어느 한자를 교수해야 할 것인가에 대해서는 지침이 존재하지 않았다. 이를 타결하기 위한 방법으로 1952년 3월 문부성 조사보급국(調査普及局) 내에 한자학습지도연구회를 설치하고 한자를 학년별로 어떻게 배당할 것인가에 대해서 조사하기 시작했다. 국정제에서 검정제로 바뀐 교과서 간의 통일을 위해서라도 필요한 사항이었다.

도쿄에서의 예비 조사 및 전국의 샘플교(이바라키, 야마나시, 에히메)에서의 테스트 조사를 통해 교육한자 881자를 소학교(초등교육과정)에서 모두 가르치기로 결정하고 학년별 배당한자표를 완성했다. 그 결과 1학년 46자, 2학년 105자, 3학년 187자, 4학년 205자, 5학년 194자, 6학년 144자가 완성되었다. 지금까지 이른바 ‘초출(初出)한자’를 어떻게 제시할 것인가에 대한 기준이 없었던 것을 수정해 각 학년별로 한자학습의 가이드라인이 만들어졌다고 할 수 있다.

이러한 교육한자 즉 학년별 배당한자는 1958년에 만들어진 학습지도요령의 개정에서 받아들여져 3년 후인 1961년부터 시행되었다. 이로써 당용한자표의 1850자 중 881자는 소학교 과정에서 남은 969자는 중학교 과정에서 학습하는 것으로 정리되었다.

그런데 앞서 본 것과 같이 당용한자표와 당용한자별표를 제정할 당시의 가장 큰 취지는 국민의 생활능률을 올리는 것과 의무교육 기간 중 한자학습의 부담을 가볍게 하는 것이었다. 그럼에도 불구하고 1958년의 초중등과정 9년간에 학습하던 881자를 초등과정 6년으로 기한을 줄인 것은 명백히 당초의 한자제한의 취지에서 벗어났다고 할 수 있다.

3.2 확대의 시작

이후 교육한자는 다시 확장된다. 1968년의 학습지도요령 개정에서 무려 115자의 한자가 ‘비고한자(備考漢子)’라는 이름으로 추가된다. 그 상세는 아래와 같다.

域宇羽映浴灰街閣割干卷看簡丸危机揮弓吸泣胸鄉筋徑警劇穴源呼好紅降鋼刻骨困砂座裁冊矢姿誌磁射捨尺若樹
縱縮熟署將笑傷障城蒸針垂寸染洗泉奏窓層操臟宅担探段暖值仲宙庁兆頂潮痛糖乳腦肺背俳班晚批秘腹閉片宝訪
亡忘棒枚幕密模郵優幼羊翌乱卵覽裏閑

위의 한자들은 1948년 교육한자 제정 후 이제껏 소학교 과정 중에 배우지 않던 것이었으나 1971년부터는 정식은 아니지만 비고한자라는 이름으로 들어가게 되면서 실질적으로는 교육한자로서 편입되게 된다.

왜 그럼 이 시기에 전체 881자의 약 13%에 해당하는 115자나 확장하게 되었을까? 이 배경에는 일본의 국어정책의 대전환이 시작된 1966년 6월 당시 나카무라 우메키치(中村梅吉) 문부대신의 국어심의회 총회에서 다음과

같은 사항을 피력했다. 구체적으로는 ‘국어시책 개선의 구체책에 관하여’라고 하는 것으로 여기에서는 ‘검토해야만 하는 문제점’에 대해 언급하고 있는데 정리하면 아래와 같다¹⁵⁾.

1. 당용한자에 관하여 : 당용한자표, 동별표의 취급 및 한자의 자종 선정방침 및 현행 자종에 관하여
2. 당용한자음훈에 관하여 : 음훈정리의 방침 및 취사선택에 관하여
3. 자체에 관하여 : 자체 표준방침 및 각 자체의 표준에 관하여
4. 오쿠리가나(한자 뒤에 덧붙이는 가나)에 관하여 : 그 방침과 내용에 관하여
5. 현대 가나표기법에 관하여 : 내용상의 문제점에 관하여
6. 기타 관련사항에 관하여

국어심의회에 대한 나카무라 문부대신의 자문요구는 2차 대전 이후의 각종 변화를 가져온 국어정책의 일대 전환을 알리는 것이었다. 당연히 교육한자에도 그 영향은 미쳤고 이것이 68년의 학습지도요령에서 무려 비고한자라는 이름으로 무려 115자를 소학교 과정에 배당하는 것으로 이어졌다.

3.3 1026자로의 확대

다음의 학습지도요령이 개정되던 1977년에는 1968년 비고한자의 이름으로 들어있던 115자가 정식으로 학년별 배당한자로서 편입되게 된다. 그 결과 이전까지 지금까지 1-6년 간 46, 105, 187, 205, 194, 144였던 것이 76, 145, 195, 195, 190으로 대폭상승하게 된다. 특히 1, 2학년 과정에서는 한자수가 각각 30, 40자 증가하게 되면서 저학년 과정에서의 한자학습 부담은 늘었다고 할 수 있다. 전체적으로 보면 총 996자 중 315자가 이동했는데 대부분 한 학년 아래에서 읽기만을 다루었던 한자에 대해 쓰기까지 익히는 것을 조건으로 학년을 낮추어 적용한 것이다.

1989년의 학습지도요령에서는 10자가 늘어나면서 드디어 1000자를 넘어 1006자로 재편되었다. 총 60자에 대해 학년을 이동시켰고, 교육한자 성립 후 최초로 10자 삭제되며 새롭게 20자를 추가시켰다. 추가 및 삭제 한자는 아래와 같다.

豆、皿、梅、松、桜、枝、札、箱、笛、東、昔、巢、夢、飼、並、暮、誕、激、裴、盛 (추가 총 20자)
壺、式、歛、勸、兼、釈、需、称、是、俗 (삭제 총 10자)

이 시기 전에는 1946년부터 계속되어 온 당용한자표가 1981년 상용한자표로 바뀌는 변화가 있었다. 상용한자표에는 이전에 비해 총 95자의 한자가 늘었는데 이 추가된 한자 중 1989년의 교육한자 개정에 반영된 글자는 한 글자도 없었다. 이러한 것을 보면 적어도 소학교 과정에 있어서 기존의 당용한자표 내지 상용한자표의 범주를 넘는 글자를 새롭게 추가할 필요성은 없었다는 것을 알 수 있다. 즉 기존의 당용한자표 1850자라고 하는 제한된 한자 안에서 배치를 달리 하는 것으로 충분하다고 하는 말로 이해할 수 있을 것이다.

1989년 1006자로 확장된 이후 큰 변화를 보이지 않았던 교육한자는 2017년 또 한 번 확장된다. 아래의 20자가 그것이다.

茨、媛、熊、埼、鹿、栃、奈、梨、阪、阜 : 2010년 상용한자로 추가됨
潟、岐、香、佐、崎、滋、繩、井、沖 : 기존의 상용한자

이 20자 추가의 배경에는 2010년에 있었던 상용한자표의 개정작업이 있었다. 1981년 상용한자표 제정 이후

15) 원문 https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318532.htm (2021년 4월 27일 검색)

줄곧 1945자를 지켜오던 것이 2010년 무려 191자가 늘면서 2136자로 대폭 확장되었다.¹⁶⁾ 1946년의 당용한자표부터 생각하면 총 286자가 늘어난 것이다. 앞서 확인한 바와 같이 당용한자표 제정의 이유에는 국민의 생활능률을 올리고 문화수준을 높이기 위함이었는데 약 64년이 지난 시점에서는 제한의 폭을 줄이는 것이 오히려 낫다고 판단한 것이다.

<표3 김정제 시기 초등학교 학년별 배당한자수의 추이>¹⁷⁾

	실시년도	1년	2년	3년	4년	5년	6년	합계
소학교 학습지도요령	1961년	46	105	187	205	194	144	881
소학교 학습지도요령	1971년	46	105	187	205	194	144	881
		76	145	195	195	195	190	996
소학교 학습지도요령	1980년	76	145	195	195	195	190	996
소학교 학습지도요령	1992년	80	160	200	200	185	181	1006
소학교 학습지도요령	2020년	80	160	200	202	193	191	1026

*학습지도요령은 작성 후 3년 후에 실시되었다. 또 1971년 실시는 상단이 학년별 배당한자수이고, 하단은 이른바 비교한자로 불렸던 읽기용 한자의 수이다.

4. 마치며

한자를 표기의 수단으로 삼고 있고 의무교육 제도를 운영하는 일본에 있어서 교육과정 속에 어느 수준의 한자를 언제 가르칠 것인가 하는 것은 대단히 중요한 문제일 것이다¹⁸⁾. 자형(字型)의 학습에 더불어 그와 관련되는 음과 훈의 학습이야말로 단순한 국어학습을 넘어 이른바 문해력으로 이어지는 기초과정이라 할 수 있다¹⁹⁾.

앞서 살펴본 바와 같이 1946년 11월 실시된 당용한자표에 의해 한자 제한정책이 실시되었고 그것의 후속조치로서 의무교육 과정 중에 배워야 하는 한자 즉 교육한자가 당용한자별표라는 이름으로 정리되었다. 이후 몇 번의 확대를 거쳐 현재에는 총 1026자가 소학교 과정 6년간에 걸쳐 배당되고 있다.

원래 1948년에 881자로 시작된 교육한자는 그로부터 71년 후인 2017년에는 1026자로 확장되었다. 1948년에 시행된 일본인의 읽고 쓰기 능력조사에서 보인 한자쓰기의 평균점이 58.3점에 불과했던 것에서도 알 수 있듯이 한자쓰기에 대해 일본인들이 느끼는 부담감은 결코 적다고 할 수 없을 것이다²⁰⁾. 그럼에도 불구하고 문부성은 계속적으로 소학교 과정에서의 한자수를 늘려왔다. 이것이 과연 바람직한 방향이라고 할 수 있을 것인가에 대해서는 여전히 미지수이다. 교육한자의 제정에서부터 현재에 이르기까지의 과정을 통시적으로 고찰해 보면 앞으

16) 엄밀히 이야기하면 196자의 추가, 5자의 삭제가 있었다. 새로 추가하는 한자에 대해서는 그 선정기준을 아래와 같이 밝히고 있다.

1. 출현빈도가 높고 조어력(숙어의 구성능력)도 높다. 음과 훈 양쪽 모두로 사용되는 것을 우선한다.
2. ‘한자가나 섞어쓰기’의 ‘읽기 효율성’을 높인다. 출현빈도가 높은 자를 기본으로 하지만 그다지 높지 않더라도 한자로 표기하는 편이 알기 쉬운 자
3. 고유명사의 예외로서 넣는다. 광역지방자치단체명 및 그것에 준하는 것들
4. 사회생활상 자주 쓰이고 필요하다고 인정된다. 서적 및 신문에서의 출현빈도가 낮더라도 필요한 자

17) 国立国語研究所, 『常用漢字の習得と指導』, 東京書籍, 1994, p.10

18) 小林(1978)에 의하면 신문과 잡지에서 쓰이는 한자의 사용도수분포를 조사한 결과 상위 500자가 신문에서 79.4%, 잡지에서 74.5%였고, 또 상위 1000자가 차지하는 비중이 신문에서는 93.9%, 잡지에서는 90%였다.

小林一仁, 「『教育漢字』再検討ノート」, 『文芸言語研究 言語編』第二号, 筑波大学 文芸・言語学系, 1978, p.143

19) 문해력과 관련해 일본 문부성은 1964년 유네스코의 조사에 대해 일본은 문맹 문제는 완전히 해결되었다고 밝히며, 현재에 있어서 식자(識字)능력을 높이기 위한 특별한 시책을 취할 필요는 전혀 없다고 답변한 바 있다.

平沢安政, 「識字運動における国際連帯に向けて」, 『部落解放研究』, 部落解放研究所第 33号, 1983, pp.11-12

20) 일본인의 읽고 쓰기 능력조사에 관한 자세한 사항은 구명회(2020)A을 참고하기 바란다.

로도 충분히 더 추가될 여지는 있다고 여겨진다. 물론 거기에는 상용한자표의 개정이 조건이 될 것이다.

1930년대 독자적 조사를 통해 ‘한자 300자 제한론’을 주창한 오카자키 쓰네타로(岡崎常太郎)의 주장이 나름대로의 충분한 설득력을 지니지 않는가 하는 생각이 들 정도이다²¹⁾. 앞으로는 이번의 연구를 바탕으로 교육한자 및 상용한자의 증가를 2차 대전 후에 실시된 읽고 쓰기 능력조사와 연관시켜 살펴보고자 한다.

<参考文献>

구명회A, 「日本人の読み書き能力調査事業」について—1948年調査事業を中心に—, 『건지인문학』 제28권, 전북대학교 인문학연구소, 2020

구명회B, 「国民の読み書き能力調査事業」について -高等学校調査を中心に-, 『일본문화연구』 제77호, 동아시아일본학회, 2020

박세진, 「韓·日 初等学校の漢字教育 比較研究」, 『한문고전연구』 18집, 2009

백동선, 「日本の新常用漢字の構成과 韓国の教育漢字」 『일본학보』 101집, 한국일본학회, 2014

송영빈, 「일본에서의 한자교육 - 초등학교를 중심으로-」, 『국어교육학연구』 40집, 국어교육학회, 2011

阿辻哲次, 『戦後日本漢字史』, 新潮選書, 2010, pp.1-270

岡崎 裕剛, 「新しい「教育漢字」の理解度について」, 『神戸女子大学教職課程研究』, 第2号, 2019

甲斐睦朗, 『終戦直後の国語国字問題』, 明治書院, 2011, pp.1-404

北尾 倫彦他, 「教育漢字881字の具体性, 象形性および熟知性」, 『心理学研究』 第48卷第2号, 1977

栗田克美, 「公立夜間中学の諸問題—歴史、現状、課題」, 『北海道大学大学院教育学研究科紀要』 第83号, 北海道大学大学院, 2001

国立国語研究所, 『常用漢字の習得と指導』, 東京書籍, 1994

小林一仁, 「「教育漢字」再検討ノート」, 『文芸言語研究 言語編』 第二号, 筑波大学文芸・言語学系, 1978

周東清芳, 「常用漢字表字体考(一): 学習漢字(教育漢字)について(2)」, 『上田女子短期大学紀要』 第18号, 1995

竹部良明, 「国語国字問題の由来」, 『国語国字問題』, 岩波書店, 1977, pp.1-308

丹保健一, 「学年別漢字配当表の字種選定をめぐって: 頻度下位10字種を中心に」, 『三重大学教育学部研究紀要 自然科学・人文科学・社会科学・教育科学』 第65号, 三重大学教育学部, 2014

平井昌夫, 『国語国字問題の歴史』, 三元社, 1998

平沢安政, 「識字運動における国際連帯に向けて」, 『部落解放研究』, 部落解放研究所第33号, 1983

藤山智子, 「中国人学生を対象とする漢字教育—漢字の何を教えるか」, 『長崎大学留学生センター紀要』 第10号, 2002

21) 오카자키 쓰네타로의 한자 300자 제한론에 관해서는 구명회(2020)B를 참고하기 바란다.

학습자 다양화를 위한 교수자의 역할

- 일문과 시각장애 대학생 사례 연구-

신은진 (인천대학교)

1. 들어가며

본 연구 전체의 궁극적인 목표는 고등교육기관의 현장 참가자가 서로의 다양성을 이해하고 수용하기 위한 공감대를 형성하여 “다양성 교육”에 대한 시사점을 얻고 교육 현장 참가자의 공생, 상생의 방법을 모색하고자 하는 것이다.

한때 ‘소통’과 ‘교류’로 세계화를 주장하던 외국어 교육이념이 점차 서로의 다름을 이해하고 그대로를 인정하는 이문화, 다문화의 ‘수용’과 ‘이해’로 전개되었고, 이제는 다양성 교육에 대한 요구가 대두되고 있다. 세계화, 다문화화를 거치며 사회 구성원 개개인의 다양한 연령, 국적, 젠더, 장애 등이 당연시되기 시작하고 있고, 다양한 배경을 가진 구성원이 모여서 협업, 협동하는 사회가 교육 현장에서 추구하는 이상적인 사회상, 필요한 인재상이 되고 있는 것이다.

이에 본 연구에서는 학습자의 다양화가 진행되고 있는 국립대학교 교육 현장에서 다양한 배경의 학습자를 수용하고 지원하기 위한 방법과 역할을 교수자 입장에서 모색해 보고자 한다. 특히 우선 연구의 출발점으로 21학년도 입학생인 시각 장애 대학생의 적응 과정과 일본어 학습에 초점을 맞추고, 장애 대학생의 수용 과정과 절차, 적응 지원을 위한 교수자의 역할에 대하여 생각해 보고자 한다.

2. 선행연구

대학교 일본어 교육 현장에서 비장애인인 교수자가 장애 대학생인 학습자를 어떻게 수용하고 지원할 것인가에 대한 논의는 교육복지(이태수,오유정2015), 학습 및 생활 환경 정비(김형우,권오정 2012), 적응과정 및 타대학생과의 관계 형성과 인식 개선(강혜경외2011, 박재국2008, 박미화2014), 학습 도구 개발(손지영,염명숙2016) 등에 비해 그리 활발하지는 않다.

그러나 학습자의 다양성이 확대되어가는 현실 속에서 교수자의 이해와 수용, 배려가 기본적으로 충족되지 않는다면 이들의 기본적인 권리인 학습권을 보장하기 어려울 것이다. 특히 코로나 19로 인한 온라인교육으로 현장의 패러다임이 더욱 시청각 중심으로 변화하는 대학교 교육 현장에서 청각 장애 대학생, 시각 장애 대학생이 비장애인 대학생과 같이 학습 할 수 있는 환경을 구현하기 위해서는 더욱 그러하다.

김현희(2016, 2018)는 시각 장애 학생의 일본어 학습 의식을 조사하고 학습 실태를 규명한 선도적인 연구이다. 시각장애 학습자들이 ‘일본어’를 정규 과목으로 학습한다는 사실과 일본어 학습 방법과 기능별 학습 난이도, 일본 점자 학습, 일본 문화와 일본어 학습에 대한 시각 장애 학생들의 관심과 학습 욕구 등에 대하여 알리고 일본어교육 지원 및 개선을 위한 구체적인 방안이 필요하다고 하고 있다.

현선령(2020:538)에 의하면 일본어 수업의 경우 발음, 문자, 문법, 회화, 독해 등 시각과 청각으로 보고, 듣고, 받음하면서 실력을 향상시켜야 그 효과성이 높게 나타난다. 하지만 청각 장애 학생들의 경우 정확한 발음과 듣기가 불가능하고, 수업에서 PPT나 판서 등과 동시에 제공되는 교수자의 음성 설명 또한 시각적 정보로 받아들여야 하는 어려움이 있다.

반면에 시각 장애 학생의 경우에는 PPT나 판서, 동영상 및 기타 시각 자료로 제시되는 모든 수업자료를 거의 음성에만 의존해서 이해하고 받아들여야 한다. 최선경(2018:37)에서도 「“시력 손상”이 주는 기능상의 어려움은 단순히 점자도서나 녹음도서 그리고 확대 문자자료와 낭독봉사 등의 환경지원만으로는 부족하며, 그 이상의 맥락에서 접근해야 할 문제로 확장된다. 그러나 이를 지원할 수 있는 방법과 종류에 대한 지식과 공유가 많은부분 부족한 실정이다. 결과적으로 시각장애인이 대학에 입학하는 동시에 겪게 되는 어려움은 고스란히 장애인 개인의 몫이 된다」라고 하고 있다.

특히 현재 코로나19로 대학교 수업이 전면 온라인에 가까운 형태로 진행되고 있다는 점을 고려하면 시각 장애 대학생을 지원할 수 있는 교수-학습 지원 매체 개발 및 지원도 중요하지만 장애 대학생을 향한 교수자의 인식 개선과 보다 적극적인 다양성 교육이 필요하다고 생각한다.

3. 조사개요

3.1 연구 배경

2021학년도 1학기에 국립I대학교 일어일문학과에 신입생으로 전맹 학생이 들어오게 되었다. 교수진은 물론 학교측도 어학 과목 전공으로 시각 장애 그것도 전맹 학생이 입학하는 것은 예기치 못한 사태였기에 수용과 지원을 위한 방법을 서둘러 모색할 필요가 있었다. 또한, 일어일문학과와 모든 수업이 코로나19의 영향으로 전체가 온라인으로 진행되고 있는 상황에서 시각 장애만으로도 이미 교수 학습에 엄청난 곤란이 예상되는 가운데, 대학 부설 장애지원센터의 교직원으로부터 ‘시각 장애 정도는 전맹이고 더불어 다소의 인지 장애를 동반한다’라는 연락을 받은 순간부터 “어학 교수자로서 무엇을 어떻게 할 것인가”라는 고민이 시작되었다.

3.2 조사 협력자

조사협력자 J는 2002년 출생 남학생으로 서울맹학교 졸업생이며 국립I대학교에 특수교육대상자전형(정원외)로 입학하였다. 서울 자택과 대학교 간의 이동 및 생활 전반에 관한 지원은 모친이 전담하고 있으며 현재 7과목²²⁾을 수강하고 있다.

일본어 교수 학습에 관하여는 서울맹학교 재학 당시 전맹인 교사로부터 일본어를 교수받았고 당시 교재는 점자로 된 『일본어1』(미래엔)이었다고 한다. 교수 방법은 음성에 의존하고 있으며 일본 점자로 히라가나와 가타카나를 익혔다. 또한 개인적으로 흥미가 있어서 유튜브로 일본 노래를 듣거나 애니메이션(주로 ‘짱구는 못말려’)를 보기도 했다고 한다.

현재 J는 집에 있는 노트북으로 온라인 수업을 수강하고 있으며 모친이 옆에서 실질적인 학습 지원을 담당하고 있다. 대학교(장애지원센터) 측에서 도우미 학생 2명을 붙여주었으나 온라인 수업인 관계로 실질적인 도움을 주기는 어려운 상황이다(‘일본어입문’의 경우에는 복지관에 교재를 맡겨 점자화를 의뢰하였고 도우미 학생에게는 교과서를 낭독하여 사전에 음성 파일을 J에게 전달하도록 하고 있다. 또한 ‘기초일본어

22) 글쓰기 이론과 실제(교양 필수), 현대사회와 인성(교양선택), 문학으로 만나보는 조선의 역사(교양선택), 자기설계세미나(전공기초), 일본어입문(전공기초), 일본문화콘텐츠입문(전공필수), 기초일본어회화(전공선택).

회화'는 실시간 온라인 수업인 관계로 도우미 학생이 함께 참여하여 자막 기능을 이용해 수업 내용을 화면상으로 전달하면 모친이 J에게 다시 전달하는 식으로 학습 지원이 이루어지고 있다).

또한 J는 복지관에서 대여해준 시각장애인 IT 보조기기인 점자정보단말기²³⁾ '한소네'를 사용하고 있는데, 버전이 오래된 기계라 한글밖에 대응이 안되고 수시로 에러가 나서, 국립대학교 장애지원센터에서도 대여 지원이 가능하다는 말을 듣고 새 버전의 '한소네'를 받았다. 다만 기계 자체의 언어구성을 확정해야 하는데 새 버전을 일본어로 사용하는 경우 기존의 한글 파일을 읽을 수 없게 되어 고민이라고 한다(현재는 2대를 사용하여 한글 파일과 일본어 파일을 따로따로 읽고 사용하는 중).

3.3 조사 방법

본 연구의 조사는 시각 장애 대학생의 일본어 학습과 지원에 초점을 맞추어 문헌조사, 인터뷰 조사, 참여관찰 조사, 내성 조사의 4가지 방법을 사용하여 추진하고 있다. 본 연구는 이제 막 시작 단계에 있으므로 아직 구체적인 성과를 제시하지 못하나 이하에 현재 진행중에 있는 관찰기록과 내성 기록에 관하여 발표하고자 한다.

4. 경과보고

4.1 관찰기록

본 연구의 관찰조사는 크게 수업 참여 관찰조사와 면담 관찰조사로 나눌 수 있다. 현재 '일본어입문'과목 담당자인 교수자와 연계하며 일본어 교수 학습 지원책을 모색하고 있는데 수업이 시행되는 월요일 오후가 교양수업으로 J가 학교에 등교하는 날이기도 하여 수업 후 따로 자리를 만들어 오프라인으로 면담을 시행하고 있다. 구체적으로는 담당 교수자가 J에게 수업 내용을 확인하고 어려운 점 등을 묻고 도우미와 연계하며 교재 준비, 내용 확인, 반복 연습 등을 하는 과정이다.

4.2 내성 기록

관찰기록과 더불어 J의 대답, 반응을 보며 느낀 점과 알게된 상황 등을 교수자 기록으로 만들어 보존하고 내용을 주제별로 분류하는 작업을 하고 있다. 예를 들어 처음 J와 대면했을 때의 감상, 모친의 경험담에서 받은 인상, 주변 관계자의 반응, 입학과 조사협력자 자신이 말한 입학과 진학에 대한 생각, 일본어 학습과 관련한 문제들 등을 키워드로 분류하여 정리하고 있다.

5. 나가며

본 발표에서는 시각 장애(전맹) 대학생의 일어일본학과 입학을 계기로 생각하게 된 학습자의 다양화를 어학교수자의 입장에서 일본어 교수 학습이라는 틀로 생각해보고 다양성을 수용하고 지원하는 과정의 일부를 소개하였다. 앞으로 연구 조사가 진행되면 장애 대학생의 수용 과정과 절차, 적응 지원을 위한 교수자의 역할에 대하여 보다 구체적인 제언이 가능하리라 생각한다.

<参考文献>

교육과학기술부(2005) 『2005년도 대학 장애학생 교육복지 지원실태 평가 보고서』, 교육과

23) 점자를 일반 문자로 변환시켜주는 기계로 16개국 언어에 대응된다고 하고 있으나 언어간 변환은 어렵다고 한다(즉, 점자-단일 언어사용은 변환 가능하나 점자-일본어 한국어 혼합문으로는 변환이 어려움).

학기술부.

- _____ (2011) 『2011년도 장애대학생 교육복지 지원실태 평가결과』, 교육과학기술부.
- 교육인적자원부(2005) 『대학 장애학생 교수-학습지원편람 개발 연구』, 교육인적자원부.
- 국립특수교육원(2010) 『특수교육백서』, 국립특수교육원.
- _____ (2011) 『특수교육실태조사』, 국립특수교육원.
- 류재연 외(2009) 『특수교육의 이해』 서울: 시그마프레스, pp.234-252.
- 박미화(2014) 「장애대학생의 생활스트레스, 자기효능감과 대학생활 적응과의 관계」 『특수교육학연구』, 49(1), 한국특수교육학회, pp.241-262
- 김성숙(2010) 『시각 및 청각장애 대학생의 교양영어 강좌에 대한 만족도 연구』 대구대학교 대학원 석사학위논문.
- 김현희(2016) 「한국인 시각장애 대학생의 일본어학습에 대한 의식 및 실태 연구」 『일본어문화』 37, 한국일본어문화학회, pp.179-202.
- _____ (2018) 「한국 시각장애학교의 일본어교육 실태 연구-시각장애학교의 중·고등부일본어학습자를대상으로」 『일본어교육연구』 43, 한국일본어교육학회, pp.63-78.
- 김형우, 권오정 (2012) 「시각장애학생의 대학 기숙사 내 생활행위특성」 『한국주거학회 학술대회논문집』, pp.165-170.
- 손지영,염명숙(2016) 「시각 및 청각장애 대학생의 오픈코스웨어(OCW) 사용성 평가」 『재활복지공학학회논문지』 10(2), pp.127-132
- 이태수,오유정(2015) 「대학의 장애대학생 교육복지 지원 실태 비교 분석」 『통합교육연구』 10(1), 한국통합교육학회, pp.57-77.
- 이효자,이정현,홍성두(2011) 「대학에서의 교수·학습지원권에 대한 장애 대학생의인식조사: 시각·청각·지체장애 학생들을 중심으로」 『통합교육연구』 6(1), 한국통합교육학회, pp.25-43.
- 정정진(2004) 「대학장애학생 교육지원 실태 및 개선방안」 『특수교육학연구』 39(3), 한국특수교육학회, pp.1-23.
- 최선경(2018) 「1학년 시각장애대학생의 대학진학의 의미와 학교생활 경험에 관한 현상학 연구:휴학의 기로에서」 『한국콘텐츠학회논문지』 18(8), 한국콘텐츠학회,p p.36-50
- 현선령(2020) 「청각장애학생의 기능어 활용능력 향상을 위한그래픽디자인 기반 일본어 문법보조교재 개발 - 조사(助詞) 활용을 중심으로-」 『한국디자인문화학회지』 26(1), 한국디자인문화학회, pp.538-545.

「際」はどんなときに現れるのか —BCCWJを用いて—

趙恩英 (釜山外国語大学校)

1. はじめに

本発表は、トキを表す「際」について、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese : (以下、BCCWJと称する)』を用い、「際」の前の語彙に注目し、分析を行い、「際」が現れる状況を明らかにすることを目的とする。

日本語教育において、類義語についての指導は難しいとよく指摘され、類義語の特徴を明らかにするため、類義語を比較・分析する方法が採択されてきた。特に、時間を表す表現(副詞)について、多様な観点で研究が行われた²⁴⁾。

本発表では、「時」の類似表現だと言われている「際」について、「時」は検討の対象とせず、「際」だけをピックアップして考察を行う。コーパスの用例を用いるが、一つの表現のみを分析することで、意味のある結果が出るのかを試みる。用例の検討は、探索的な方法で「際」の現れるトキについて考察する。

2. 先行研究と調査方法

これまで、「際」のみに焦点を当て、研究を行ったものは管見のかぎりない。「際」と類似している「時(に)」については、研究が行ってきた。辞典の記述でも「際」は「時(に)」を取り扱う際、「折」と共に提示するだけである。

最近、類似している副詞や名詞、動詞などに関する研究にコーパスが用いられているが、これらのほとんどは、二つや三つの類義語(又は類似している表現)を研究対象にし、その共通点と相違点を明らかにするものが多かった。本発表では、「際」のみを検討対象にし、BCCWJのジャンルに出現する傾向を通し、「際」の使用条件について考察する。

まず、「際」の辞典での記述を確認すると、『基礎日本語辞典』では以下のように記述されている。

「際」は山と山との合わさりめ。転じて、事柄との出会いを言う。「際する/際して」と動詞化して、“ちょうどそのときに行き合う” “ある出来事に出くわす” 意となる。さらに、「この際、何も彼もお話してしましましょう」「非常の際」「今度お会いする際には…」 「帰国の際、友人に預ける」など、「とき」の意で用いられても、やはり、“ある特別な事態に出会って、それに対処し、うまく処理する” 気持が伴う。したがって、「際」に続く後件は意志的な事柄であって、「帰省の折に偶然、小学校時代の先生に会った」のような無意志的な例は「際」には言い換えることができない。積極的に機会に対処する話し手の意志が表れるから、単なる事態の成立する“時”、“『私』と言ったとき、女は顔を半分ほど三四郎の方へ向けた”のような例は「際」では表せない。(『基礎日本語辞典』 p.792)

この記述から、「際」の後件は意志的な事柄であることが分かる。また、『日本語文型辞典』での記述では、

①お帰りのさいは、お忘れ物のないう、お気をつけください。②先日京都へ行った際、小学校の時の同級生を

24) 「やっと」「ようやく」を分析した趙(2015)、「ついに」「とうとう」を分析した趙(2014)などがある。

たずねた。③このさい、おもいきって家族みんなでスペインにひっこさない？(4)国際会議を本県で開催される際には、次回はぜひとも我が市の施設をお使いくださいよう、市長としてお願い申し上げます。

「とき」と言いかえられることが多いが、「とき」と異なる点は、(1)「とき」よりかたい言い方である(2)機会・チャンス・きっかけなどの意味が加わる(3)否定形に付くことがすくない。などである。また、③の「このさい」という表現は、何かをきっかけとしておもいきって決断するときに使う慣用表現で、「とき」と言いかえることができない。(『日本語文型辞典』pp.125-126)と述べられている。

「際」は、「とき」よりかたい言い方であり、機会、チャンス、きっかけの意味が加わり、否定形に付くことが少ないとし、「このさい」という表現は慣用表現であると記述されている。

以上から「際」の文体的な特徴と意味・用法について分かるものの、ジャンルごとに使われる「際」の傾向や、慣用表現はどのくらいの比率で現れるのか疑問である。

そこで、本発表では、BCCWJを用い、すべてのジャンルにおける「際」を10年ごと²⁵⁾に抽出し、検討する。『中納言』に「際」を検索語として入力し、出版年度を1978、1988、1998、2008に設定し、検索を行った。抽出された「際」は、2067件であったが、用例の中には「際立つ」「打波際」などが入っていたため、用例すべてに目を通し、(1)(2)(3)(4)のような例97件を除外し、検討対象の用例は、1970件となった。

- (1)この日も平日にもかかわらず、大勢の撮影者が集まっています。こういう場所に来るとすぐに線路際に行きたくなりますが線路と同じ目線になると桜が列車に隠れてしまうので少し上から撮影するのが個人的にはオススメです。(OY15_23231)
- (2)昨日も神事が執り行なわれていた。年間予定表によれば、昨日は「入学感謝際」とある。(OY15_22287)
- (3)バーの中にはマッチョな男性がいっぱい！！広いバーの奥の窓から海の波打ち際を撮りました！(OY14_22911)
- (4)際に立って上から写真を撮ってみました。(OY03_10306)

3. 調査の結果

「際」の出現頻度は以下の〈表1〉のようにまとめられる。

〈表1〉「際」の出現傾向について

ジャンル	出現頻度
図書館・書籍	200
特定目的・ブログ	876
特定目的・ベストセラー	45
特定目的・広報紙	570
特定目的・国会会議録	195
特定目的・白書	63
特定目的・法律	21
合計	1970

以下、節に分け、「際」が現れる状況について述べるが、その前、『日本語文型辞典』で言及している「否定形に付くことが少ない」という記述について検討する。今回の調査において、「否定形」に付くものは「若い頃、私には〈絶対音感〉というものが身についていた。これは移調しなくてはならない際に、私にとっては有利というよりもむしろ障害となった。(OB5X_00254)」の1件の用例しか現れなかった。このことから、「際」は、否定形に付くことが「非常に」少ない(1970件に1件程度現れる)ことが分かった。

25) 10年ごとに抽出はしたものの、今回の発表では、時間の変化による出現傾向について考察することはできなかった。今後の課題にしたい。

3.1 「この際」と「その際」の出現について

『基礎日本語辞典』では、「この際」を言及しており、『日本語文型辞典』においても「このさい」について決断するときを使う慣用表現と指摘している。今回の調査の結果では、「この際」が189件(総出現の9.59%)現れ、「その際」は200件(10.15%)現れた。比率に差はあまりなく、「この際」と同様に「その際」が使われていることは今回の調査で分かった。例(5)(6)は、「この際」「その際」の実際例である。

(5)政府委員なるべく早く結論は出したいと思っておりますが、ただ、先ほど申しましたポイントの中でも、今後解決を要すべき点がまだ相当ございます。したがって、いつまでということをおうこの際申し上げますのは非常にむずかしいと思うのですが、前向きな姿勢でこの問題を解決して～(OM11_00012)

(6)なお、4月十一日(金)以降は、旧取手市地区の方は市役所国保年金課、旧藤代町地区の方は藤代庁舎藤代総合窓口課で受け取ってください。その際は、身分が確認できるものと印鑑をご持参ください。(OP14_00002)

「この際」と「その際」の出現をジャンル²⁶⁾別に検討すると、まず、「この際」の場合、「図書館・書籍」に21件、「特定目的・ブログ」に66件、「特例目的・ベストセラー」に7件、「特定目的・国会会議録」に94件、「特定目的・白書」に1件が現れた。一方、「その際」の場合、「図書館・書籍」に32件、「特定目的・ブログ」に81件、「特例目的・ベストセラー」に5件、「特定目的・広報紙」に39件、「特定目的・国会会議録」に35件、「特定目的・白書」に9件現れている。

このことから、「この際」は「国会会議録」に「その際」より多く現れることが分かった。興味深いのは「その際」は「この際」が1件も見られなかった「特定目的・広報紙」に多く現れたことである²⁷⁾。

3.2 敬語表現が使われている文に現れる「際」について

「際」が現れる文章のうち、敬語表現が見られたのは、127件である。固有語と漢字語で分けてみると、固有語は75件、漢字語は52件である。固有語の場合、1件のみ「図書館・書籍」に現れ、49件は「特定目的・ブログ」に、25件は「特定目的・広報紙」に現れた。「際」に前接する表現は、(7)(8)以外に、「お帰りの」「お電話の」「お越しの」「お出掛けの」「お立ちよりの」「お問い合わせの」「お手続きの」「お待ちいただいた」「お話をした」などが現れた。一方、漢字語の場合、1件のみ「特定目的・ベストセラー」に現れており、25件は「特定目的・ブログ」に、27件は「特定目的・広報紙」に現れている。「際」の前接には、(9)(10)以外に「ご利用の」「ご入場の」「ご乗車の」「ご応募の」などが現れた。

(7)※場所については、名桜大額・北部生涯学習推進センターです。詳しくはお申し込みの際にご確認ください。

(OY03_07731)

(8)もっと言えば、最近のオイラは、六本木ヒルズ周辺で飲む際には中華茶房8となっており嫁も含めた飲み会でお世話になった際には、いたくお気に入りの様子でした。(OY03_07892)

(9)石川県では、二千八年6月より、自動販売機でのたばこ購入の際に、たばこ専用のICカード(タスポ)が必要になります。(OP48_00003)

(10)ご来庁の際は、公共交通機関をご利用ください。(OP67_00003)

「特定目的・広報紙」の目的は、広告をすることなので、敬語表現で書かれることは当然なことと理解できる。しかし、「特定目的・ブログ」は、自分の日常の話をしたり、ある情報を共有したりする個人的な媒体と考えられがちだが、意外に宣伝や案内をしている媒体であることが今回の調査で分かった。

3.3 「際」が現れるトキについて

「際」が現れるトキはどんな状況なのかについて考察する。3.2とも関係するが、ある特定の場所に移動するトキや、何

26)ジャンルとは、レジスターのことである。

27)この二つの結果についての考察は学会で発表する。

かをするときに「際」は現れる。具体的に(11)「建設」「新築・増築」「創建」のように何かを建てるとき、(12)「工事」「修復」「大改修」のように壊れたものをもとに戻すとき、(13)の免許の「申請・許可」、証明書の「発行」、法案・予算の「審議」、法律の「交付」、法律の「施行」、予算の「編成」など法律や予算に関係する事態のときに使われる。また、(14)「地震」「災害」「除雪・排雪」「雨天・荒天」「大雨」「水害」「干潮」「噴火」のように自然現象を表すとき、(15)「火事」「窒息死」「飢饉」「殺人・殺害・絞殺・射殺」「遭難・避難・海難」「食糧難」「(石油)危機」「事件」「放射線漏れ」「サリン事件」「破産」「失業する」のように否定的な状況に現れた。さらに、(16)「敗戦」「降伏」「合戦」「湾岸戦争」「攻撃」「夷反乱」「征伐」のように戦争のときに現れた。特に、移動の意を含めている表現、(17)「来航」「来日」「訪問・訪中・訪ソ・訪台」「出京」「移動・移転・移る・移行」「山へ登る」「出張に出かける」「外出」「部屋の出入り」「(実家・彼を)訪れる」「引っ越し」「来る・来場」「立ち寄り」「通勤・通行・通過する」「散歩・歩き」「学校に通う」「入館・入居・入国する・入る」「転勤・転職・離職」「帰宅・帰国・帰省・帰る」「上京」「渡る」「向かう」「逃げる」「戻る」「往復する」などが「際」の前に現れた。

- (11)新規のホール建設の際には、アドバイザーとなり撮影用の小窓、ブース（小部屋）までもつくる。(OY04_01566)
- (12)ウフツィ美術館（しかしこれは古代像を修復する際 のルネッサンス的発明であろう。）(LBc7_00001)
- (13)2—再免許申請の際に提出を要する無線局事項書の添付書類および工事設計書について、記載する内容の全部が現に免許を受けている当該放送局のものと同ーである場合、これを不要とするほか～(LBm3_00065)
- (14)大規模な地震の際は避難勧告されます。速やかに避難場所へ。(OP01_00007)
- (15)火事の際、庭師・藤村治太郎が身につけていた半纏を水で濡らし、濡れた石で足を滑らせて口を切るケガをしながらも石割桜を守ったというエピソードは有名。(OY14_03683)
- (16)関ヶ原において西軍が敗戦した際、それに与した真田昌幸・田幸村親子の助命を娘婿の真田信之と共に嘆願したが、両名に散々煮え湯を飲まされている家康は強硬に拒否した。(OY15_14158)
- (17)ペリー来航の際に至っても、東湖の「外夷」への対応の仕方に変化は見られなかった。(LBc1_00017)

4. おわりに

本発表はときを表わす「際」についてBCCWJを用い、その出現傾向を検討した。本発表で明らかになったことは以下のとおりである。

- (1)「その際」は「この際」の出現傾向に似ており、両者とも「特定目的・ブログ」と「特定目的・広報紙」に現れる。
- (2)「際」が現れる「特定目的・国会会議録」と「特定目的・ブログ」では、敬語表現が使われる。
- (3)「際」の前に来る表現は、何かを建てるとき、戻すとき、法律や予算を決めるとき、自然現象のとき、否定的な状況、戦争のときと関連する。また、移動の意味が含まれている表現の前に使われる。

本発表では、BCCWJを用い、用例を抽出したものの、出現頻度のみを提示することにとどまり、数量的な観点からの詳細な考察はできなかった。今後、数値を提示し、「際」が現れるときをより明確にしたい。また、「際」と「際に」の現れる文の相違について、検討したい。さらに、10年ごとに用例を抽出したため、時間による「際」の出現傾向に変化は出ることかを検討したい。

<参考文献>

- 趙恩英(2019)「「一生懸命に」・「熱心に」の違いについて—『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて—『日本文化学報』83, 韓国日本文化学会
- 趙恩英(2015)「異なるジャンルにみられる類義語の違いについて—「やっ」と「ようやく」を例として—

『日本語学研究』45, 韓国日本語学会
趙恩英(2014)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる『ついに』・『とうとう』の違いについて—共起する中頻度語群の述語を中心に—」『日本言語文化』, 韓国日本文化言語学会

日本語のル言葉の形態的変異について

孫範基 (サイバー韓国外国語大学校)

1. はじめに

若者言葉の中で「ル言葉」(米川1983:123)²⁸⁾と言われる新動詞がある。それは、主に名詞を中心とした語彙またはその省略形に「る」を付加し動詞として用いる造語法によって生成された語のことである。この「ル言葉」は様々な観点から注目されており、若者言葉としての社会的側面(米川1983)、語形成の規則性(三宅 2002, Tsujimura and Davis 2008, 堀尾 2015)、その形成における音韻的制限(OCP, Kojima 2003, 2004)、意味的特徴(高場 2007, 関本 2015)などの研究によって、その音韻・形態・統語・意味論的な特徴が明らかになっている。

この「ル言葉」は形態的特徴として有名なのは「五段活用」をすることである(窪蘭 2002, 三宅 2002, Tsujimura and Davis 2008, 堀尾 2015, 尾谷 2019など)。しかしながら、実際の言語運用においては、五段活用をしない「ル言葉」に、一段活用形が用いられることがある。もちろんこれらは「帰る」誤用に過ぎないかもしれないが、遠い昔から作られた「ル言葉」において、「る」の前の母音が「e」と「i」の場合「一段動詞」となっていることを見ると(例:たそがれる(<黄昏)、はしける(<解(はしけ)など)、何らかの理由があると思われる。

本研究は、「ル言葉」に現れる一段活用形という変異について「ル言葉」の一段活用形は「一段動詞」の活用に類推した結果であり、語によって類推の度合いが異なるのル言葉の語基を形成する原語の頻度と関連すると論じることとする²⁹⁾。

2. ル言葉について

(1)に示したように「ル言葉」は「る」という動詞を作る接尾辞(語尾)が主に名詞と結合して動詞を作り出す造語法から作られた語のことである。(1)に示したように、「る」に接続する名詞は多彩である。

- (1) a. 漢語 こくる(<告白)、じこる(<事故)、ひこる(<皮肉)、きよどる(<挙動不審)
- b. 外来語 コピる(<コピー)、テロる(<テロリズム)、メモる(<メモ)、カフェる(<カフェ)、サボる(<サボタージュ)
- c. 和語 かもる(<鴨)、かめる(<亀)、かみる(<神)、みそる(<三十路)
- d. 固有名詞 おうしょ(う)る(<玉将)、マクる(<マクドナルド)、スタバる(<スターバックス)、ググる(<グーグ)

28) この種の動詞について、米川(1983)は「ルことば」と、窪蘭(2002)とTsujimura and Davis (2011)は「新動詞」(innovative verb)と、三宅(2002)は「ル動詞」と命名している。本研究は米川(1983)に従い「ル言葉」という名称を使うことにする。

29) 本研究はル言葉の「る」に接続する要素に対して「語基」(base)、「原語」(source)、「語幹」(stem)という用語を用いる。それぞれの定義は次のようである(例:コピる、カフェる、告る)。

- ・ 語基: ル言葉の動詞化接辞「る」に接続する要素。(例:コピ、カフェ、こく)
- ・ 原語: 語基が省略される前の要素。省略がなければ語基と同じである。(例:コピー、カフェ、告白)
- ・ 語幹: (五段活用を基準として)終止形語尾/-uに接続される要素。(例: kopir-, kafe-, kokur-)

ル)、ビる(くビル・ゲイツ)、ぐでる(くぐでたま)

(1a)は原語が漢語という語種から構成されている。(1b)は原語の語種が主に英語を中心とした外来語であり、挙げた例はすべて語頭から2モーラを採ったものである。(1c)は和語が原語の例であり、2モーラ語基で構成されている。(1d)は人名・団体(ユニット)名、店舗・ブランド名、インターネット・サービス名などの固有名詞から派生されたル言葉である。

「ル言葉」の動詞化接尾辞「る」に接続するものは主に名詞であると述べたが、名詞以外のものに「る」に接続することもできる。

(2) 名詞以外の原語のル言葉

- a. オノマトペ ニコる(くニコニコ)、グたる(くグタグタ)、ジワる(くじわじわ)、グズる(くぐずぐず)
- b. 動詞 しくる(くしくじる)、しける(く白ける)
- c. 語句 牛耳る(牛耳を執る)、ばちよる(くばってちよっと借りる)
- d. 文字レベル タヒる(く死)、ロムる(くROM(Read Only Members))、凸る(「凹む」の対語)

(2a)はオノマトペの語根が「る」に接続する例である。(2b)は「る」の前に動詞が接続するというより動詞そのものが省略された形で現れている(堀尾 2015)。また、(2c)は品詞の範囲を超える語句がル言葉として使われることもできる。(2d)は文字レベルの要素がル言葉になった例である。これを見ると原語は、名詞以外に副詞(オノマトペ)、動詞、語のレベルを超える語句、文字レベルのものなど、様々なものが「る」の前に接続できるように見える。ただし、語彙量としては(1)の名詞と(2a)のオノマトペから派生された語がほとんどであり、残りのものは少数である。

(1)(2)に示したル言葉は、孫(2018)の297語データからの抜粋したものである。そのデータの計量的内訳として表1・表2に原語の語種および語基の長さ(音形を持たない「凸る」を除外する)を示しておく。

<表1> ル言葉の語基の語種(N = 297)

語種	個数	比率(%)
和語	70	24
漢語	48	16
外来語	122	41
オノマトペ	43	15
混種語	10	3
不明	4	1
計	297	100

<表2> 語基の長さ(モーラ)(N = 296)

長さ	個数	比率(%)
1μ	3	1
2μ	242	83
3μ	42	14
4μ	6	2
6μ	1	0
計	296	100

以上を見ると、ル言葉の原語は外来語が多い方ではあるが、語種による原語の制限はないように見える。また、「る」に接続する語基は1モーラから6モーラまでの長さが分布できるが³⁰⁾、2モーラ語基の方が圧倒的に多く、3モーラ語基はある程度の比率を占めていることでまとめられる。

ル言葉の音韻的特徴は、(3)に示したようにル言葉は基本形の「る」の直前にアクセント核が来るということである(Uehara 1995 : 171-172, 三宅 2002 : 49, Tsujimuta and Davis 2008 : 807-808)。これは原語のアクセントと関係なく付与されるものである。

(3) ル言葉のアクセント

30) Tsujimura and Davis (2009)では「げんごかくる」(<言語学、言語について論じる)、 「ジングルべる」(<ジングルベル、一人でクリスマスを過ごす)という5モーラ語基のル言葉も挙げている。

こく⁰る(＜こくはく⁰) コピ⁰る(＜コピ⁰ー) ググ⁰る(＜グ⁰ーグル) ニコ⁰る(＜ニ⁰ニコ)

また、ル言葉の形態的な特徴として広く知られているのは「五段動詞」(子音語幹動詞)の活用をするということである(三宅 2002:49, Tsujimura and Davis 2011:807, 堀尾 2015:25)。今までは便宜上「る」を動詞化接尾辞と述べたが、それは文字レベルでのものであり、厳密には(4)で示したように「原語から来た語基(base)+/r/」が語幹(stem)として構成され、接辞として「-u」がつくという形態構造である。

(4) ル言葉の形態構造

[[語 基] <r>] -u
└─ 語 幹 ─┘ 接 辞

三宅(2002)、Tsujimura and Davis (2011)、堀尾(2015)、尾谷(2019)は「る」に接続する要素の最後が/i, e/で終わっても五段活用をすると述べている(例:だべる(駄弁る) → だべった・だべらない, ケチる → ケチった・ケチらない; 三宅 2002)。しかも、堀尾(2015:25)は「新しく作られた語彙は、日本人であれば活用を考える必要はなく、機械的に「五段動詞」と同じように変化させることが出来る」とも述べている。もちろん、「る」の直前がエ段・イ段の場合でも「焦る・帰る・蹴る・滑べる・照る・練る」や「要る・陥る・限る・切る・知る」など、形態的には五段動詞と分類されるものはある。

しかしながら、古くから使われてある程度定着し、辞書にも掲載されているル言葉の中では「る」の前が「エ段」と「イ段」の場合に(すなわち、/...eru/, /...iru/という音連鎖で終わるル言葉)、**「五段」**でなく**「一段」**の活用をするものがある。また、この音連鎖のル言葉の中で規範的に五段動詞とされているものが、実際の言語運用においては**「五段活用形」**だけでなく**「一段活用形」**も用いられることがある。

3. ル言葉に現れる一段活用形

3.1 一段活用の例

(5)は辞書に掲載されるほど定着した語の例として『大辞泉』(第1版)と『広辞苑』(第6版)から収集した「一段動詞」のル言葉である。これらの語にはすべて「**「語基に当たる名詞」**を動詞化したもの」という説明がされている。これらは(4)の形態構造と違って一段動詞と分類されている。また、(5a)に下一段動詞の10語と、(5b)に上一段動詞の2語があるが、その数を見ると下一段動詞の方が多く分布することになる。

(5) 辞書から収集した一段動詞のル言葉

- a. 下一段動詞 きっかける(＜切⁰掛⁰け)、グれる(＜ぐ⁰れは⁰ま)、しける(＜時⁰化⁰・湿⁰気)、たそがれる(＜黄⁰昏)、
どうける(＜道⁰化)、なめる(＜無⁰礼⁰(な⁰め))、にやける(＜に⁰や⁰け)、はしける(＜解⁰、へん⁰げ⁰る(＜変⁰化)、みぞれる(＜罫)
- b. 上一段動詞 たいじる(＜退⁰治)、かがみる(＜鏡)(「か⁰んが⁰みる」も)

また、<図1>のように「ぐでる」というル言葉はテレビ情報番組のショートアニメで五段活用形の「ぐでてる」でなく、一段活用形の「ぐでてる」が使われている。この語はツイッターやインスタグラムやフェイスブックなどのSNS(Social Network Service)のハッシュタグ検索の「#グデてる」と「#グデてる」からも両方現れている。



<図1> 「ぐでる」の一段活用の例(TBSあさチャン「ぐでたまツア 北海道編 (2017)」より)

本研究では五段動詞として分類される「エ段ル言葉」(/...eru/)・「イ段ル言葉」(/...iru/)が実際の言語運用において五段活用の形で現れているかを確認するために、『国語研日本語ウェブコーパス』(NWJC)を対象に、検索係「梵天」³¹⁾の「文字列検索」を通じて(6)に示した調査語(「エ段ル言葉」と「イ段ル言葉」)の動詞活用の例を調査した。調査対象にした活用形は、ナイ形(～ない、～なく、～なかった)、マス形(～ます、～ません、～ました)、タイ形(～たい、～たく、～たかった)、意向形(～おう、～よう)、テ形(～ている、～てる、～ていない、～てくれる、～てもらう、など)、タ形(～た、～たり、など)である。

- (6) 調査語 カフェる、カラオケる、テれる、ツンデれる、ヤンデれる、アサヒる、アジる、アビる、ウイキる、ガチる、キャピる、愚痴る、コピる、詐欺る、タヒる、タビる、デニる、無視る

31) 『国語研日本語ウェブコーパス』はウェブを母集団として100億語規模を目標として構築した日本語コーパスである。ウェブ(WWW)上の日本語テキストを利用して100億語を超える規模の現代日本語コーパスを構築する目論見である。「梵天」には2014年10-12月収集データを格納している。格納データの基礎統計は以下のとおりである。

収集URL数：83,992,556
 文数(のべ数)：3,885,889,575
 文数(異なり数)：1,463,142,939
 国語研短単位数：25,836,947,421

<表3> ル言葉の動詞活用形の出現数

	ナイ形		マス形		タイ形		意向形		テ形		タ形	
	五段	一段	五段	一段	五段	一段	五段	一段	五段	一段	五段	一段
カフエる	1	0	40	0	19	0	0	0	15	0	65	0
カラオケる			13	3	9	1	5	0	18	9	66	1
デれる	3	638	0	519	1	20	0	10	523	4517	50	3179
ツンデれる	0	13	0	10	1	3	0	1	52	22	26	64
ヤンデれる	0	7	0	2	0	0	0	1	11	65	9	27
アサヒる	17	0	12	0	3	0	6	0	196	0		
アジる	1	0	36	0	8	0	10	0	103	0	96	0
アビる	112	0	135	0	123	0	41	0	2467	1	287	0
ウイる	2	0	29	0	2	0	7	0	67	0	167	2
ガチる	41	0	73	0	63	0	36	0			210	3
キャビる	1	0	3	0	5	0	2	0	222	0	33	0
愚痴る	989	7	3034	2	3977	2	453	0	30992	61	8118	44
コビる	47	0	172	0	60	0	89	0	2991	5	690	0
詐欺る	16	0	30	0	1	0	38	0		0	155	2
タヒる	14	5	46	2	4	8	2	0	236	2	99	1
タビる	5	0	22	0	1	0	24	0	655	1	101	0
デニる	1	0	22	0	3	0	1	0	60	0	19	0
無視る	7	0	49	1	3	1	15	0	1000	5	140	15

<表3>はそのぞれの活用形の出現数をまとめたものである。ここでは一段活用形の出現数を中心に五段活用形より一段活用形の方が数的優位である箇所は「青色」で、一段活用形が1つ以上出現した箇所は「空色」で、一段活用形の出現していない箇所は「ルビーレッド」で表示した。

この表を見ると「デれる」系の「デれる」「ツンデれる」「ヤンデれる」は一段活用形の方が優位であり、言語使用者はもう一段動詞として使っていると考えられる。また、この表に基づく音連鎖の類推による変異形出現の順序関係は「テ形・タ形 > マス形(タイ形) > ナイ形 > 意向形」のようになっている³²⁾。そして、「二字漢語+る」で構成されたル言葉(愚痴る、詐欺る、無視る)においては一段活用という変異が現れているが、原語(語基)によって変異の現れる活用形および出現数が異なっている。これらの変異形出現は原語の頻度が一つの要因であると考えられる。

3.2 頻度の効果

頻度が言語にもたらす効果は次のようである(李ほか 2013: 76)

(7) 頻度が言語にもたらす効果

- a. 保守化効果(conserving effect) b. 生産性(productivity) c. 縮減効果(reducing effect)

(a)の保守化効果とは、頻度が高いパターンに関しては、類推が起りにくく、逆に頻度が低ければ、類推が起りやすいことである。多い。(b)の生産性とは、多くの事例に接することによって規則性の定着度が増せば、その事例がさらに多く産出され、受け入れられるようになるということである。最後の(c)の縮減効果は、頻度の高いパターンは形式が短くなりやすいということを指している。ここで保守化効果と縮減効果はトークン頻度に関するものであり(Bybee 2001: 11-12)、生産性はタイプ頻度に関するものである。

本研究は類推と関わる原語のトークン頻度を見るために国立国語研究所とLago言語研究所が開発した

32) Matsuda (1993)は言語変化は否定文では肯定文と比べて進行しにくいと述べているが、変異は言語変化の一断面と捉え得るため、本研究で示した順序関係は言語変化の順序とも関連するかもしれない。

NINJAL-LWP for BCCWJ (以下、NLB)とNINJAL-LWP for TWC (以下、NLT)を利用し、調査語のトークン頻度を調べた(アジるは除外)。NLBとNLTに載っていない原語は「NA」で表示した。

<表4> 原語のトークン頻度

	カフェ	カラオケ	テレテレ	朝日	アビール	ウキペディア	ガチンコ	キャビ	愚痴	コピー	詐欺	タヒ	タヒング	デニス	無視
NLB	1,325	956	6	227	427	NA	NA	NA	603	2,041	1,716	NA	111	NA	892
NLT	15,324	7,397	18	1,064	9,759				5,941	28,905	15,137		1,085		9,799

表4を見ると原語のトークン頻度が低いものは変異形の出現数が高く、逆に頻度の高いものは変異形が出現数がゼロに近い。特に「二字漢語+る」で構成された「愚痴る」、「詐欺る」、「無視る」は「詐欺」の頻度が高い方で、「愚痴」、「無視」は低い方であるため、変異の度合いの違いが現れたと言えるだろう。また、変異のない「朝日(新聞)」、「ウキペディア」、「デニス」は固有名詞であり、保守性効果が高いと考えられる。「タヒる」の「タヒ」は「死」という漢字の破字によって作られたものであるため、原語から自由であると考えられる。

4. おわりに

本研究ではル言葉の一段活用形という変異形の出現に対して、保守性効果と関わる原語のトークン頻度に注目して分析した。

<参考文献>

- 尾谷昌則(2019)「ル動詞を構文論の観点から見直す」『日本語学会第158回大会 予稿集』pp.387-392
- 窪蘭春夫(2002)『新語はこうして作られる』岩波書店, pp.81-111
- 関本真澄(2015)『「ルことば」の意味と使用実態の考察』壇国大学校博士学位請求論文, pp.1-166
- 孫範基(2015)「日本語オノマトペの音韻・形態的特徴について—完全反復と強調形モーラの挿入—」『日本語文化』31, pp.111-133
- _____ (2016)「現代日本語における縮約形の形態・音韻的特徴—動詞活用におけるラ行音の撥音化について—」『日本学研究』49, pp.363-385
- _____ (2018)「現代日本語における新動詞の形態的変異—五段動詞の一段活用形について—」『日本学研究』54, pp.437-460
- 堀尾佳以(2015)『若者言葉にみられる言語変化に関する研究』九州大学博士請求論文, pp.1-151
- 三宅知宏(2002)「乱れと規則性—品詞転換略語新語をめぐって—」, 『月刊言語』, 大修館書店, pp.48-51
- 米川明彦(1983)「近代語彙‘る’ことば—明治から昭和初期—」『日本語学』2-4, 明治書院, pp.122-125
- 李在編ほか(2013)『認知音韻・形態論』くろしお出版, pp.1-87
- Bybee, Joan (2001) *Phonology and Language Use*, Cambridge University Press, 2001, pp.1-230
- Matsuda, K. (1993) Dissecting analogical leveling quantitatively: The case of the innovative potential suffix in Tōkyō Japanese, *Language Variation and Change* 5, pp.1-34
- Tsujimura, Natsuko and Stuart Davis, A construction approach to innovative verbs in Japanese, *Cognitive Linguistics* 22-4, 2011, pp.799-825

Uehara, Satoshi, *Syntactic Categories in Japanese: A Cognitive and Typological Introduction*, Ph.D dissertation, University of Michigan 1995, pp.162-174

계량적 관점에서의 「そうですね」 연구

손영석 (제주대학교)

1. 들어가며

현대 일본어에 있어서의 「そうですね」에 관한 여러 연구들에서는 그 의미·기능을 <동의표명> 여부에 따라 크게 (1)과 (2)의 경우로 구분하고 있다.

- (1) a: ナスは切るんですね。
b: そうですね。
(2) a: 明日、ちょっと手伝ってくれないかな。
b: そうですね、明日ですか…。 小出(2011: 90, 93) 인용

먼저 (1)은 상대방의 질의나 확인요구에 동의를 표명하기 위해 사용된 경우이다. 「そうですね」를 대신하여 「そうです」를 사용할 수 있다는 특징이 있다³³⁾. 반면 (2)의 「そうですね」는 동의를 표명하고 있지 않으며 「そうです」로 대체될 수 없다. 선행연구 중 小出(2011)와 金銀淑(2012)는 (1)과 (2)를 각각 「そうですねA」 「そうですねB」, 齊木(2008)와 林始恩(2019)은 「応答用法」 「ファイヤー用法」이라 칭하는데, 명칭은 상이하나 「そうですね」의 의미·기능을 양분하는데 있어서는 공통된 견해를 보인다.

본 발표에서는 「そうですね」의 사용실태에 관한 본격적인 계량적 조사·분석에 앞서 어떠한 경우에 「そうですね」가 동의를 나타내거나 혹은 나타내지 않는지에 대해 선행연구와 실제 사용 용례를 바탕으로 고찰하고자 한다.

2. 멀티미디어 코퍼스

조사·분석에는 「대담방송 멀티미디어 코퍼스」를 활용하였다. 멀티미디어 코퍼스는 특정 언어형식을 검색하면 해당 언어형식과 함께 발화 장면의 영상·음성도 참조할 수 있는 코퍼스이다. 여러 종류의 멀티미디어 코퍼스 중 일본 텔레비전 대담방송을 자료로 작성한 「대담방송 멀티미디어 코퍼스」에는 23종류의 대담방송(발화참가자 4인 이하) 106회분이 수록되어 있으며, 문자화텍스트를 바탕으로 총 310명의 일본인 화자가 발화한 40시간 분량의 영상·음성을 검색할 수 있다(자세한 사항은 石井·孫2013).

특히 영상KWIC기능(孫·石井2016)의 개발로 <그림1>과 같이 전후 문맥을 KWIC(Key Word In Context)형식으로 배열하고 이 상태에서 간단한 키조작만으로 영상·음성을 연속해서 관찰할 수 있어 「そうですね」처럼 사용빈도가 높은 단어라도 그 사용실태를 용이하게 파악할 수 있게

33) 「ね」가 없어도 성립한다는 의미로 「そうです」와 「そうですね」에 따라 전달하는 바가 다를 수 있다.

되었다.

<그림1>은 영상KWIC기능으로 「そうです」를 키워드 삼아 검색한 화면이다. 키워드의 직전 문자 즉 앞문맥으로 검색결과를 정렬하였는데, 그림에서 보는 바와 같이 「そうですね」가 문두 혹은 문중에 위치하였는지, 「そうですね」 직전에 「あー」「あのー」 등 어떠한 표현이 동반되었는지 등을 손쉽게 알 수 있다. 반대로 뒷문맥으로 정렬하면 「そうです」 직후의 「。」와 「よ」「ね」「よね」 등 기타 종조사를 기준으로 용례를 재배열할 수도 있다. 또한 제시된 전후 문맥보다 넓은 범위에서 문맥을 파악하고자 하는 경우에는 간단한 키조합만으로 전체 발화를 녹취한 문자화텍스트로 점프(JUMP)할 수 있다.

<그림1>의 특정 열을 클릭하면 클릭과 동시에 발화 장면 영상·음성이 재생되는데 영상·음성으로부터는 발화상황에 관한 다양한 정보를 얻을 수 있으므로 예를 들어 「そうですね」가 누구 누구를 향해 말할 때 어떠한 제스처·시선·표정 등과 함께 발화되었는지 등에 대해 조사 가능하다³⁴⁾.

話者 記号	mae	keyword	ato						
A		あー	そうです	ねえ。					
B		あー	そうです	ね ラビットとかね そういらの はい はい。					
A		そうです	あー	そうです	ねえ。				
B		ああー	そうです	ね ええ。					
A		はあー	そうです	ね。					
C		えー	そうです	ねえ。					
C	ほかの 歌を 覚えていきたいと思いますというので	えー	そうです	ね レポートも 増えてきて					
C	んー	ね す	あー	すー	そうです	ね。			
C	歴史上の 人物だと	えとー	そうです	ね 平賀源内の。					
C		あのー	そうです	ね。					
C		そう	あのー	そうです	ね。				
C	えとー お酒に 酔ったような感じ	え	頭が	ぼおとし	てきたりとか	あとは	あのー	そうです	ね 幻覚を (笑)見る 場合(笑)もありますし。
B		いや	あのー	そうです	ね 馬場 あの ほんと 競馬場みたいな コースで。				
B		んー	ま	でも	やっぱり	そのー	そうです	ね。	
B			ほー	そうです	ね。				

<그림1> 영상KWIC기능을 활용한 검색예시

3. 검색결과

「대담방송 멀티미디어 코퍼스」에서의 「そうですね」 검색결과를 정리하면 <표1><표2>과 같다. 먼저 <표1>은 「そうですね」의 용례수를 관련표현들의 경우와 비교한 것이다. 그 용례수를 살펴보면 「そうですね」가 「そうです」를 비롯한 여타 표현들보다도 압도적으로 많이 사용되고 있음을 알 수 있다.

34) 「대담방송 멀티미디어 코퍼스」는 온라인으로도 공개중이다. 인터넷 익스플로러(Internet Explorer)를 제외한 크롬(Chrome), 마이크로소프트 엣지(Microsoft Edge), 사파리(Safari) 등의 브라우저를 사용하여 컴퓨터 혹은 스마트폰 등에서 www.multimediacorpus.com에 접속하여 이용 가능하다.

<표1> 「そうですね」 및 기타 관련표현 분포

そうですね	1049例
そうですか	342例
そうです	308例
そうですよね	170例
そうですよ	40例
기타	84例

<표2> 「そうですね」의 출현 형태 및 위치³⁵⁾

단독	감동사, 필러 없음	532例
	감동사, 필러 포함	248例
단독이외	문두	228例
	문두 이외	34例

다음으로 <표2>는 「そうですね」의 출현 형태 및 위치이다. 본 발표에서는 「そうですね」의 의미·기능과의 관계에 대해서는 직접적으로 언급하진 않지만, 실질적인 내용을 적극적으로 표현하는 언어형식없이 「そうですね」를 중심으로 구성된 경우(단독)와, 「そうですね」가 실질적인 내용을 표현하는 언어형식과 함께 문장성분으로 사용된 경우(단독이외)로 크게 구분할 수 있었다.

- (3) a: ようやく つけるんですね? b: そうですね. (KYOTO塾)
- (4) a: カラマゾフの兄弟ってのは 神の 問題なんです。 b: はい そうですね うん。
(憲法記念日特集～今日は憲法記念日です)
- (5) a: それって こうやって ぎゅうって 血液を こう 止めたような感じの 手の 時の そういう 感じなん
でしょうか?
b: そうですね ずっと 正座を してたあのような しびれたような感じですよ。 (トップランナー)
- (6) こういうね この 2曲を あの 毎日のように レッスンして それで その 2曲と共に あのー じゃあ
この 2曲は あの 課題曲として ほかの 歌を 覚えていきましょうということで えー そうですね
レパトリーも 増えてきて えー それで え 当時 ジャズ喫茶という ね 今でいう ライブ
ハウスですよ。 (ミュージズの晩餐)

‘단독’은 「そうですね」 전후로 「あー」「ま」「はい」 등 감동사 및 필러가 동반된 경우(4)와 그렇지 않은 경우(3)로, ‘단독이외’는 「そうですね」가 문두에 위치한 경우(5)와 문두 이외(문중 혹은 문말)에 위치한 경우(6)로 하위분류 가능하다. 검색결과, 「대담방송 멀티미디어 코퍼스」에 있어서 「そうですね」는 ‘단독이외’(262例)보다 ‘단독’(780例)의 경우가 많았으며, 특히 별도의 감동사 및 필러를 동반하지 않고 (3)처럼 「そうですね。」만으로 문장을 구성하는 독립어 문장이 빈출하였다.

4. 「そうですね」의 의미·기능에 관한 일고찰

본 발표에서는 앞서 소개한 (1)과 (2)의 「そうですね」를 각각 「そうですねA」와 「そうですねB」라 부르기로 한다. 「대담방송 멀티미디어 코퍼스」에서도 각각에 해당하는 용례를 찾아볼 수 있었다. (7)은 「そうですねA」, (8)은 「そうですねB」의 경우이다.

- (7) b: まあ あのー 植物染めってね そういう 古い 伝統的な 技法 やるのにはね 丁寧に ゆっくり
というのが もう 大原則なんですわ。

35) <표1>과 <표2>의 「そうですね」 용례수가 상이한 이유는 코퍼스 검색결과를 모두 제시한 <표1>와 달리, <표2>에서는 전문(伝聞) 및 양태(様態)의 「そうだ」 등을 제외하였기 때문이다.

- a: ねえ。あれは、やはり、色によって、えー、少し、方法も、変わってくるわけですかねえ？
 b: そうですね、あのー、おおまかに、言うとな、紫とかね、その、紅花とか、藍とかね。ま、ちょっと、特別だなあと、思う、染料は、わりと、こう、ま、ちょっと、テクニックが、要るっていうかな、うーん。

(KYOTO塾)

- (8) c: ですので、急に、深く、行ってしまうと、窒素が、体に、ぐっと、回ってきて、窒素酔いという現象を、起こすんですね。
 b: うん。窒素酔い、へえ。
 c: はい。
 a: となると、どうなるんですか？
 c: えとー、お酒に、酔ったような感じ、え、頭が、ぼおとしてきたりとか、あとは、あのー、そうですね、幻覚を、見る、場合もありますし。

(トップランナー)

小出(2011)를 이론적 배경으로 삼아 「そうですねA」와 「そうですねB」의 의미·기능 및 출현조건 등에 대해 고찰한 金銀淑(2012)은 각각의 차이를 <표3>과 같이 정리하고 있다.

<표3> 「そうですねA類」와 「そうですねB類」의 담화기능(金銀淑2012:69 인용)

そうですね	出現位置	先行発話の種類	ターン交代	機能
A類	ターン冒頭	Yes-No疑問 確認要求	有り	肯定の応答・同意
	ターン途中		無し	
B類	ターン冒頭	Wh-質疑 意向・意見要求	有り(完了)	発話開始
		Wh-質疑 意向・意見要求		時間稼ぎ 1
		平叙 提案・依頼・打診		婉曲な否定的応答の予告
	ターン途中	平叙文	無し	敷衍説明
		平叙文		時間稼ぎ 2
		平叙文		話題転換
	ターン末尾	平叙文	有り(予定)	発話終了

여기에서는 특히 ‘선행발화의 종류(先行發話の種類)’에 주목하고자 한다. 金銀淑(2012)에 따르면 「そうですねA」의 선행발화는 Yes-No의문문 혹은 확인요구관련 문장으로, 「そうですね」는 이에 대한 긍정의 응답 및 동의(肯定の応答・同意)를 나타낸다. 반면, 「そうですねB」는 Wh-질 의문, 평서문, 의향·의견요구(肯定の応答・同意) 및 제안·의뢰·타진(提案・依頼・打診)관련 문장 등 비교적 다양한 선행발화에 이어져 발화개시, 시간끝기, 완곡한 부정적 응답의 예고, 부연설명, 화제전환, 발화종료의 의미를 전달한다고 한다.

(7)(8)의 물결선 부분은 「そうですね」의 선행발화로, 金銀淑(2012)의 지적대로 (7)에서는 Yes-No의문문에 이어져 「そうですね」가 <동의표명>을, (8)에서는 Wh-질의문에 이어져 시간 끝기 혹은 부연 설명의 기능을 담당하고 있음을 알 수 있다.

그러나 코퍼스의 용례들을 살펴보면 명확히 그 의미·기능을 「そうですねA」와 「そうですねB」로 양분하기 어려운 경우 또한 상당수 있었다. (9)는 그 일례이다.

- (9) b: やっぱ、ご自分のことも、触れて、文章に、して、いって、いうのは、すごく、やっぱり、大変な、作業だと、思うんですけども。

c: あー そうですね.

c: あのー まー こういうことは 一口 ひと言や ふた言で 言えないんですけどもね あのー やっ
ぱり いー あそこに えー あい あの 出たように 分かったらいい 一心ですね。

(生活ほっとモーニング)

(9)의 발화참가자는 방송진행자 b와 소설가인 게스트 c이다. c는 본인과 가족들의 삶을 바탕으로 소설을 출판한 경험이 있다. 이와 관련하여 b는 「やっぱ ご自分のことも 触れて 文章に
していくっていうのは すごく やっぱり 大変な 作業だと 思うんですけども。」라고 언급하고 있으며,
이어서 c는 「あー そうですね。」로 발화를 시작하고 있다.

만약 (9)를 「そうですねB」로 해석한다면 「そうですね」는 「思うんですけども」 뒤에 생략되어
있는 Wh-질의문인 「どう (いかが) ですか」에 대한 답변을 시작하기에 앞서 발화의 개시를 알
리는 ‘발화개시’, 혹은 발화내용을 연산해내기 위한 과정에 산출된 ‘시간끌기’의 기능을 담당하고
있다고 할 수 있다. 반대로 「そうですねA」로도 해석가능하다. 선행문장에서 b는 「と思うん
ですけども」의 형태로 자신의 의견을 먼저 표명한 후 자신의 의견에 대해 어떻게 생각하는지를 묻고
있으므로, c는 이에 대해 「そうですね」로 ‘긍정의 응답 및 동의’를 나타내고 있다고도 볼 수 있
기 때문이다.

(9)와 관련하여 텔레비전 스포츠 방송의 인터뷰 장면을 자료로 삼아 「そうですね」에 대해 고
찰한 林始恩(2019)은 (9)의 「そうですね」를 「ファイヤー用法」(본 발표의 「そうですねB」)로 분류
한 후 ‘시간끌기’ 등의 역할이외에도 ‘긍정(동의)의 요소가 있음[肯定(同意)する要素がある]’을
지적하고 있다. 즉 「そうですねB」의 경우에도 <동의표명>을 인정하고 있다는 점에서 앞서 소
개한 金銀淑(2012)과는 다른 입장을 취하고 있다고 볼 수 있다. 다만 「そうですね」 중에는
(1)(8)처럼 동의를 의미하는 것이 전혀 내포가 되지 않은 경우도 여전히 존재하므로 「そうですね」가
항시 동의를 표명하는 것은 아니라고 여겨진다.

5. 마치며

이상에서는 논한 바와 같이 「そうですね」의 <동의표명>과 관련해서는 아직까지도 밝혀진 바
가 많지 않으며, 향후 본격적인 고찰이 필요하다고 판단된다. 특히 <동의표명> 여부에 선행발
화의 종류만이 관여하는지, 선행발화의 종류이외에 관계하는 언어내외적 요인은 없는지 등에 대
한 논의가 요구된다.

예상되는 관련 요인 중 하나로써, 본 발표에서는 「대담방송 멀티미디어 코퍼스」의 발화 장
면 영상을 바탕으로 「そうですね」 발화시 화자의 ‘고개끄덕임(うなずき)’ 동반여부에 대해 관찰하
였다. 고개끄덕임은 <동의표명>을 나타내는 대표적인 비언어표현 중 하나로, 아직 모든 용례를
대상으로 조사하지는 못했지만, 「そうですねA」에서는 고개끄덕임이 빈번히 동반된 반면, 전형
적인 「そうですねB」에서는 고개끄덕임은 관찰할 수 없었다.

蓮沼(1988)는 종조사ね에 관한 연구에서 「ね」 발화시 화자가 청자에게 동의 및 확인 등을
요구하고 있는지의 여부는 미묘한 문제로, 애써 구분한다면 화자의 시선이 청자를 향했는지의
여부에 따름을 언급한 바 있다. 즉 「ネ」가 전달하는 의미·기능에 시선행동이라는 언어외적 요
인이 적극적으로 관여함을 지적하고 있는데, 「そうですね」와 ‘고개끄덕임’간에도 <동의표명>의
측면에서 연관성이 관찰되는지에 대해 대량의 데이터를 바탕으로 조사·분석하고자 한다.

<参考文献>

- 金銀淑(2012)「「そうですね」に関する一考察—談話機能を中心に」『日本語学研究』35, pp.55-71
- 孫栄爽・石井正彦(2016)「映像KWICによる言語行動の直観的探索—対談番組のマルチメディア・コーパスを例に—」『日本語学会2016年度春季大会予稿集』, 日本語学会, pp.165-170
- 林始恩(2019)「応答詞「そうですね」について—WH質問への応答を中心に—」『日本語学研究』61, pp.113-131
- 石井正彦・孫栄爽(2013)『マルチメディア・コーパス言語学』 大阪: 大阪大学出版部
- 小出慶一(2011)「応答詞「そうですね」の機能について」『埼玉大学紀要』47-1, pp.85-97
- 斉木美紀(2008)「談話分析から見る「そうですね」」『横浜国大言語研究』26, pp.60-45
- 蓮沼昭子(1988)「続日本語ワンポイントレッスン」『言語』17-6, pp.94-95



文化

四方正木、及び『深契情話恋の若竹』の成立時期について

康志賢(全南大学校)

<目次>

1. 緒言
2. 『仇競今様櫛』の跋者「狂月舎四方正木」について
 - 2.1. 松園梅彦ならず
 - 2.2. 二代目狂歌房四方滝水の子息・四方梅彦ならず
3. 人情本『深契情話恋の若竹』の成立時期について
4. 結語

<요지>

요모노 마사키 및 『신케조와 고이노와카타케』의 성립시기에 대하여

이토이 다케시의 2세 잇쿠라고 하는 명적 계승자로서의 입지를 굳히기 위하여, 1833년 『아다쿠라베 이마요구시』 3편 발문에 있어서 습명 피로 인사말을 하게 하는 「쿄게쓰샤 요모노 마사키」라고 하는 인물에 대하여 우선 추적한 바이다.

구체적으로는 『아다쿠라베 이마요구시』의 발문 집필자 「쿄게쓰샤 요모노 마사키」로 하여금 「요모노 우메히코」와 결부시키는 선행 목록류의 오류를 지적하고, 요모노 마사키는 「2세 교카보 요모노 다키스이」도 아니거니와 그 아들 「요모노 우메히코」 즉 마츠소노 우메히코도 아님을 논증하였다. 요모 본점의 주인이었던 「2세 요모노 다키스이」가 서문 집필자로서 활동하는 1833년, 우메히코는 열한 살로, 서른 살이 되는 1852년에, 요모 주점을 이어받아 「요모 주인 우메히코」라고 서명하기에 이르는 것이다.

그리고 같은 해 1833년에는 이토이 작 인정본 『신케조와 고이노와카타케』 초판도 간행된다. 실은 필자 추정 1830년에 간행되었던 초판의 재판본이기도 해서 본 인정본의 성립시기에 대해서는 선행연구에서도 확립되지 않았으므로 그 서지를 조사할 필요가 있었다. 그 결과 1830년 간행된 초판 판목을 입수한 출판업자 초지야가 우선 초판을 발행하기 위하여, 본문은 초판 판목을 그대로 이용하고 다이센(제목)·서문·구치에(서두그림)·삽화·권말 광고·오쿠즈게(판권장)를 새롭게 짜 넣은 것이었다. 그리하여 작자의 짓펜샤 잇쿠 습명 공표에 임하여, 인정본 유행 풍조에 발맞춰 재판한 것이 1833년판 초판이라는 결론을 얻었다.

이렇게 해서 『아다쿠라베 이마요구시』 3편에 있어서 요모노 마사키에 의해 대대적으로 습명이 피로된 1833년은, 이토이에게 있어서 뜻깊은 일 년이었을 테고 열정적인 그의 저작활동에 있어서 그러한 자부와 각오를 엿볼 수 있는 한 해였던 것이다.

1. 緒言

続く拙稿^e「糸井武作『仇競今様櫛』からみる天保四年の<二代目十返舎一九>公表を巡って」において論じ足りない部分があった。従って、本稿では、名跡継承者としての立地を固めるべく、『仇競今様櫛』三編跋文にて襲名披露口上を述べてもらう「狂月舎四方正木」という人物について、更なる穿鑿を加えて、彼の正体に一層近づきたい。且つ又、『仇競今様櫛』三編を刊行した天保四年には、糸井作人情本『深契情話(しんけいじょうわ)恋の若竹』初編も刊

行されている。その成立時期については先行研究においても定まってないので、拙稿fで詳述した書誌に基づき、ここでは更なる成立時期究明に挑む。よって、本稿で取り挙げる糸井作品の詳細な書誌については、拙稿e・fで報告しているので本稿では略述にとどめる（本名「糸井武」に従って、代表する名前として以下「糸井」を用いる）。

2. 『仇競今様櫛』の跋者「狂月舎四方正木」について

糸井作・天保四年刊『仇競今様櫛』三編¹⁾、…、至る所に「二代目一九」の名跡が強調される作品である。特に、この見開き二丁半におたる跋文²⁾には、糸井の略歴や雅号、十字亭三九を二十七歳の時、初代一九より贈られたことなどが、時系列でつまびらかに紹介される。糸井の小伝にもあたいるような典型的な襲名披露文、拙稿eにその全文を翻字・紹介。

しかしながら、本作は『人情本集』³⁾に翻刻されるほど早くから注目されたにも関わらず、客観性を保持するために必要な、跋者が如何なる人物であるか検証するような一文が管見に入らない。いざと調べてみると、一筋縄では正体が究明できない人物であった。「四方正木」に関して跋文で得られる情報は、画印事夷曲によって狂歌師、「東武飯台逸民」によって飯田町の住民、「狂月舎」という号、狂月舎印、正木という印を使用する人物というくらいである。更に史実上、如何なる人物であったか、追跡過程を以下に報告するが、結論を先にいえば、確たる正体解明までには至っておらず、消去法を以て様々な可能性を提起しておくことで叩き台としたい。

2.1. 松園梅彦ならず

各種DBや辞典類に「四方正木(よものまさき)」にてヒットするのは、現在のところ、福井市立図書館越国文庫に「四方正木(柳屋梅彦)編」と入力された『東駅いろは日記』及び「日本古典作者事典」DBの人名のみである。しかし、『東駅(とうかいどう)いろは日記』という梅彦綴の当該正本写合巻を、慶応大学蔵本及び佐藤悟『正本写合巻年表』⁴⁾から確認したところ、「四方/正木」とは全く記名されず、自序の「辛酉(：1861、文久元年=万延二年)初秋 柳屋梅彦誌(十三ツヒコ印：不鮮明で図版は引用しない)」のように、「(柳屋)梅彦」に統一されている。また、「日本古典作者事典」DBでは、「四方正木→梅彦(・四方、戯作者/狂歌)」とあるので、「梅彦」にて各種目録を引いてみると、「通称;四方正木/四方新次、別号;狂月舎」「名は正木」の如く、疑義の箇所が出てくる。根拠が見出せない目録類の「四方」「正木」なる記名が、独り歩きし、通用した結果、上記のDBに引用されたと思う。『改訂日本小説書目年表』⁵⁾の誤記の影響だろうと、稿者は推測している。

周知の幕末・明治初期の戯作者「梅彦」に関する管見署名を、時系列で並べると、嘉永期文亭梅彦・東風社梅彦、文久期竹庵梅彦・竹尾梅彦・柳亭梅彦・柳屋梅彦、嘉永期から明治期にかけて松園梅彦(以下、代表する名前として「松園梅彦」)で、彼らが同人であることは、附される印を以て確認できた。しかし、梅彦に関わる戯作や浮世絵、役者絵本、注釈書等のジャンルにおいて調べた限り、梅彦が亭号のように「四方」と冠した例は見当たらない。

そもそも四方正木が跋文を寄せた『仇競今様櫛』三編が出た天保四年(1832)、松園梅彦は文政五年(1822)生まれなので、まだ十一歳の子供に過ぎなかった。なのに、上記目録類に「四方/正木/狂月舎」という、根拠不明の別称を松園梅彦に付与したことで、誤認の端緒を提供してしまう。例えば、次のように「松園蔵版」の初代柳亭種彦作品『浮

1) 蓬左文庫本と早大本(早大本は三編・中の巻終了後に跋文が来るが、その柱題が「今三編下」とあるので綴じ間違い)を底本にする。以下、引用文中の(：)とした箇所や傍線は稿者補記である。

2) 跋文の一部が、本田康雄「二世十返舎一九の漂白―盛田家文書について」、山本誠「二世十返舎一九と為永春水」(『白山国文』1、東洋大学国語国文学会編、1997年、pp.23-31)にも翻字・紹介される。

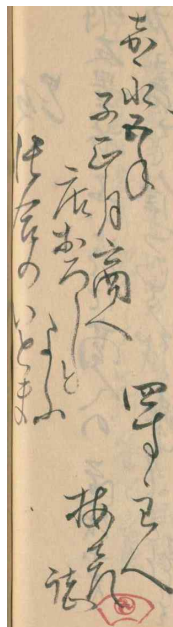
3) 『人情廓の鶯・仇競今様櫛：人情本集』江戸軟派全集刊行会、1927年、pp.91-211(以下、『人情本集』)

4) 佐藤悟(2011)『正本写合巻年表』日本芸術文化振興会、pp.119

5) 山崎籠(1977)『改訂日本小説書目年表』ゆまに書房、pp.845

世形六枚屏風』を説明するに際して、「松園梅彦（松園大人、松園主人）は本名四方正木、『五国語箋』（白杵太郎蔵板、製本所禁（ママ）幸堂菊屋幸三郎、万延元年）等を著している」⁶⁾というふうには、根拠なしの「本名四方正木」という説明の脚注が附されたりするのである。因みに、この脚注でも指摘する如く、号を「松園」とする幕末の医学者・塩田順庵とは勿論別人である。

斯くして、三ツヒコ印の落款からして、柳亭種彦の門弟に違いない「松園梅彦」こと「梅本彦兵衛ならふ者、他呼（ひとよん）で梅彦」（嘉永五・1852年刊合巻『造栄桜叢紙』花笠文京の序文中）は、少なくとも「四方正木」ではあり得ないのである。次節で穿鑿する如く、「梅彦」という下の名前の頭に、様々な戯号を冠して署名する彼であるが、「四方主人梅彦」「四方山人梅彦」と自称した例はあるものの、「四方正木」のように「四方梅彦」、つまり「四方」を以て亭号風に自称した証例は見受けられなかった。しかし、「四方梅彦（よものうめしこ）」⁷⁾と人には呼ばれていたようで、それは今はなき老舗「四方」店の主として、相変わらず世間には通っていたが故の他称と思しい。目録類の「四方梅彦」なる立項には疑問も残るものの、学界に最も通用する名前であるというのが現状である。



2.2.二代目狂歌房四方滝水の子息・四方梅彦ならず

さて、梅彦に「四方」が付く証例として、嘉永五年(1852)と六年序・豊芥子著の狂歌集写本『近世商賈尽狂歌合』（国会蔵本）跋文が挙げられる。「嘉永五年・子正月商人・店おろしとよふ帳合のいとま／四方主人梅彦誌（＋扇巴の落款）【図1】」と年記・署名する。同嘉永五年の用例である「梅本彦兵衛ならふ者、他呼（ひとよん）で梅彦」（『造栄桜叢紙』）と、この「四方主人梅彦」が同人であれば、「梅本彦兵衛」なる人物が、扇巴の落款からして、祖先代々の酒屋の名跡「四方屋久兵衛」を継承したということだろう。

因みに、天保から幕末の狂歌集に登場する「四方滝水」なる人物がいるが、文政元年没した初代四方滝水の名を継いだ別人⁸⁾という。おそらく、天保四年刊・糸井作合巻『御大相志目多発齋（ごたいそしめたはつり）』に序文を寄せる「四方滝水」は、この別人の二代目なのだろう。狂名のみならず、次のように初代四方滝水の「狂歌房」という戯号まで継いだと思しい。「此冊子は十返舎ぬしの…よろしくと板元のあるしにかわりてかくいふものハ狂歌房／天保四巳年孟春新版・四方滝水（＋扇巴の落款）」という落款からして、序者「四方滝水」は四方酒店の当主に違いない。という、同じ天保四年、同じ糸井の戯作に、異なる狂名と印にて、跋文と序文を各々寄せる「狂月舎四方正木」と「狂歌房四方滝水」は、別人と見なした方が妥当だろう。よって、四方正木は四方酒舗の、少なくとも本店の主ではなかったと確定できる。

こうして四方滝水が序する天保四年から、「梅彦」名の管見初出である嘉永二年（：1849。柳亭種彦補綴『高尾年代記』序者「文亭梅彦」）までは、十六年の歳月が流れており、二人は同人だろうか父子の関係だろうか。文政五年(1822)生まれの梅彦は天保四年に十一歳、つまり狂名「四方滝水」という四方酒舗の主の倅であったのである。そして、梅彦が三十歳になる嘉永五年(1852)には、前掲「四方主人梅彦誌（＋扇巴の落款）」【図1】からして、四方酒舗を引き継いでいたのである。

四方梅彦については、精査した内村和至も「四方梅彦の事績はなお明かでなく、調査するほど細かな疑問も出てきて、

6) 歴史の文字記載・活字・活版-東京大学総合研究博物館http://www.um.u-tokyo.ac.jp/publish_db/1996Mojji/05/5800.html (検索日:2020.01.03.)

7) 内村和至（『四方梅彦の事績』『芸文研究』100、明治大学、2006年、pp.202）は、大槻如電が親友梅彦に対して「四方梅彦（よものうめしこ）」と呼称していたことを、ルビを強調しつつ指摘する。

8) 小林ふみ子(2005)「酒月米人小伝」『法政大学学術機関リポジトリ』pp.331／(2009)『天明狂歌研究』汲古書院、pp.328。初代の「四方滝水」こと酒月米人は、四方側の有力判者の一人で、通称は榎本治兵衛、別号に狂歌房・吾友軒（：文化二年信濃松本の門人又香に吾友軒を譲る）などがある。

なかなかまとまりがつかない」⁹⁾というくらい、完全には解明されていない。以下、稿者なりにまとめてみると、嘉永五年の「梅本彦兵衛ならふ者、他呼(ひとよん)で梅彦」(『造栄桜叢紙』)は、「四方主人梅彦」(『近世商賈尽狂歌合』)として四方酒舗を経営する傍ら、柳亭種彦門下の戯作者として多くの戯作を執筆し得たという多才な履歴の持ち主である。安政地震で店が潰れる前の嘉永期から戯作界に入門、先述の如く嘉永期文亭梅彦・東風社梅彦、文久期竹庵梅彦・竹尾梅彦・柳亭梅彦・柳屋梅彦、嘉永から安政・文久・明治にわたる全期に松園梅彦というふうには、様々な戯号を用いる戯作者でもあったのである。そして、安政末・文久初年頃の作品に「江戸前の隠居・竹庵梅彦」、「竹島の漁夫・松園梅彦」、「竹庵梅彦」、文久元年には「竹尾主人梅彦」、「松園乃北窓に閑居して竹尾梅彦しるす」と署名するのを見ると、安政地震の後は隠居の身になったのであろう。

斯くて、滝水という銘酒と赤味噌を販売していた四方久兵衛代々の店「四方」の後継者が、いわゆる四方梅彦であるが、天保四年に飯台(飯田町)に住んでいた「狂月舎四方正木」は誰なのか。天保四年、同じ糸井の戯作に、異なる狂名と印にて、跋文と序文を各々寄せる「四方正木」と「二代目四方滝水」。後者は四方本店の当主で梅彦の父親と確定できるので、前者の四方正木は、四方酒舗の出店の主であった可能性は残るものの、本店の主ではあり得ないこと、また、狂歌連・四方側の判者の一人ではなかったかということ、よって、天保四年に飯田町に住んでいた狂歌師の彼は、四方滝水や松園梅彦とは別人であることが確定出来た次第である。

以上、…跋文の署名や印記からは狂歌師で、飯田町住人という大まかな情報しか汲み取れず、不詳の人物であったが、本稿を通して得られた新知見を再度整理してみよう。

第一、各種DBや目録類に、「四方正木」「正木」「狂月舎」の証例として、挙げられる作品に当たると、そのような名前は全く記載されず、「松園梅彦」と同人という誤認が生み出した誤記であることを指摘した。

第二、「梅本彦兵衛ならふ者、他呼(ひとよん)で梅彦」(『造栄桜叢紙』)と「四方主人梅彦」(『近世商賈尽狂歌合』)は、三ツヒコ印からして柳亭種彦の門弟に違いない「松園梅彦」その人で、「四方正木」ではあり得なかった。

第三、四方正木を酒舗「四方」に関連づけると、店か住居地が飯田町である四方の出店の主であった可能性がある一方、酒舗「四方」とは関係なく狂歌舎中である「四方」連の一員、特に四方側の判者の一人であった可能性もあることを提示した。

第四、天保四年刊・糸井作合巻『御大相志目多発鬻』に、「此冊子は十返舎ぬしの…**狂哥房**／天保四巳年孟春新版・四方滝水(+扇巴の落款)」と署名する序者は、酒月米人の狂名「狂歌房四方滝水」を引き継いでいる。斯くて、天保四年に、異なる狂名と印にて、糸井の戯作に、跋文と序文を送る彼らは別人と判断される。

第五、四方本店の主であった二代目狂歌房四方滝水が序者として活動する天保四年、倅である梅彦は十一歳であった。そして、梅彦が三十歳になる嘉永五年には「四方主人梅彦誌(+扇巴の落款)【図1】」からして、四方酒舗を引き継いでいたのである。「松園梅彦=四方梅彦=酒舗四方の主人」と看做す内村説を補強する根拠として、先ずはこの【図1】の跋文署名が挙げられる。これに補訂を加えると、その一、「狂月舎」号は梅彦の別号ではなく「四方正木」の別号であることが、天保四年刊『仇競今様櫛』跋文にて確認できる。その二、「四方梅彦の本名が<正木>であり、<麴町飯田町>に住したという記事」¹⁰⁾に触れられるが、おそらく当該天保四年跋文の四方正木を以て、四方梅彦として誤解した『改訂日本小説書目年表』の誤記が始原として作用した記事なのだろう。この『書目年表』の誤認が目録類やDBにおいて、「梅彦」をして「四方正木」へと結び付ける端緒を現在まで長らく提供していると思しい。

9)内村和至(2005)「四方梅彦雑纂一幕末歌舞伎・戯作の一側面」『歌舞伎研究と批評』34、pp.81／(2007)「四方梅彦について一訂正・補遺(二)」『文芸研究』103、明治大学、pp.41。その他、「四方梅彦の事績」前掲書pp.177～208と、(2007)「四方梅彦について一訂正・補遺」『文芸研究』101、明治大学、pp.25～55を参照した。

10)内村和至「四方梅彦雑纂一幕末歌舞伎・戯作の一側面」前掲書pp.81／「四方梅彦について一訂正・補遺(二)」前掲書pp.41

미야자와 겐지(宮沢賢治) 「사슴 춤의 기원」의 서사

- 경계 허물기 전략을 중심으로 -

신지숙(계명대학교)

1. 들어가기

최근 일본 미디어에서 자주 듣는 SDGs 즉 지속가능한 개발 목표란 자연환경의 지속가능성에 대한 인류의 위기의식에서 출발했다고 할 수 있다. 인류가 이제 무시할 수 없게 된 환경문제이지만 근대화의 물결 속에서 사회와 개인의 문제를 추구한 근대 작가에게 있어서 이 문제는 결코 핵심주제가 될 수 없었다. 그런 가운데 겐지는 일본 근대 작가 중에 유일하다 해도 좋을 정도로 진지하게 인간과 자연의 바람직한 관계에 대해 고민한 작가이다. 일본 초등학교 국어교과서(미쓰무라도서관출판)에 유일하게 그 작품(「돌배야まんし」)과 비평이 수록되어 있는 것은 이런 시대의 변화가 그 배경이 있다고 생각한다.

본고는 이와 같은 관점에서 겐지 생전에 간행된 유일한 동화집인 『주문이 많은 요리집』(1923)에 주목하고자 한다. 이 동화집에는 9편의 동화가 수록되어 있는데 서사구조를 볼 때 「사슴 춤의 기원鹿踊りのはじまり」(이하 「사슴 춤」)과 「늑대 숲, 소쿠리 숲, 도적 숲」은 다른 7작품이 속 이야기로만 진행되는 것과 달리 겹 이야기와 속 이야기의 구조를 갖는다. 왜 이런 구조를 채택했을까 하는 것이 본고의 출발점이다. 「사슴 춤」의 분석을 통해 그 전략에 의해 구사된 형식과 내용의 호응을 밝히고자 한다. 서사학적 방법을 사용하는 것은 직관에 입각한 인상적 비평, 신성화의 오류를 피하고 객관성을 담보하기 위해서이다.

2. 「사슴 춤의 기원鹿踊りのはじまり」의 서사 구조

이 작품은 주네트의 서사 이론으로 분석하면 겹 이야기와 속 이야기의 두 서사 차원으로 구성되며 겹-속-겹의 순서로 서술된다. 겹 이야기 화자의, 사슴 춤의 정신을 바람에게 들었다는 짧은 서술(2문장)로 시작하여 바람이 들려준 이야기인 속 서술로 이동하고 마지막에 다시 겹 이야기(1문장)로 돌아온다 중요한 것은 마지막 겹 서술이 서두의 겹 서술로 이어지는 원환적 구성이라는 점이다. 모두부터 살펴보자.

そのとき西のぎらぎらのちぢれた雲のあひだから、夕陽は赤くななめに苔の野原に注ぎ、すすきはみんな白い火のやうにゆれて光りました。わたくしが疲れてそこに睡りますと、ざあざあ吹いてゐた風が、だんだん人のことばにきこえ、やがてそれは、いま北上の山の方や、野原に行はれてゐた鹿踊りの、ほんとうの精神を語りました。

そこらがまだまるちきり、丈高だけたかい草や黒い林のままだったとき、嘉十はおいさんたちと北上川の東から移つてきて、小さな畑を開いて、粟あわや稗ひえをつくつてゐました。

あるとき嘉十は、栗の木から落ちて、少し左の膝を悪くしました。そんなときみんなはいつでも、西の山の中の湯の湧くところへ行つて、小屋をかけて泊つて療すのでした。87

모두의 첫 단락이 곁 이야기이다. 곁 서술과 속 서술 사이에 행을 띄우거나 부호를 넣은 등의 형식적 구분은 없다. 11) 곁 서술의 서술자 저(わたし) '는“그 때”라는 특정한 때의 들녘의 모습을 서술하기 시작한다. 서쪽으로 넘어간 태양이 빛을 받아 빛나는 구름 사이로 이끼 낀 들판을 비추고 바람에 흔들리는 억새가 희게 빛나고 있는 들녘의 모습이다. 그리고 서술자는 그곳에 있다. 그런데 이 서술자는 무엇 때문인지는 알 수 없으나 피곤한 상태이다. 그래서 부드러운 이끼 위에 눕는다. 차츰 바람 소리는 이 서술자에게 사람의 말로 들려오고 지금 기타가미의 산과 들에서 행져졌던 사슴 춤의 진정한 정신을 이야기해준다. 여기까지가 곁 이야기이다. 이 곁 이야기는 서술자가 작품 속에 등장하는 동종 이야기이다.

이 곁 서술에서 문제는 시간이다. 먼저 서술자의 현재인 “지금”이라는 시간이다. 이 시간은 화자가 이야기를 하는 현재인 동시에 동북지방에서 사슴 춤이 행해지고 “있던”으로 제한되는 “지금”이다. 만약 행해지고“있던”이 아니라 행해지고 있는 이라면 이 지금은 사슴 춤이 민속 예능으로서 인간들에 의해 행해지는 독자의 지금일 수도 있다. 그러나 “있던”이란 수식어에 의해 본문의 “사슴 춤”은 인간이 추는 민속 예능으로서의 사슴 춤이 아니라 사슴들이 산과 들에서 추었던, 사슴에 의한 “사슴 춤”으로 제한된다. 또한 가지 시간의 문제는 서두의“그 때”라는 시간이다. “그”가 지시하는 때를 곁 이야기 내용으로는 알 수 없기 때문이다. 독자는 사슴들에 의한 “사슴 춤”이 행해진 ‘지금’이라는 시간을 연대기적인 시간으로는 환원하지 못한 채 또 서두의 ‘그 때’에 대한 의문을 품은 채 속 이야기로 들어가게 된다.

곁 서술자에 의하면 이어지는 속 이야기의 화자는 바람이다. 그러나 ‘저’가 바람이 된 듯이 이야기하지는 않는다. 곁 서술과 비교할 때 말투의 변화가 없어 바람에게 들은 속 이야기를 곁 서술의 서술자가 자신의 말로 이야기한다고 보아야 한다. 서사의 시간은 아직 야생 그대로의 기타가미의 산야를 개간하여 농민의 정주가 시작되는 시대로 거슬러 올라간다.“そこらがまだまつ’き)、丈高い草や黒い林のままだつたとき、嘉十はおいさんたちと北上川の東から移つてきて、小さな畑を開いて、粟や稗をつくてゐました。” 할아버지를 따라 들어온 가주가 노동을 하는 연령이 될 때까지의 시간은 한 문장으로 요약되며 템포 빠르게 지나간다. 그런데 어느 날 가주가 나무에서 떨어져 왼쪽 무릎을 다쳐 치료를 위해 온천에 탕치를 가게 된다. 그 시점부터 서사의 템포가 느려지며 미메시즈적인 서사로 바뀐다. 가주에게 내적초점화하여 그가 보고 그가 들은 사슴들의 말과 춤과 예매를 서사한다.

가주가 사슴 춤을 보게 된 것은 도시락으로 가져 간 칠엽수 경단을 사슴들의 위해 물매화풀 흰 꽃 아래 조금 남겨 둔 덕택이었다. 경단을 먹고 다시 길을 가다가 가주는 수건을 놓고 온 것을 알아차리고 가지러 간다. 그런데 경단과 수건 주위에는 사슴들이 모여 원을 그리며 빙들빙들 돌고 있었다. 아픈 다리를 꿇고 숨어서 자세히 살펴보는데 놀랍게도 가주에게 사슴들의 말이 들려온다.

嘉十はにわかには耳がきいと鳴りました。そしてかたがたふるえました。鹿どもの風にゆれる草穂のような気もちが、波になって伝わって来たのでした。／ 嘉十はほんとうにじぶんの耳を疑いました。それは鹿のことばかりこえてきたからです。／

「じゃ、おれ行つて見で来べが。」／ 「うんいや、危ないじゃ。もう少し見でべ。」 89

11) 「둘배」에서는 곁 이야기와 속 이야기가 시각적으로도 구분된다.

“小さな川の底を写した、二枚の青い幻灯です。”라는 곁 서술로 시작하고 1행 띄우고 “一. 5月” 1행 띄우고 속 서술이 시작된다. 결말부 또한 속 서술이 끝난 다음 1행을 띄우고 부호(□안에 ◆)가 들어가고 다시 1행 띄운 다음 “私の幻灯は、これでおしまいであります。”로 끝난다.

사슴들은 경단의 파수병인듯한 이것, 즉 수건의 정체를 알 수 없어서 경계하며 의논하는 중이었다. 생물인가, 독버섯인가, 주름이 많으니 노인 파수병인가 하며, 한 마리씩 다가가 조사를 한다. 냄새를 맡아 보고, 숨을 쉬는지 들어 보고, 코로 건드려 보고, 훔아 보고 하더니 6번 째 사슴이 염려 없다고 판단하고 입으로 물고 온다. 말라빠진 팔태충이라고 결론 지은 사슴들은 수건 주위를 빙빙 돌며 승리의 춤, 기쁨의 춤을 춘다. 그리고는 경단을 사이좋게 한 입씩 뜯어 먹더니 다시 춤을 춘다. 오래 동안 보고 있던 가주는 자신도 사슴이 된 듯한 느낌이 들어 뛰어나가고 싶으나 자신의 커다란 손을 보고는 참는다. 그 때였다. 태양이 멋진 오리 나무 가지 가운데를 비추기 시작하자 사슴들의 원무가 느려지며 확인을 하듯 서로가 고개를 끄덕이더니 태양을 향해 경배하듯 나란히 선다.

가주는 꿈을 꾸듯 황홀하게 바라보고 있는데 사슴들이 차례차례 뛰어나와 태양에게 절하며 태양이 비쳐내는 들녘의 모습을 노래하기 시작했다. 수정 피리 같은 목소리로.

「はんの木の／みどりみちんの葉の向き／ちやらんちやらんの／お日さん懸かる。」／その水晶の笛のやうな声に、嘉十は目をつぶつてふるえあがりました。右から二ばん目の鹿が、俄にとびあがつて、それからからだを波のようにならせながら、みんなの間を縫つてはせまわり、たびたび太陽の方にあたまをさげました。それからじぶんのところに戻るやびたりととまつてうたひました。／「お日さんを／せながさしよへば はんの木も／くだけで光る／鉄のかんがみ。」／はあと嘉十もこつちでその立派な太陽とはんのきを拝みました。右から三ばん目の鹿は首をせわしくあげたり下げたりしてうたひました。95-96

가주도 사슴에게 동화되어 태양과 오리 나무를 경배하며 사슴들의 노래를 듣는다. 6마리의 노래가 다 끝나자 사슴들은 모두 피리 소리처럼 짧게 울며 격렬한 춤을 다시 추기 시작한다. 때마침 불어온 바람에 오리나무는 깨진 거울처럼 빛나고 앞은 깨지는 소리는 내는 듯하고 역새는 사슴과 함께 빙글빙글 도는 것 같다. 가주는 사슴과 자신의 차이를 완전히 잊어버리고 (じぶんと鹿とのちがいを忘れて) “허어 열씨구 열쑤「ホウ、やれ、やれい。」”라고 소리치며 뛰어나간다. 함께 춤을 추고 싶었던 것이다. 하지만 사슴들은 놀라 멈춰 서더니 은빛 역새를 가르며 도망간다, 바람에 날리는 나뭇잎처럼.

그리고는 이어지는 두 문장으로 작품은 끝난다.

aそこで嘉十はちよっとにか笑いをしながら、泥のついて穴のあいた手拭をひろってじぶんもまた西の方へ歩きはじめたのです。
bそれから、そうそう、苔の野原の夕陽の中で、わたくしはこのはなしをすきとおった秋の風から聞いたのです。97-98

“そこで”로 시작하는 첫 문장은 가주가 등장하는 속 이야기이고“それから”로 시작하는 둘째 문장은 겉 서술의 화자“저”가 등장하는 겉 이야기이다. 차원이 다른 이야기지만 결말 또한 서두와 마찬가지로 겉 서술과 속 서술을 구분하는 시각적 표지는 없다. 그런데 이 결말에는 속과 겉을 이어주는“それから”의 “それ”로 지시된 시간이 있다. 물론 그 시간은 가주가 걷기 시작한 시점을 나타낸다 서사의 차원이 다르고 두 문장의 주어가 다르기 때문에“걷기 시작했다”와 “들었다”는 동작을 각각의 주어의 동작이 전후하여 일어난 것으로 파악하기 쉽다. 그러나 간과해서는 안 되는 것은 마지막 겉 서술의 “それから”의 “それ”는 서두의“そのとき”와도 호응한다는 사실이다. 서두를 다시 인용하겠다.

そのとき西のぎらぎらのちぢれた雲のあいだから、夕陽は赤くななめに苔の野原に注ぎ、すすきはみんな白い火のようによれて光りました。わたくしが疲れてそこに睡りますと、ざあざあ吹いていた風が、だんだん人のことばにきこえ、やがてそれは、いま北上の山の方や、野原に行われていた鹿踊りの、ほんとうの精神を語りました。

서두의 “そのとき”와 결말의 “それから”는 호응하며 공통된 지시어 “そ”는 가쥬가 서쪽을 향해 다시 걷기 시작한 ‘그 때’를 지시한다. 결말의 걸 이야기는 서두의 걸 이야기로 이어지는 원환구조를 이루고 있는 것이다. 이로써 앞에서 의문으로 제시했던 “そのとき”의 문제는 풀린다. 12) 한 가지 남은 문제는 “わたしが疲れてそこに睡りますと”라는 구절이다. 왜 걸 이야기의 화자 “저”는 피곤한가? 여기서 발상의 전환이 필요하다. 결말의 두 문장의 “걷기 시작했다”와 “들었다”는 동작을 각각의 주어의 동작이 전후하여 일어난 것으로 파악해서는 안 된다. 그렇다면 걸 이야기의 서술자 ‘저’의 피곤한 이유가 작품 내부에서 설명이 되지 않는다. 걸 이야기의 화자는 이유는 밝히지 않은 채 피곤해서 눕는다고 말한다. 그가 피곤한 이유는 그가 가쥬이기 때문이다. 가쥬는 불편한 다리로 정좌를 한 채 사슴들을 지켜보며 그들의 말을 듣는 데 집중하며 자신이 사슴이 된 듯 흥분했고, 태양을 찬양하는 사슴의 노래를 들으며 자신도 황홀경에 빠져 태양과 오리나무를 함께 경배했다. 비록 마지막에 그의 마음이 사슴들에게 전달되지는 않았지만, 사슴과의 일체감 속에서 자신이 사슴이 된 것처럼 그 춤을 마음으로 함께 추었고 함께 경배하였기에 그는 피곤한 것이다. 그래서 서쪽으로 다시 걷기 시작한 그는 피곤함을 못 이기고 부드러운 이끼 들판에 눕는 것이다.

3. 결론—사슴 춤의 정신과 경계 허물기

걸 이야기의 서술자 ‘저’가 가쥬인 것을 논증했다. 가쥬는 사슴 춤의 정신을 바람에게 듣지 않아도 이야기할 수 있는 자격을 갖는다. 사슴을 위해 음식을 남겼으며, 사슴의 말을 들으며—현실적으로 말하면 사슴에게 몰두하여 상상함으로써 사슴들의 마음과 기쁨을 이해했고, 자연에 대한 그들의 숭경심에 공감하며 예를 표한 사람이며 비록 사슴에게 거절되었지만 마음은 하나가 되어 춤추었던 사람이기 때문이다. 즉 가쥬야말로 “지금 기타가미의 산과 들에서 행해지고 있던 사슴 춤”을 목격하고 경험

12) “そのとき”의 종래의 해석은 아마자와 다이지로(天沢退二郎)의 지적 이후 ‘기원’ ‘원시’를 소환하는 것이라는 해석이 계승되어 왔다. 다음 논문에서 인용해 두겠다. 川島秀一 (2007) 「鹿踊りのはじまり」という物語 —〈歩きつづける男〉の話— 『山梨英和大学紀要』 Vol.6

“のっけから現れる《その》という指示形容詞は、その瞬間から、その語りがすではじめもなく終りもないものとして《その》よりはるか以前につながるものであることを明らかにしてしまうのであり、逆にいえば、非人称的なオリジンからの声が、あたかも必然的に、作品のはじまりというものの時空を、そのはじまり以前のはじめなきものとかかわりにおいて指示し、規定してしまうという現象が私たちの目の前に置かれているのだ。天沢退二郎 (1976) 『〈宮沢賢治〉論』 筑摩書房. 가와시마 논문의 재인용 p.5.

“したがって、物語のはこび手としては、どうしても「風」が必要となる。歳老いて朽ちることのない、永遠の息吹ともいべき〈風〉でなければ、はるかな昔から〈いま〉へと駆け抜けて物語を伝えると—いう大変な役割はつとまるはずがない。” 遠藤祐 (2006) 『宮沢賢治の物語たち』 洋々社. 가와시마 논문의 재인용 p.3

“このように、この語りの時間は、〈そのとき〉からはるか始原へと遡行し、そして〈そのとき〉聞いた〈はなし〉を語る〈現在〉へと連なるのです。…遡行される始原から立ちあらわれるようにみえる〈そのとき〉という〈時間〉の出現…〈そのとき〉とは、そのように根源的、普遍的なものでありつつ、いま地上におとずれた特別な〈とき〉。” 川島秀一 (2007) 「鹿踊りのはじまり」という物語 —〈歩きつづける男〉の話— 『山梨英和大学紀要』 Vol.6, p.3-6

한 사람인 것이다. 인간 쪽에서 보면 사슴 춤의 정신이란 인간이 사슴과의 경계를 허물고 일체가 되어 그 기쁨과 자연에 대한 숭경과 찬미를 공유할 수 있는 정신인 것이며, 이 정신의 핵심인 경계 허물기가 겉 서술과 속 서술이라는 서술 차원의 경계를 허무는 후기 구조주의적인 서사에 의해 달성되고 있는 것이다. 내용과 형식의 절묘한 호응이라 할 수 있다.

마지막 문제는 그렇다면 왜 겉 화자 ‘저’=가주는 속 이야기의 화자를 바람이라고 한 것일까? 속 서술은 가주 자신이 깊은 감동을 느끼며 목격하고 경험한 사건의 서술이고 그가 화자인 것이 마지막에 자명해지는데 서두에서는 그것을 숨기고 바람이 들려 준 이야기라고 바람을 소환한 것일까? 그에게 이것은 허위가 아니다. 그는 처음부터 구름, 태양, 이끼, 역새와 함께 역새를 흔드는 강한 바람을 의식하고 있었다 (すすきはみんな白い火のようにゆれて光)ました). 자신이 들녘에서 목격하고 경험한 이 모든 광경을 들녘에 불고 있던 바람 또한 다 보고 있었다, 다 듣고 있었다, 라고 ‘저’=가주는 주장하는 것이다. 바람을 속 이야기의 화자로 소환함으로써 역설하고 있는 것이다. 이를 통해 사슴 춤의 정신은 다시 정의된다. 겉 서술의 화자인 ‘저’는 속 서술에서 가주가 되어 사슴과 하나 되고 속 서술을 감싸는 겉 서술에서는 다시 바람과 하나가 되는 것이다. 사슴과 인간과 바람이 하나로 용해되는 것이 사슴 춤의 최종적인 정신이며 이 주제는 서술 차원의 경계 허물기 전략을 통해 달성되고 있는 것이다.

<参考文献>

宮沢賢治(1995) 『新校本宮沢賢治全集』十二 筑摩書房 pp.87-98

제라르 주네트 지, 권택영 역 (1992) 『서사담론』 교보문고 pp.1-283

川島秀一 (2007) 「鹿踊りのはじまり」という物語 —〈歩きつづける男〉の話— 『山梨英和大学紀要』 Vol.6

상사병의 종말

- 은유로서의 질병 -

최태화 (군산대학교)

1. 들어가며

본고에 있어서는 한일 양국의 고전문학에 있어서 상사병이 어떻게 사용되고 있는지를 분석하여, 애정소설 혹은 멜로드라마가 질병을 다루는 방식에 대해 고찰하고자 한다.

2. 메타포로서의 결핵

폐병인 결핵은 영혼의 질병으로 소설 속 연인의 죽음을 아름답고 로맨틱하게 표현할 수 있는 장치였던 것이다. 그 예로 도쿠토미 로카(徳富蘆花)의 『호토토기스不如婦』, 히로쓰 류로(広津柳浪)의 『잔기쿠殘菊』, 선우일의 신소설 『두견성』, 나도향의 장편소설 『환희』(1922-23), 염상섭의 첫 장편소설 『너희들은 무엇을 얻었느냐』(1923-24) 등을 들고 있다.

최성민은 결핵의 은유는 백혈병의 경우에도 유사하게 나타나고 있다고 논한다. 그 예로 1970년 에릭 시걸의 소설 러브 스토리, 그것을 영화화한 아더 힐러 감독의 <러브 스토리>(1971), 그리고 1976년 영화 <라스트 콘서트>(루이지코지 감독). 드라마 <세상 끝까지>(1998)와 <안녕 내 사랑>(1999), <가을동화>(2000), <아름다운 날들>(2001)의 여주인공들이 백혈병 환자로 등장하여 낭만적인 사랑을 하다가 이른 죽음을 맞이하는 경우를 들고 있는데, 1999년에 백혈병 치료제 ‘글리백’이 개발되고 보급된 이후부터는 백혈병 환자는 영화와 드라마에서 찾아보기 힘들게 되었다고도 지적하고 있다

요컨대 결핵이 그랬던 것처럼 백혈병 역시 은유로서의 유통기한이 지나고 있는 것이다. 현재까지는 기한이 지난 은유로서의 결핵과 백혈병을 상속할 아름답고 숭고한 죽음에 이르는 불치의 “영혼의 질병”이라는 조건에 들어맞을 새로운 질병은 아직 뚜렷하지 않으나 오래지 않아 새로운 질병이 뒤를 이을 것으로 예상할 수 있을 것이다.

3. 상사병의 원관념

상사병은 문화권과 시대에 따라 질병으로도 질환으로도 여겨지나, 사랑을 이루게 하는 것 이외에는 별다른 치료방법이 없는 난치병으로 이해할 수 있다.

<용례1> <소씨삼대록>의 소운성이 걸린 상사병의 병증: 가슴은 답답하고 우울해 침식을 폐하고 앓아 눕는 것

<용례2> <임씨삼대록>의 옥선군주의 상사병 증상: 식음을 전폐하여 용모가 초췌해지며, 목숨이 위태로울 지경에까지 이르는 것.

<용례3> 옥경군주의 상사병 증상: 자주 기운이 막혀 혼절한다

<용례4> 1827년 為永春水 人情本 『온나 이마가와(婦女今川)』 제12회>

(오류가)자식인 미노사쿠와 깊이 언약을 나눈 적이 있었고(중략)요사이 그것(오류에 대한 사랑:필 자주)으로 고생하여서, 평소에 내성적이고 솔직한 사람이라, 하릴없이 아프기 시작한 지가 5개월이나 전입니다. 약도 기도도 다해보고 (중략) 간병을 하였습니다만, 점점 심해지는 큰병으로 열이 틀사흘, 식사도 못하고 이제 더 이상 방도가 없어보이는 모습이라, 의사선생이 말씀하기로는 어차피 죽은 목숨이지만, 이 병을 낮게하기 위해서는 비싼 약을 써야만 하기 때문에 10이나 20량의 금으로는 못살린다고 합니다. (중략) 다만 병자는 "오류, 오류"하면서 헛소리만 하고 있어 많이 곤란한 지경입니다. (중략)오류님과 이야기를 나누셔서, 적어도 약값이라도 빌려주셔서 도와주시길 바랍니다.

(お柳は)倅の衰作と深く言ひ交した事があつて (中略)この節はその事ばかりを苦勞にして、日来内氣な素直者ゆへ。ふらノ\と煩ひ出したは、五月ばかりもあとのこと。薬も祈禱も手をつくし (中略) 看病をいたしました、段々おもる大病で、はや十二三日、食事も行かず今日此頃はととも助からぬやうすゆゑ、医者さまのおつしやるには、どふであつちものなれど、此症を治すには高価薬をつかはねばならぬから、十や二十の金では生ぬとのこと

(中略)只病人は嘘語にもお柳ノ\とばかり申して、困り切ります (中略) お柳さんに御相談なすつて、せめて其薬代をお貸なすつて、お助すなすて下さつたら、

<용례5> 『순쇼쿠 다쓰미노소노(春色辰巳園)』 (1833-34)

아직 진심으로 헤어지지 못한 두 사람의 마음. (중략)그것이 심해져 상사병(恋やみ)이라고 할 건 아니지만, 지병인 가슴앓이(胸のつかえ)에 밤늦도록의 과음과 걱정이 쌓여서 화병(癩)이 들어 드러누운 병상

まだ真底は離れやらぬ、二人が中(中略)それがかうじて恋やみと、いふにはあらねど持病のつかへ、夜を深したる無理酒の、気がねがこゝに積りては、癩といふ字の勢ひつよく、臥倒れたる病の床、

<용례6> 『우메노하루(梅之春)』 (1838-41) 15~16회

요사이 어쩐지 우울증으로 계속해서 우울해 하는 모습이기에(중략) 의사에게 살펴보게 하고 오랫동안 약을 써도 전혀 호전되는 기미가 보이지 않고, 날이 지날수록 활기는 떨어지고, 말라서 창백해져 지극히 불안한 큰병이 되니(제15회)

此のほど何やら氣病にて、兎に角鬱々風情ゆゑ、(中略) お医者に懸らせ、久しく薬を用ゐれども、一向に験もなく、日に増し元氣は減じつゝ、瘦せて漸々に色青ざめ、いと覺東なき大病となりしかば

여자에게 마음을 괴롭혔지 않습니까(중략)하룻밤 같은 여관에 묵게 되었는데 그게 그 전날 밤에 꿈에서 본 비구니와 처녀라서 사랑하게 되었다라고 하는 것은 아무리 옛날이야기라도 없을 법한 일로 진귀한 일이라고 말하고 싶지만,

(中略) 婦女に心を悩ましたぢやあございせんか (中略) 一夜同じ旅館の家へ止宿り合はして其の前の晩に夢にも見た尼と娘が恋しいとは、余り古風な物語にもなさうな事て珍しいと申したいが、(제16회)

<용례7> 『우메노하루(梅之春)』(1838-41) 15~16회

여행승"이건 어려운 병이군(중략) 염불과 기도를 해도, 양쪽의 마음이 풀릴 수 있도록 나아가지 않으면 이 병은 낫지 않아(중략) 나는 이제부터 그 일에 관해, 스미다의 미메구리까지 가야만 하니
旅僧 「モシこりやあむづかしい病気だねえ(中略) 加持祈祷をしても、双方の心のはれる様にして進ぜられないければ、此の病気は治らない(中略) 私は是れから其の事に付いて、隅田の三囲まで行かねばならぬから

4. おわりに

자유연애, 특히 여성의 자유연애에 대한 긍정이 시작되자, 상사병은 사라진다. 결핵의 치료제는 스트렙토마이신, 백혈병은 글리벡, 상사병은 자유연애였다.

<参考文献>

- 이재선(2007) 『현대소설의 서사주제학』, 문학과지성사, p.84. pp.74-80. pp.13-15.
수전 손택 지음, 이재원 옮김(2002) 『은유로서의 질병』, 이후, p.16. pp.241-253. p.16. pp.27-32.
최성민(2020) 「질병의 낭만과 공포 - 은유로서의 질병」 『문학치료연구』 54권, 한국문학치료학회, p.317. p.324.
柄谷行人(1988) 『日本近代文学の起源』, 講談社文芸文庫, pp.131-152.
福田真人(1995) 『結核の文化史』, 名古屋大学出版会, pp.100-176.
池田功(2002) 「日本近代文学と結核一負の青春文学の系譜」 『明治大学人文科学研究所紀要』 第51巻, p.12.
최현석(2011) 『인간의 모든 감정—우리는 왜 슬프고 기쁘고 사랑하고 분노하는가』, 서해문집, pp.217-219.
Anders Wikman, Staffan Marklund, Kristina Alexanderson(2005)
「Illness, disease, and sickness absence: an empirical test of differences between concepts of ill health」 『Journal of Epidemiology Community Health』, Journal of Epidemiology and Community Health, P.450.
보건복지부 보도자료 (2017.09.17) 「'우울증', 적극적으로 치료해야할 '질병'입니다」
http://www.mohw.go.kr/react/al/sal0301vw.jsp?PAR_MENU_ID=04&MENU_ID=0403&CONT_SEQ=341819&page=1
八百啓介(2009) 「『厚生新編』における心的疾病—「相思病」と「耽飲」」 『北九州市立大学文学部紀要』, 北九州市立大学文学部, pp.6-13.
정혜경(2013) 『조선후기 장편소설의 감정의 미학 : <창선감의록 >, <소현성록>, <유효공선행록>, <현씨양옹쌍린기>를 중심으로』, 고려대학교 대학원, pp.126-127.
이미령(2018) 「헤이안 문학에 나타난 일본인의 질병관」 『일어일문학연구』 제105집, 한국일어일문학회, p.34.
崔泰和(2009) 「為永春水と松亭金水—人情本の「不易体」と「流行体」について—」 『国語と国文学』 88-10, 東京大学国語国文学会, pp.45-58.

- _____ (2017) 「『梅之春』における春水流の使い方」 『일본언어문화』 40권, 한국일본언어문화학회, pp.175-192.
- _____ (2017) 「에도의 유행신(流行神)과 서민의 종교경제활동－『우메노하루(梅之春)』를 중심으로－」 『일본언어문화』 39권, 한국일본언어문화학회, pp. 227 - 246.
- 為永春水(1947) 『梅之春』 (『江戸軟派全集』), 江戸軟派全集刊行会, pp.105-109.
- 山崎麓校訂(1928) 『人情本傑作集』 (『帝国文庫』 19), 博文館, pp.120-121.
- 為永春水(1983) 『春色辰巳園』 (『日本古典文学大系』 64), 岩波書店, p.402.

일본의 선향 전래설 검토

김영(대구한의대)

1. 들어가기

일본 선향의 기원은 어디일까. 일본은 ‘네리코(練香)’라는 전통향(熏物)이 『겐지모노가타리』를 비롯한 일본 고전문학에 등장하는 것을 시작으로 무사시대 침향이나 백단 등을 썰어 태우는 향목(香木)문화가 발전, 에도시대 드디어 선향(線香)의 형태로 전승되었다고 강조한다. 그런데 일본 선향의 전래와 역사에 대해서는 아직 밝혀지지 않은 점이 많다.

일본 향 연구의 최고권위자인 야마다 겐타로(山田憲太郎)¹³⁾는 16세기말의 『본초강목』(1578)에 ‘선향(線香)’이 처음 등장하기 때문에 선향 제조가 시작된 것은 16세기 중국이라고 추측한다. 그러나 30년 먼저 편찬된 일본의 『운포이로하슈(運歩色葉集)』(1548)에 ‘선향(線香)’이라는 단어가 먼저 나타난다. 사료의 기록만 보면, 일본이 중국보다 먼저 선향을 제조했다고 추측할 수 있다. 하지만 야마다는 무슨 근거에서인지 『운포이로하슈』의 기록은 중국 선향에 대한 기록이며, 선향의 발상지는 중국이라고 추정한다. 이처럼 야마다의 지적인 근거 없이 도출해낸 연구결과로 신빙성이 결여되어 있다. 이러한 배경에는 중국적인 것을 통해 일본의 향 문화를 파악해 왔던 이제까지의 일본 고대 문화사 연구방법에 문제가 있음을 제기하고 싶기 때문이다¹⁴⁾.

이와 함께, 본 논문의 계기가 된 자료는 사카이의 선향사료인 『堺の薰物線香』다. 메이지 35년 당시 사카이훈물조합이 편찬한 사료로 아즈치모모야마 시대의 사카이 선향의 역사를 담은 책이다. 제2차 세계대전으로 대부분의 문헌과 자료가 소실된 상태에서 1961년 피난처 창고에서 우연히 발견되어 복각된 자료이며 2015년 일본 언론에도 소개되었다¹⁵⁾. 여기에는 사카이 선향의 시작을 ‘한반도’라고 기록하고 있지만 아직 국내에는 소개된 적이 없다. 본고에서는 일본 향 사료에 나타난 한반도의 향 문화 기록 검토를 통해 한일 양국의 향 문화 관련양상을 엿보고자 한다.

2. 일본의 선향 전래설

1) 나가사키 전래설

야마다 겐타로(山田憲太郎)¹⁶⁾는 최초 중국에서 일본으로 선향 제조법이 전해졌다고 주장한다. 야마다의 『나가사키야와구사(長崎夜話草)』의 기록에 따라 일본에서 선향이 제조되기 시작한 것은 18세기라고 추정한다.

에도시대 나가사키의 고사(古事) 및 풍속, 특산물 등을 엮어놓은 니시카와 조켄(西川如見)의

13) 山田憲太郎(1978) 『香料 日本のにおい』法政大学出版部, pp.137-138

14) 이것은 비단 일본뿐 아니라 우리도 이제까지 ‘중화적 세계관’이 곧 동양적 세계관이라고 착각해온 우리의 인식에 경종을 울리는 일이다.

15) 日本経済新聞 「日本の線香 堺がルーツ?」 2015.3.21자

16) 山田憲太郎(1978) 『香料 日本のにおい』法政大学出版部, pp.137-138

『나가사키야와구사(長崎夜話草)』(1720년 발간)에는 고토 잇칸(五島一官)이라는 자가 중국의 복주(福州, 복건성)에서 선향을 가져와 나가사키(長崎)에서 최초로 선향을 만들기 시작했다고 기록한다.

○線香 根本五島一官といふ者福州より伝へ来りて長崎にて造り初め人にも教へけるより漸く榮へたり。五島一官父子同名にて線香造りしハ子一官にて後清川某と日本名に改む。国姓爺か友として福州へ往し者也。前巻に記す17)。

위 기록에 따르면, 고토 잇칸은 중국 복건성에서 선향의 제조법을 가져와 나가사키에서 처음으로 그 가르침을 전수해 번영을 이루었다. 이후 고토 부자(父子)는 기요카와(清川)로 개명했으며 국성야(国姓爺)의 친구로 복건성에 왕래했다고 한다.

국성야(国姓爺)란 정성공(1624-1662)을 일컫는다. 정성공의 아버지 정지룡은 규슈 나가사키에서 하급무사의 딸과 결혼해 정성공을 낳았다. 이미 복건성에서 정지룡의 명성은 자자했으며 정성공 대에 와서는 복건, 절강, 광둥을 제압하는 해상왕국을 구축해 일본과 대만, 류큐, 베트남에 근거를 두고 성장했다. 이후 정성공 함대는 남중국해는 물론 자바, 필리핀, 대만, 일본에 걸친 해군의 왕자로 군림한다.

따라서 고토 잇칸이 정성공의 친구로 복건성을 왕래했다는 기록은 상당히 역사적 사실에 기반한 것임을 알 수 있다. 당시 나가사키에도 정성공의 이름은 널리 알려져 있었으며 복건성을 기반으로 했던 정성공과의 교류는 세간의 이목을 집중시켰을 것이다.

그런데 『나가사키야와구사』의 기록을 사실로 받아들인다면, 정성공(1624-1662)은 17세기 중반의 인물이므로 나가사키에 선향이 전래된 것은 17세기로 추정된다. 따라서 18세기라고 주장하는 야마다 씨의 견해는 재고할 필요가 생긴다.

2) 사카이 전래설

한반도와 관련된 내용이 들어있는 『堺の薫物線香』을 그대로 인용, 번역하면 다음과 같다.

사카이는 예로부터 동남아시아 국가를 비롯해 외국 무역선이 왕래하면서 가라(伽羅), 침향(沈香) 등의 향료와 잡화를 교역한다. 따라서 사카이 시내에는 중국, 동남아시아의 물건을 취급하는 가라모노(唐物)도매상이 많았다. 특히 향료는 가라모노 도매상에서 판매되고 있는데 에도 교로쿠(享祿)·덴분(天文)시절, 향도를 즐기는 풍류인이 사카이에 나타났는데 그 중에서도 모란화상백노인(牡丹花肖柏老人)¹⁸⁾이라는 렌가시(連歌師)는 향을 사랑해 향 조합법을 전승, 소로리 신자에몬(坂宗拾)¹⁹⁾ 등의 명인 몇 명이 등장해 향의 비법을 당시 상인

17) 西川如見(1720) 『長崎夜話草』 求林堂; 出版年月日: 明31.12(일본국회도서관디지털검색, 2020.4.13.) ○선향 고토잇칸이라는 사람이 복건성에서 와서 나가사키에서 처음 만들기 시작해 다른 사람들에게도 가르쳤다. 고토 잇칸 부자(父子)는 동명으로 선향을 만들었는데 그 아들은 이후 기요카와(清川)라는 일본식 이름으로 개명했다. 유명한 정성공(鄭成功)의 친구로 복건성에 왕래했다고 기록한다. <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/766709>

18) 牡丹花肖柏(1443-1527) 무로마치 후기의 렌가시(連歌師). 만년에 사카이에 거주하며 화도와 향도, 술을 즐기는 풍류인이었다.

19) 坂内宗拾로 추정. 도요토미 히데요시(豊臣秀吉) 측근의 동화무사(御伽衆)이며 만담가의 시조라고 불리는 소로리 신자에몬(曾呂利新左衛門)일 것이다. 사카이의 전통산업 중의 하나가 검(刀)인데 칼집을 만들었던 스키모토 신자에몬(坂内宗拾)이라는 장인이 만들던 칼집은 칼이 딱 맞아서 소로리 신자에몬(曾呂利新左衛門)이란 이름이 붙었다고 한다. 가공의 인물이다.

들에게 전해 여러 가지 향을 제조하게 되었다. 그 외에도 지방의 명물로 해안가로 전파, 진코야(沈香屋)라고 향약류를 전문적으로 판매하는 기업이 이어져 덴쇼연간 사카이 야도야마치(宿屋町)의 약제사인 고니시아주로조세이(小西弥十郎如清)가 韓에 건너가 그곳에서 선향 제조법을 전수해 와서 사카에서 제조를 한 것이 일본 선향 제조의 시작이다. 이렇게 예로부터 사카이에 전해지는 향의 조합을 응용하여 널리 장사 좋은 향을 만들고 유지하게 되어, 오늘날에도 佳品으로 칭찬하고 있다²⁰⁾.

위에서 사카이의 약제사인 고니시아주로가 선향 제조법을 배워오는데 원문에서 <渡韓ノ際>이라고 밝히고 있다. 고니시 야주로²¹⁾가 건너 간 곳은 ‘韓’이다.

‘韓’을 <カラ>라고 읽는다고 가정하면, 우선 한반도로 인식하는 것이 타당할 것이다. 다음 장에서 ‘韓’에 대한 세밀한 검토와 고찰을 수행하겠지만, 이것을 한반도라고 한다면 1902년 사카이가 이 책을 편찬할 당시, 사카이는 일본 선향의 기원이 한반도라고 적시하고 있는 것이다.

하지만 앞서 야마다 켄타로의 ‘16세기에 중국으로부터’라는 주장과는 상충되는 내용이다. 그렇다면 야마다를 비롯한 많은 학자들의 ‘중국’이라는 주장이 어떻게 나오게 되었는지 그 배경을 살펴볼 필요가 있다.

3. 「カラ」의 의미와 용례

일본 고전문학 작품에 자주 등장하는 ‘カラ’는 중국의 ‘唐’이나 ‘唐からの事物’, 혹은 ‘中国を含む外国’의 의미로 해석하는 주석서가 대부분이다. 하지만 ‘カラ’는 고대 한국 남부에 형성되었던 소국 ‘加羅(=伽耶, 가야)’에서 유래하였으며, 일본과 최초로 교류한 외국이기도 했다.

이와 관련해, 가와조에(河添房江)²²⁾씨는 ‘가라, 가라쿠니는 한국의 加羅를 가리키며 조선전체(특히 반도 통일후의 신라), 나아가 8세기 건당사가 재개되면 중국의 의미로 확대, 전용되었다’고 언급한다. 그러면서 점차 ‘カラ’는 일본이 아닌, ‘외국’의 의미로 확대되면서 각 시대별 시점에서 가장 접촉이 많은 나라를 의식해 ‘カラ’라고 불렀다는 것이다.

사쿠라이(桜井満)²³⁾씨도 ‘임나(가야)는 중국문화의 장구로 중요한 존재였는데 신라와 합병되었다. (중략)가라쿠니가 한반도 전체를 가리키게 된 것은 668년 신라가 삼국을 통일한 이후임에 틀림없다’고 지적한다. 즉 ‘가라’는 일반적으로 고대 삼국을 가리키는 데서 유래해, 점차 당(중국)을 포함한 대륙전체를 나타내는 용어로 사용되었음을 시사한다.

라는 설과 실존했지만 후세 창작된 일화라는 설이 있다.

20) 堺市ハ往古ヨリ、安南、交趾、呂宋ヲ始メ、外国ノ貿易船、當津ニ、輻輳セルニヨリ、伽羅、沈香及ビ、香類雜貨、船載交易スルコト久シ、此ニ於テ市内ニ唐物問屋多ク、而シテ香類ハ唐物問屋ニ於テ賣買セラレ、享祿、天文ノ頃、香類ノ風雅ノ隱士市中ニ佳シ中ニモ牡丹花肖柏老人殊ニ香ヲ愛賞シ相繼テ坂宗拾等ノ名士數人出テヨリ香ノ秘方ヲ當時ノ商人ニ伝ヘラレ種々ノ香ヲ製出センメラタリ之レ他、地方ニアラザリシカ故ニ、當津ノ名産トシテ海内ニ伝播スルニ至リ、沈香屋ト稱シ、香類ヲ専門ニ商フモノ相繼テ起ル天正年間堺、宿屋町葉種商、小西弥十郎如清ト云フ人渡韓ノ際、彼地ニ於テ、線香製造ノ法ヲ伝習シ来リ、堺ニ製造ヲ、ナシタルヲ、我国ニテ、線香製造ノ初トス、而シテ當市ハ往古ヨリ香ノ配合ノ秘方伝アリカ故ニ、之レヲ、線香ニ應用ヲナシタルヲ以テ、我国ニ産スル中ニモ、最モ佳品トシテ、賞揚セラレ。(堺市經濟部商工課・堺線香組合(編) (1963) 『堺市の線香産業』 pp.8-9)

21) 고니시아주로에 대해서는 생몰년 미상으로 잘 알려져 있지 않은데 임진왜란 왜의 적장이었던 고니시유키나가의 형이라는 설도 있으나 명확하지 않다. 도요토미 히데요시를 섬기다가 1592년 임진왜란이 시작되면 히젠 나고야 성으로 들어가지만 곧 병이 생겨 사카에서 교토로 돌아와 사망했다.

22) 河添房江, 皆川雅樹(2011) 『唐物と東アジア』 勉誠出版, p.52.

23) 桜井満 (1992) 『万葉びとの世界：民俗と文化』 日本の民俗学シリーズ10, 雄山閣出版, p.5

현대 일본어 사전류도 이것을 충실히 반영하고 있다. 『角川古語大辞典』²⁴⁾ 「から(韓,唐,漢)」 항목에는 ‘①外国の国名。もと朝鮮半島南岸の弁韓にあった小国「加羅」の名に起る。(中略)高級・貴重などの属性を意識して用いられる。②からものの略。③接頭名詞に冠して、外国産もしくは外国風のものであることを表す。上代には多く朝鮮を意識しているが、平安時代以降は中国が意識されている。ことに多いのは「からあふひ」「からむし」「からもの」のように植物名、特に動物名に冠する場合と「からおび」「からころも」「からひつ」など衣服や器物名に冠する場合であり、後者は通常、高級・精巧・貴重などの意を含んでいる。

위에 의하면, 「カラ」는 고대 한국을 가리키는 「가라(加羅)」에서 유래했으며 점차 당(唐)을 포함한 외국을 의미하는 말로 확대, 사용되었다는 것이다. 하지만 종래 「가라」라는 표현은 대부분의 학자들이 ‘唐’으로 해석하는 경향이 많아 일본문학사나 역사서의 텍스트분석에 오류를 일으키는 원인이 되었다.

이미 미나가와(皆川雅樹)²⁵⁾와 세키(関周一)²⁶⁾는 「카라モノ」에 부여된 관념의 배경 연구와 일본 사회에 대한 「카라モノ」의 영향력에 대해 세밀하게 고찰한 바 있으며, 최근 일본문학계 내에서도 가와조에(河添房江) 씨를 중심으로 ‘가라모노(唐物)는 중국산뿐만 아니라, 아시아와 중세 유럽을 포함한 외래품의 총칭으로 파악해야 한다’는 언급²⁷⁾이 나오고 있다.

그렇다면 위 기록의 ‘韓’ 또한 ‘한반도’일 가능성이 농후해 진다. 일본의 향 관련 사료에도 고대 한반도를 연상시키는 「カラ」가 등장한다. 다음 장에서는 이와 관련한 용례를 살펴본다.

4. 일본 향서(香書)에 나타난 한반도 기록

쇼소인(正倉院)²⁸⁾은 나라(奈良)지방 도다이지(東大寺) 안에 있는 일본왕실의 보물창고로 ‘란자타이(蘭奢待)’라는 거대한 국보급 향목이 소장되어 있다. 일본사 교과서에도 등장하는 란자타이는 756년에 고묘(光明)왕후가 도다이지에 헌납했다고 알려져 있으며²⁹⁾ 이후 약 1300년간 쇼소인에 전해지고 있는 국보 향목(香木)이다.

그런데 최근 쇼소인의 보물가운데 의외로 적지 않은 신라문물이 섞여있다는 것이 밝혀지고 있다. 8세기 중엽 신라의 향과 향목이 일본에 수출되었다는 기록인데, 신라의 대일(対日) 수출품은 일본 쇼소인에 소장되어 있는 『매신라물해(買新羅物解)』에 나타난다. 여기에는 침향·육계·청목향·사향·유향·정자 등 서역과 동남아시아에서 생산되는 향료가 포함되어 있으며³⁰⁾ 신라를 통해 일본으로 수출되었다. 그렇다면 신라와 일본은 해조교(平城京)를 중심으로 직접교역을 했으며³¹⁾ 일본 향의 기원이 ‘한반도(韓)’일 가능성도 충분히 검토할 만하다.

24) 中村幸彦編 『角川古語大辞典』1982、角川出版

25) 皆川雅樹(2006) 「平安朝の「唐物」研究と東アジア」 『歴史評論』 p.680

26) 関周一(2002) 「唐物の流通と消費」 『国立歴史民俗博物館研究年報』 p.92

27) 河添房江, 皆川雅樹(2011) 『唐物と東アジア』 勉誠出版, pp.4-7.

28) 聖武천황의 유품을 헌납하면서 만들어진 東大寺의 보물창고로 일본왕실 궁내청에서 관리하고 있다. 천황의 직허가 있어야 들어갈 수 있다.

29) 무로마치시대부터 현대에 이르기까지 일본의 각종 국어사전이나 백과사전에 그 이름을 실고 있는 란자타이는 8세기 쇼무천황의 유품으로 쇼소인에 헌납되었다고 하는데 사실상 그 시기와 경위, 사실 여부 등이 불분명하다.(김영(2019) 「진설의 향목, 쇼소인(正倉院)의 란자타이(蘭奢待)」 일어일문학82, pp.95-112참조)

30) 무함마드 칸수(1992) 『新羅·西域交流史』 단국대학교, pp.234-pp.235

31) 永正美嘉(2003) 「新羅의 対日香薬貿易」 박사학위논문, 서울대학교 국사학과, pp.1-78

이렇게 한반도와의 교역을 통해 일본에 전래된 향은 가마쿠라시대 후기부터 각종 침향을 태우며 도락을 즐기는 ‘문향(聞香)’이 왕성해지고 이후 향도(香道)로 완성된다. 한편, 쇼쇼인의 향목은 란자타이라는 아호(雅号)가 붙여지기 전, 향목 중에서도 최고급 침향만을 일컫는 칭호인 가라(伽羅)로 불려졌다. 1465년 아시카가 요시마사(足利義政)쇼군이 천황의 칙허를 받아 란자타이를 절향하는데 이것을 란자타이 절향사건(蘭奢待戴香)이라 칭한다. 요시마사는 자신의 예술세계에 몰두해 오늘날 일본 문화의 원류라고도 할 수 있는 히가시야마(東山)문화를 구축한 인물이다. 요시마사는 사사키 도요로부터 물려받은 막대한 향목 177종을 산조니시 사네타카(三条西実隆)와 시노소신(志野宗信)에게 명령하여 체계화시킨다. 이렇게 해서 완성된 향목의 분류법이 ‘육국오미(六国五味)’인데 이는 향목의 생산지와 혀에서 느끼는 맛으로 향목을 선별하는 획기적인 방법이었다. 특히 오미(五味)의 모든 특징을 가진 최고 품위의 침향을 「伽羅」라고 부르고 칭송했다. 침향의 생산지별로 분류한 6종과 침향의 맛을 미각의 5감으로 분류해서 체계화했다³²⁾.

그런데 6종 중에서 다른 5종은 모두 침향의 생산지별 분류(타이, 남만, 말라카, 인도, 수마트라)로 여겨지는데, 최고급 침향인 「伽羅」만이 생산지가 아닌 방향의 특성을 가진 향목으로 규정하고 있다. 에도시대가 되면 「伽羅」는 ‘매우 훌륭하다’ 혹은 ‘멋진, 아름다운’ 등의 의미로 변용되었다. 겐로쿠시대, 향목은 공가(公家)나 무사계급뿐만 아니라, 일반 서민도 즐길 수 있을 정도로 꽤 보급되었다. 하지만 「伽羅」만은 서민층이 도저히 손댈 수 없는 고가의 향물이었기 때문에 「伽羅」에 대한 동경과 선망은 높아질 뿐이었다.

18세기 향서 『고코초세쓰(古香徴説)』³³⁾은, ‘명향 중에 東大寺가 있습니다만, 이것은 북극성이나 오악(五岳)과 같은 것입니다. 전해지는 바에 의하면, 이 향은 나라덴표(729-749)시대에 百濟에서 조공 받은 것으로 되어있습니다’라고 기록한다. 원문의 ‘百濟の貢ずるところ’란 무엇일까. 백제는 660년에 이미 멸망해서 덴표시대의 교역상대는 당(唐)과 신라(新羅)였다. 따라서 여기서 백제는 신라를 가리키며, 이러한 혼란은 당시 『고코초세쓰』뿐 아니라, 다른 사료에도 흔히 나타나는 양상이다. 예를 들면, 『인료켄니치로쿠(蔭涼軒日録)』³⁴⁾에도 1490년 2월 5일조 기사에 ‘침향은 남방의 백제국(어딘지 불명)에서 나와, 류큐를 거쳐 대당·고려·일본으로 건너왔다’고 하는 기사가 있다. 모두 향목과 한반도와의 깊은 관련성을 엿볼 수 있는 자료다.

이와 같이, 「伽羅」는 본래 침향 중의 침향, 최고급 품질의 침향목에 붙이는 이름이었는데 점차 ‘훌륭함’의 찬사로 그 의미가 확대되고 있다. 이처럼 「伽羅」의 변천사와 교류양상을 살펴보면, 고대 한국 「伽羅(=伽耶)」과의 관련성이 떠오른다.

이러한 관련양상을 파악하기 위해서는 동시대 한반도의 향 문화와 선향 자체에 대한 심층 연구가 요구된다. 고니시야주로가 한반도에서 선향의 제조기술을 배워갔다고 한다면 구체적인 장소와 방법 등에 관한 연구가 병행되어야 할 것이다. 당시 한반도의 선향 제조 기술에 대한 상세한 고찰은 향후 후속연구에서 기술할 계획이다.

32) 稲坂良弘(2011) 『香と日本人』 角川文庫、p.56.

33) 江田世恭編(1783) 『古香徴説』(복각; 翠川文子外編 (2010) 『古香徴説・古香徴説別集』 香書に親む会)

34) 무로마치시대의 공용일기, 당시 선종의 제도, 문물, 무로마치 막부의 정치상이나 무가사회의 동정 등을 엿볼 수 있는 중요한 자료이다.

議論の日本文化コンテンツに対する 韓国の受け入れ方と批判の論点について -日本のアニメを中心に-

朴熙永 (ハンバッド)

1. はじめに

最近の韓日関係は前例のない状況を迎え、急速に悪化している。両国間の激しい政治・経済的論点に関する議論はともかく、日本の政権による極端な右傾化現象、排他的な嫌韓意識、帝国主義時代の軍国主義に向かう平和憲法の改正の動きなど、敏感で容易ではない問題が次第に積み、極端に向かっている状況だ。このように2000年代半ばから後半まで続く悪化の一途を辿る韓日関係と嫌韓の気配は韓国に対する日本人の認識をさらに悪化させた。

一方、文化コンテンツ強国である日本から発信される様々な文化コンテンツは相当な波及力を持ち、国内市場を蚕食してきた。日本で創出された文化コンテンツがいつも成功するわけにはいかなかったが、基本的に日本国内で話題性と人気をえた文化コンテンツは韓国の消費者に人気をえる場合が多かった。結局、韓国の国内で受け入れる日本の文化コンテンツに対する明確かつ具体的な理解ときちんとした認識が確立される必要がある。そして現在無分別な日本文化コンテンツの消費と享有がもたらす副作用に対する徹底した警戒と注意がいつにも増して必要な時期と言えよう。国家と国家間の問題を文化の領域に介入させて投影させてはならないのはもちろんで、個人と違う次元で受け入れなければならないが、韓日間の特殊な関係を考えると、単純に別の問題として切り離して考えることもできないのもまた現実でもある。

このような韓日両国間の反目と対立が国家的問題として浮上した時に、韓国は歴史の歪曲、軍国主義的右翼性向の人気ある日本文化コンテンツに対してどのような姿勢で対処すべきか、悩むべき時点に置かれている。

したがって、本発表はこのような日々硬直化しつつある最近の韓日関係の中で、韓国の国内で人気の日本文化コンテンツに対する位相を検証し、その中で変化する認識を探ってみようという意図から模索された。

2. 日本の文化産業戦略とアニメ

2.1 日本文化産業の流れと戦略

戦後から1980年代までは日本はまともな文化を担う政策部門や政府の介入、支援が相当の間行われず、主に政府ではなく民間部分の自律性に任せる基調を維持してきた。しかし1970年代半ば以降、日本経済の転換期を迎える時期とともに、文化産業の基調が少しずつでも変化し始めた。日本経済の好況とともに文化産業の効用と意義に注目し始めたのである。西欧文化の文化商品が派生する高収益性に基づいた文化産業に対する反省と自覚が始まり、海外で人気を博している文化コンテンツに注目しつつ、文化政策の支援を通じた日本

文化産業の強化とともに日本のイメージ向上まで模索する形で「文化立国と文化産業立国」政策が徐々に推進されてきた。

しかし、「文化立国」が構想され強調され始めたことは何度かあったが、文化政策の本格的な意味合いにおける転換は1990年代以降からだという。このような本格的な日本文化産業の政策的変化がもたらされた背景にははたしてどのようなものがあったのか見てみよう。

1990年代以降、世界秩序と環境は急激に変化し始める。この時期は「脱冷戦、世界化、地域主義の動き」が重要なイシューとして浮上し、政治とイデオロギーから脱して新しい形の国家間の文化を通じた無限の競争体系が始まる時点であった。消耗的な政治論争と理念を越え、経済、文化的利益と環境を何よりも優先する時期に入った。新しい形である文化戦争の時期と言っても差し支えない。1990年代半ば以降、グローバル文化時代の幕開けとともに国家間の文化的な壁は取り壊され、文化のアイデンティティが曖昧になり、「文化力」の増大が国家間の優位を占める重要な要因としてより強化された。

新しい技術の進歩はアナログ時代からデジタル時代へ導き、さらにインターネットを中心とした情報化時代へと急速に進展していった。接することのできる知識と文化に関する様々な知識と情報が地理的境界を越え、伝播、受容できる大衆的インフラが造成され、無限の情報に対する大衆的欲求を満足させ、新しい混種文化と文化コンテンツを創出するに至った。このような時代的精神とともに、日本の文化的影響力はより倍になり広がり始めている。その間、民間部分を通じて自由に展開されてきた日本の文化コンテンツが日本の文化産業政策の強化とともに体系的な形への模索を図るようになった。

数十年間、蓄積された様々な日本の文化コンテンツは目覚ましい成長を遂げ、1990年代の時代の流れに合わせて変貌し始めたのである。漫画、アニメ、ゲームなどの大衆文化が文化産業の中心となる文化コンテンツとして定着し始めたのである。このような原動力には特に漫画、アニメ、ゲームの海外市場進出の積極的な拡大と、海外の授賞式において受賞、統計的指標において他の日本文化コンテンツよりも数値上の優位を占めている点などが働いている。

結局、時代の変化と流れとともに確固たる輸出産業として位置づけられている日本の文化コンテンツの積極的な政府レベルでの本格的な支援は不可欠な形になっていく。日本の文化コンテンツの本格的な海外進出と注目すべき成果は彼らの文化に対する誇りと確信を一層広げる原動力となった。このような成果は従来の日本の文化コンテンツに対する政府の立場を積極的な関与に転じる契機となった。

2.2 グローバルコンテンツとして日本のアニメ

近年では、クールジャパンを通じた日本の文化コンテンツの活性化と発信政策は全方位的に展開されてきた。中でも日本のアニメはクールジャパン戦略の中核コンテンツとして重要な役割を果たしている。もちろん日本のアニメはクールジャパン政策が定立される前から日本の文化コンテンツ産業の中核としてユニークな姿を広めてきたことは周知の事実である。

最近までの日本のアニメ産業の流れと動向は以下のとおり整理できる。日本のアニメパワーはその底力だけ様々な時期にわたってブームを巻き起こしてきた。通常、日本のアニメブームを時期別に使い分ける方法には様々な基準があるが、一般的に<宇宙少年アトム>に代表される1960年代を「第一次アニメブーム」といい、<宇宙戦艦ヤマト>や『ガンダム』などが放映された1970年代後半から1980年代後半までの約10年余りを「第二次ブーム」、<新世紀エヴァンゲリオン>と<ポケットモンスター>、<千と千尋の神隠し>などのメガヒットを記録した1990年代後半から2000年代前半を「第3次ブーム」と見ている。しかし一時的には2006年以降、やや低迷期に入ることになる。全体として縮小傾向にあった日本のアニメ産業は2016年後半に入り、新たな転換期を迎えふたたびアニメブームを巻き起こすようになるが、現在この時期を「第4次アニメブーム」と呼んでいる。第4次ブームの決定的な契機となった作品が2016年8月に劇場版アニメとして公開され、ものすご

い人気を博した新海誠監督の〈君の名は〉である。驚くべき観客動員力を見せながら大ヒットした。また、このブームは日本の国内に留まらず、海外市場にまで拡大した。韓国でも2017年1月に公開され、367万人を動員、歴代日本映画観客動員数第1位を記録した。それに加え、北米、中南米、ヨーロッパなど世界40カ国以上で公開され、世界中で高い興行収入を記録した作品となったという。

このように、日本のアニメは爆発的な人気を博した興行とともに海外の各種映画祭での受賞歴を増しつつ、日本のアニメの存在感は日増しに高まっている。こうした中、近年、クールジャパン戦略を通じた積極的なアニメ産業の強化された支援政策は日本がいかにアニメ産業に力を入れているかを示すものといえる。このような最近の傾向は、日本のアニメ産業界の環境の変化をもたらし、アニメコンテンツの活用をより広く模索するきっかけをつくってくれた。

3. 日本のアニメに対する韓国の視線と様々な事例

3.1 議論のアニメに対する憂慮

確認したように日本のアニメは世界のアニメ市場で高い割合を占めている。アニメ産業の歴史と文化の深さ、産業形成が古くから維持・発展しているだけに、日本のアニメ市場に忠誠心を示すファンは日本の自国民だけでなく、世界各国にも多数存在している。しかし、現在問題化されているポイントは右傾化しつつある日本社会で限度を超える嫌韓と右翼を象徴する日本のアニメが大きな制約なく登場し、消費されているという事実だ。

日本は特に「どんな内容であれ、どんな思想でもどんな素材であれ漫画にできる日本」という声まで出ているほど創作産業に対する規制は大きくない。それほど危険で敏感な素材に対する制約が少なく、特に現在、日本社会で右翼的あるいは軍国主義的な素材が美化されて使われても、これといった制裁が存在しないということだ。アニメだけでなく、一般小説分野でも嫌韓流は長い間ベストセラーになるほど深刻な状況である。特にこのような風潮は蔓延して全く関係のない作品でも気兼ねなく旭日旗が登場する姿が見られるという点がまた問題であり、日本の文化産業とサブカルチャー系が好きな韓国ファンには怒りを味わわせる要素になってしまった。

今のような韓日両国間の反目と対立が国家的問題として浮上した時に、韓国は歴史歪曲、軍国主義的右翼性向の日本文化コンテンツに対してどのような姿勢で対処すべきか、悩むべき時点に置かれている。

3.2 議論の实在と事例

言及したように最近になって、嫌韓と右翼の象徴性がさらに強まった日本では、平和・人権・民主主義の内容を否定して侵略戦争を称賛したり、植民地支配はもちろん、軍国主義の象徴である靖国神社に敬意を表し、韓国の歴史・文化などを根拠なしに歪曲して卑下する内容が登場している。このような嫌韓と右翼の傾向を様々な側面から表している日本のアニメーションの例とそれが象徴する意味について考えてみよう。

まず、アニメ〈進撃の巨人〉の作品内に登場するキャラクターについての議論を見ると、ドットピクシス司令官というキャラクターのモチーフになったのが秋山好古という人物であり、この人物は日露戦争を勝利に導いた張本人で、韓国の立場から見ると否定的な影響を与えた人物である。これは作家の諫山創のSNSで秋山を尊敬しているという言及を見ると単純に似たキャラクターではなく実際にこの人物をモチーフに作品内にキャラクターを作ったということが類推できる。また、作中のミカサ、アッカーマンというキャラクターもまた、当時の日露戦争時の日本の戦艦の名前だと作者が明らかにしている。

しかし、何よりも爆発的な人気の足をひっぱった最大の要因は、原作者の諫山創がSNSや各種インタビューで残した彼の言及から始まっているという点が特異である。作家の非公式ツイッターアカウントを通じた「植民地

近代化論」の論議だ。諫山創の文章は、韓国と日本両国に大きな波紋を投げかけることになる。ツイッターアカウントに対する真偽の論議はともかく、朝鮮の植民地近代化に対する作者自身の右翼的傾向の文章は過去の植民地被害の痛みを経験した東アジア国家のネチズンから集中的な攻撃を受けることになった。このような状況は、何よりも大変な人気を博していた〈進撃の巨人〉の作品自体の人気下落とともに、作家に対する否定的な認識の拡散をもたらした。

次に〈鬼滅の刃〉は週刊少年ジャンプで連載されている作家、吾峠呼世晴のテレビアニメである。当時、主人公が旭日旗として連想されるイヤリングを着用していたことが問題になったという。その後、海外輸出向けでは議論を避けるため旭日旗のデザインに変化を与えた。まだミスなのか意図的なのかは明確にされていないが、最近になって最も注目を集めている日本のアニメ作品なのでこのような議論はファンの間で相当な惜しさを残している。

上記の事例で言及した作品だけでなく、歴史歪曲、旭日旗、戦争美化などの論争を生んだ作品は数え切れないほど多い。そのようなアニメを直接見たりあるいは間接的に確認して考えられる点は実際、作家が右翼性向だから彼の思想によってあるいは意図を持って作られた作品があり、歴史意識の不足からできた作品に分けられるということである。結局、いずれも日本の右傾化政策の結果であることは間違いない。

このように嫌韓と右翼のアニメは様々な問題点を抱えているが、何よりもこれらの作品を消費して享受する私たちの正しい見方と認識がいつにも増して要求される時期であることを肝に銘じなければならないということである。

4. 結論に代えて-嫌韓と右翼のアニメ受け入れ方と批判の姿勢

일본에서의 외국인 이주민 대상 ‘재난안전정보 다국어지원’ 현황

한아름·이충호(부산외국어대학교)

1. 들어가며

한일 양국의 외국인 이주민 대상 재난정보 제공에 관한 정책은 양국 간에 다소 차이를 보이고 있는데, 가장 상이한 점은 한국의 경우 이주민에 대한 지원이 정부기관의 주도로 이루어지고 있는 반면에, 일본의 경우는 지자체 및 민간 주도로 이루어지고 있다는 점이다. 일본의 경우 지자체와 민간 주도로 이주민에 대한 지원이 시행되고 있다고는 하지만, 지원에 대한 기본적인 가이드라인은 우리나라의 행정안전부에 해당하는 정부의 주무기관인 총무성(総務省)에서 책정하여 제공하고 있다.

일본 총무성은 2006년에 도도부현(都道府県) 및 시구정촌(市区町村)에서의 다문화공생 추진에 관한 지침과 계획의 책정에 활용하기 위한 가이드라인으로 「지역에서의 다문화공생추진플랜(地域における多文化共生推進プラン)」을 책정하여 전달했다.³⁵⁾ 그 내용을 살펴보면, 지역에서의 다문화공생의 의의를 「외국인주민의 수용주체로서의 지역」 「외국인주민의 인권보장」 「지역의 활성화」 「주민의 이문화 이해력 향상」 및 「유니버설디자인의 마을만들기」로 제시하고, ①커뮤니케이션 지원(지역에서의 정보의 다국어화, 일본어 및 일본사회에 관한 학습 지원), ②생활지원(거주, 교육, 노동환경, 의료·보건·복지, 방재 등), ③다문화공생 마을만들기(지역사회에 대한 의식계발, 외국인주민의 자립과 사회참가) 및 ④추진체제의 정비에 대해 구체적인 시책을 제시했다.

그 후 외국인주민의 증가와 다국적화³⁶⁾, 「기능실습(技能実習)³⁷⁾」 및 「특정기능(特定技能)³⁸⁾」과 같은 새로운 체류자격의 신설, 디지털화의 진전, 기상재해의 심각화 등 다문화공생시책을 둘러싼 사회경제정세의 큰 변화에 따라, 일본정부는 2018년 12월에 「외국인의 수용·공생을 위한 종합적 대응책」을 정리하여 순차적으로 개정을 진행하고³⁹⁾, 확충을 도모하는 등 외국인의 수용과 공생사회

35) 총무성은 2005년 6월 「다문화공생 추진에 관한 연구회(多文化共生の推進に関する研究会)」를 설치하고, 다문화공생시책의 방식에 대해 검토를 하고, 2006년 3월 「다문화공생 추진에 관한 연구회 보고서(多文化共生の推進に関する研究会報告書)」를 정리했다.

36) 일본에서의 외국인의 국적은 1980년대까지는 한국, 조선이나 중국이 대부분을 차지하고 있었으나, 1990년대에 들어 중남미가 증가하고, 최근에는 베트남이나 필리핀 등 동남아시아가 증가하고 있다.

37) 일본에서 배양된 기능, 기술 또는 지식을 개발도상지역 등에 이전하고, 해당 개발도상지역의 경제발전을 담당할 인재양성에 기여하는 것을 목적으로 1993년에 창설된 제도.

38) 중소규모사업자를 비롯한 심각한 인력부족에 대응하기 위해, 생산성향상이나 국내인재의 확보를 위해 노력해도 곤란한 상황에 놓인 산업분야에서, 일정의 전문성·기능을 가진 외국인을 수용해 가는 제도를 구축하기 위해 2019년에 창설되었다.

39) 2018년 외국인인재를 적절히 수용하여 공생사회 실현을 통해 일본인과 외국인이 안심하고 안전하게 생활할 수 있는 사회의 실현에 기여한다고 하는 목적을 달성하기 위해 방향성을 제시한 것으로, 2020년 코로나바이러스에 대응하고 외국인 수용환경을 더욱 충실히 하기 위해 개정되었다.

만들기에 정부 전체가 주력하고 있다. 또한 지방공공단체에서도 다문화공생 추진에 관한 지침과 계획을 개정하고, 지역사회에서의 활약추진 등 새로운 시점을 포함시키는 움직임을 보이고 있다.

특히 2020년 이후에는 코로나바이러스의 확산으로 인해 재난 시 외국인 이주민에 대한 긴급정보 전달체계의 정비의 필요성이 대두되고 있으며, 그중에서도 의료, 보건 및 방재 분야에서의 정보전달과 의사소통을 위한 다국어지원의 정립이 새로운 화두로 떠오르고 있다.

본 발표에서는 사회경제정세의 변화에 따른 일본의 다문화공생 정책의 변화를 ‘재난안전정보에 대한 다국어지원’을 중심으로 살펴보고자 한다.

2. 외국인 이주민에 대한 다국어지원 시책의 변화

앞서 기술했듯이 일본의 경우, 총무성을 중심으로 재난관리 및 다국어지원 관련 정책의 정비를 추진하고 있는데, 지방자치법 제245조의 4 제1항에 기초하여 총무성에서 발간한 「지역에서의 다문화공생 추진 플랜」에 이에 대한 구체적인 내용이 기재되어 있다.

최근 2020년에 개정된 일본 총무성의 「지역에서의 다문화공생 추진 플랜」 개정판에서는, 외국인 주민의 다국적화에 따른 변화와 입국관리제도의 개정(일손부족 해결을 위한 ‘특정기능(特定技能)’이라는 제도가 추가)에 발맞추어, 지방공공단체에서 다양성의 추진을 정책과제로 제시하여 담당부서를 설치하고 조례를 제정하는 등 다양성과 포섭성이 있는 사회를 실현하기 위해 노력하고 있음을 표명하고 있다.

특히 외국인 이주민에 대한 ‘다국어 정보제공’의 측면에서는 ‘디지털화의 진전’과 ‘기상재해의 심각화’, ‘코로나바이러스 감염의 영향’ 등으로 인한 사회경제정세의 변화에 대한 대응책을 다음과 같이 제시하고 있다.

우선 ‘디지털화의 진전’에 관해서는 4차 산업혁명으로 인해 세계적으로 급속한 디지털혁명이 진행되는 가운데, 일본사회도 1인당 1대씩 스마트폰을 보유하는 등 디지털화의 발전으로 인해 스마트폰을 활용한 음성번역 앱을 비롯한 새로운 서비스의 보급이 진전하고 있다. 또 다국어번역기술에 대해서는 총무성이 2025년에 AI에 의한 동시통역을 실현하기 위한 기술의 연구개발을 2020년부터 진행하고 있다.

그리고 ‘기상재해의 심각화’에 관해서는 최근 1시간의 강우량이 50mm를 초과하는 집중강우가 빈발하고 등 기상재해가 빈발하고 있고, 향후 30년 이내에 간토(関東)지방부터 규슈(九州)지방에 이르는 광범위한 범위에서 대규모지진이 예상되고 있는 등 기상재해의 심각성이 높아지고 있다는 점에서, 일본정부는 외국인이 필요로 하는 방재·기상정보에 쉽게 접근할 수 있도록 방재·기상정보에 관한 다국어사전(14개국어)을 작성하여, 스마트폰 앱 ‘safety tips’⁴⁰⁾에 반영하는 등 방재·기상정보의 다국어화를 추진하고 있다.

한편 ‘코로나바이러스 감염의 영향’에 관해서는 세계적인 코로나바이러스 감염이 장기간 유행하는 가운데, 일본정부는 감염종료 후의 포스트 코로나시대를 대비하여 다양성을 살리고, 위험대처능력을 높이기 위한 새로운 일상의 구축을 추진하고 있으며, 외국인 이주민에 대해서는 정부와 지방공공단체, 지역국제화협회, NHK(NHK WORLD-JAPAN), NPO 등이 다국어로 정보발신을 하며 대응하고 있다.

40) 일본 관광청 감수하에 개발된 긴급지진속보, 쓰나미경보, 분화속보, 기상특별경보, 국민보호정보, 피난권고 등을 통지하는 앱.

3. 재난 발생 시 다국어지원 체제

특히 일본 총무성(総務省)은 2020년 14년 만에 ‘지역에서의 다문화공생추진플랜’을 개정하면서 개정의 포인트 중 하나를 ‘재해발생·전염병 확대에 대비한 정보발신·상담대응의 체제를 정비’하는 것에 두고 있다. 이는 일본을 방문하는 외국인 및 외국인주민의 증가에 동반하여 재해 발생 시에 재난을 당하는 외국인의 수도 증가하고 있고⁴¹⁾, 외국인에 대한 평상시부터의 방재정보의 주지 및 재해 발생 시의 상황, 기상에 관한 정보 제공 등의 중요성이 증가함에 따라, 외국인에 관한 방재대책을 정부의 방재기본계획 및 방재업무계획에 입각하여 각 지방공공단체의 지역방재계획의 평가를 포함하여 추진하기 위한 것이다.

그중에서도 재해 시 다국어지원을 위한 대응체제의 정비를 서두르고 있다는 점에 주목할 필요가 있는데, 무엇보다 지역공공단체와 민간단체 간의 협력을 기본으로 하여, 정보전달수단과 인력양성, 그리고 재해 시 이를 총괄할 수 있는 체제 정립에 주력하고 있다.

먼저 지역공공단체와 민간단체 간의 협력에 대해 살펴보면, 재해 발생 시 외국인 이재민에 대한 다국어지원의 신속한 실시에 필요한 체제 확보를 위해, 지역국제화협회(地域国際化協会)⁴²⁾와의 연계체제를 정비함과 동시에, 지역공공단체 간에 체결하고 있는 상호지원협정에 다국어지원 체제의 정비에 필요한 인재파견을 포함하도록 검토하고 있다. 그리고 이에 더해 자원봉사자의 육성·지원, 연계·협동에 대해, 지방공공단체에서의 방재부분과 다문화공생시책 담당부분의 연계를 비롯하여, NPO나 지역의 자주방재조직 등 다양한 민간주체와의 연계·협동을 도모하고 있다.

이어서 재해 시 외국인 이재민에 대한 정보전달수단을 다양하게 활용하기 위한 시책을 구상하고 있다. 외국인 이재민에 대한 원활한 정보제공을 할 수 있도록, 평상시부터 다국어화한 방재지도를 통해 방재정보를 알리고, 재해 시에는 자치체국제화협회가 제공하고 있는 ‘재해시다국어표시시트’나 ‘재해시용픽토그램(災害時用ピクトグラム)’ 등의 활용 외에, 홈페이지나 SNS에 의한 다국어 정보발신을 실시하고 있다.

이에 더해 대규모 재해 발생 시에는 ‘재해 시 외국인지원 정보코디네이터(外国人支援情報コーディネーター, 이하 정보코디네이터)’를 활용하여, 외국인 이재민에게 다국어지원을 하는 활동거점인 「재해다국어지원센터(災害多言語支援センター)」를 설치하는 등 외국인에 대한 효과적인 정보전달을 행할 수 있는 체제를 정비하고 있다.

한편 외국인이 필요로 하는 방재·기상정보에 용이하게 접근할 수 있도록, 일본 정부 차원에서의 지원도 실시하고 있는데, 그 내용은 각 정부기관별로 다음 표와 같이 정리할 수 있다.

구분	내용
소방청	·홈페이지의 다국어화 ·방재 정보에 관한 다국어사전(14개국어)을 작성 ·외국인으로부터의 119번 통보나 외국인이 있는 구급현장에서의 활동 등에 신속·정확히 대응할 수 있도록 전화통역센터를 매개로 한 동시통역의 체제정비를 진행 ·외국인 있는 구급현장에서의 활동 등에 신속·정확히 대응할 수 있도록 외국인환자와의 커뮤니

41) 2016년 4월에 발생한 구마모토(熊本)지진에서 구마모토시 국제교류회관에서 개설한 외국인피난 대응시설에 피난한 외국인이 100명을 넘었고, 2018년 9월에 발생한 홋카이도 이부리(胆振)동부지진에서는 삿포로시가 개설한 관광객을 위한 피난소에 3일간 연인원 3000명 이상이 피난하였고, 그 중 60%가 외국인이었다.

42) 총무성에서 지역의 국제교류를 추진하는데 적합한 핵심 민간국제교류조직을 지역국제화협회(地域国際化協会)로 인정하고, 각종 지원을 실시하고 있다.

	케이션을 지원하는 다국어음성번역앱의 소방본부 도입의 촉진을 도모
기상청	·홈페이지의 다국어화 ·기상 정보에 관한 다국어사전(14개국어)을 작성
관광청	·소방청 및 기상청의 방재·기상정보에 관한 다국어사전을 「Safety tips」에 반영
내각부	·2019년 3월에 「피난권고에 관한 가이드라인(避難勧告等に関するガイドライン)」을 개정 ·「Safety tips」의 활용이나 시구정촌의 방재정보의 홈페이지의 다국어화가 중요함을 명기
총무성	·재해정보 등이 전송되는 긴급속보메일의 외국어표시에 대해서 기능향상을 추진 ·재해 시에 행정에서 제공되는 재해나 생활지원 등에 관한 정보를 정리 ·피난소 등에 있는 외국인 이재민의 수요와의 매칭을 하는 ‘정보코디네이터’의 양성연수를 2018년도부터 실시(2019년도까지 129명이 수강) ·방재기본계획(2020년 5월 29일 중앙방재회의 수정)에 총무성이 연수를 통해 재해 시 외국인 지원정보코디네이터의 육성을 도모할 것을 명기 ·도도부현 및 시정촌이 행하는 재해 시 외국인에 대한 정보전달이나 외국인을 위한 방재대책에 필요한 경비에 대해서 2020년도부터 새롭게 지방재정조치를 강구

4. 전염병 발생에 대비한 다국어지원 체제

일본에서는 코로나바이러스의 급속한 확대에 따라 모든 도도부현, 지정도시(指定都市), 중핵시(中核市) 및 외국인 집주도시 회의구성단체(外国人集住都市会議構成団体, 13市町)에서 코로나바이러스 감염에 관해 다국어로 의한 정보제공 및 상담접수를 실시하고 있다.

전염병에 관한 다국어 정보제공 및 상담 대응은 코로나바이러스의 감염 등 전염병의 확대에 대비하기 위해 일본 국내에 체류하는 외국인에 대해서 전염병에 관한 다국어 정보 제공 및 상담 대응 체제를 정비하는 것이다. 정보발신에 대해서는 배경이 되는 제도의 개요 등 외국인이 내용을 이해하기 위한 정보를 정확히 전달하도록 하고, 또 가능한 한 다국어로의 정보발신에 대해서도 지체 없이 적시에 적절히 대처하도록 하는 것이다. 이에 더해 전염병 유행에 대한 대책을 실시할 때 환자·감염자나 대책에 종사한 사람 등 외국인의 인권을 배려하는 것이 중요하다는 점에 주의하도록 하고 있다.

특히 언어지원 부분에서는 ‘피난소에서의 외국인 이재민의 전염병 대책에 대한 정보전달체계의 정비’를 서두르고 있다. 코로나바이러스 감염확대에 따라 재해가 발생하여 피난소를 개설하는 경우에는 전염병 대책에 만전을 기하는 것이 중요해졌기 때문에, 재해 시에 외국인 이재민이 피난하는 경우에 대비하여 ‘밀집을 피하는 피난방법’이나 ‘피난장소의 분산’ 등에 대해 다언어화한 방재지도를 활용하여 신속히 홍보하도록 하고 있다.⁴³⁾

5. 의료·보건서비스에서의 다국어지원 체제

의료기관에서의 다국어지원에서는 ‘다국어대응이 가능한 감염환자 취급 병원’의 파악이나 ‘원격의료통역체제’의 확보 등 피난소에서 외국인 이재민이 감염된 경우를 대비한 대응체제를 추진하고 있으며, 이와 관련하여 의료기관에서의 다국어대응의 필요성을 제기하고 있다.

지방공공단체에서는 대면통역, 전화·영상통역, 기계번역(AI앱) 등을 조합하여, 지역의 실정에 대응

43) 2020년 4월에 내각부(内閣府)·소방청(消防庁)·후생노동성(厚生労働省)으로부터 지방공공단체에 대해 ‘피난소에서의 코로나바이러스 감염증에 대한 대응에 관한 통지(避難所における新型コロナウイルス感染症への対応に関する通知)’를 발표하고 있다.

하여 의료기관에서 필요한 의료통역의 체계를 확보를 도모하고 있으며, 광역의 의료통역과건시스템(전화·영상통화를 포함)을 구축하고, 외국인주민에 관련된 의료통역의 수요와 광역에 존재하는 의료통역에 관한 인적자원의 효과적인 매칭을 구축하면서, 국제교류협회, NPO에 의한 의료통역과건이 실시되고 있는 경우는, 이러한 단체와의 연계·협동도 검토하고 있다.

한편 의료기관 문서의 다국어화가 필요한데, 의료기관에서 문진표를 비롯한 문서 등을 다국어화하여, 외국인주민이 안심하고 진찰을 받을 수 있도록 하고, 지역의 다국어 대응이 가능한 병원이나 약국에 대해서는 홈페이지에 외국인주민이 활용할 수 있도록 적극적으로 정보제공을 하고, 외국인이나 다수 거주하는 지역의 건강검진이나 상담에도 다국어대응을 할 수 있는 준비를 추진하고 있다.

6. 나오며

이상 일본의 다문화공생 정책의 변화를 ‘재난안전정보에 대한 다국어지원’을 중심으로 살펴보았다. 2020년에 개정된 일본 총무성의 「지역에서의 다문화공생 추진 플랜」 개정판에서는, ‘디지털화의 진전’과 ‘기상재해의 심각화’, ‘코로나바이러스 감염의 영향’ 등으로 인한 사회경제정세의 변화에 대응한 ‘외국인이주민의 다국어지원책’으로 AI에 의한 동시통역 실현을 위한 기술 연구개발, 방재·기상정보의 다국어화(다국어화한 방재지도의 제공, ‘다국어표시시트’나 ‘픽토그램’의 활용), ‘재해 시 외국인지원 정보코디네이터’ 활용, 「재해다국어지원센터」 설치, 코로나바이러스 감염에 관해 다국어에 의한 정보제공 및 상담접수를 실시, 피난소에서의 외국인 이재민의 전염병 대책에 대한 정보전달체계 정비, ‘다국어대응이 가능한 감염환자 취급 병원’의 파악, 의료통역과건시스템(전화·영상통화를 포함) 구축, 의료기관 문서의 다국어화, 건강검진·상담의 다국어대응 등 다양한 외국인주민 관련 다국어지원 정책이 시행되거나 정비 중에 있고, 특히 그중에서도 최근의 사회경제정세를 반영하여 ‘재난안전정보에 대한 다국어지원’에 힘을 쏟고 있다는 것을 확인할 수 있었다.

일본의 경우 이상의 다국어지원 정책을 추진함에 있어 지자체 및 민간 주도로 이루어지고 있다는 점에서 무엇보다 지역공공단체와 민간단체 간의 협력을 중시하고 있었으며, 이에 대해 중앙정부 차원에서의 지원도 뒷받침되고 있다는 것을 알 수 있었다.

한편 일본정부는 향후 효율적인 외국인주민 지원을 위해 ‘다국어지원 정책의 일원화’를 목표로 하고 있음을 표명하고 있는데, 현재 한국의 경우 행정안전부, 여성가족부, 노동고용부, 법무부 등 각 정부 부처별로 외국인을 위한 지원정책이 분산되어 있다는 점에서, 정책 시행의 효율성을 높이기 위한 일원화의 노력이 앞으로의 한일 양국의 공통의 과제라고 할 수 있을 것이다.

러일전쟁 후 가정소설에 나타난 부부상 표상과 결핵 —시노하라 레이요(篠原嶺葉)의 가정소설 「신 불여귀(新不如婦)」를 중심으로—

김효순(고려대학교 글로벌일본연구원)

시노하라 레이요(篠原嶺葉)의 「신 불여귀(新不如婦)」는 『경성신보(京城新報)』에 1908년 4월 24일부터 8월 23까지 연재된 소설로, 그 보다 2년 전인 1906년 8월 다이가쿠칸(大學館)에서 가정소설로서 단행본으로 간행된 바 있다. 작가 시노하라 레이요는 생물연도에 대해서는 미상이고 본명은 시노하라 지로(篠原璽龍)로, 1902년부터 활약한 메이지(明治)·다이쇼(大正) 시대 오락 본위의 통속 소설가이다. 작품으로는 1906년 「하이칼라 숙녀(ハイカラ令嬢)」, 1909년 「다즈코(田鶴子)」, 「신 금색야차(新金色夜叉)」 등이 있다. 「다즈코」는 오자키 고요(尾崎紅葉) 영전에 바친 대표작으로 알려져 있으며 그 외에 『간카편(換果篇)』에 수록된 「과란 티켓(青切符)」, 1913년의 「3인 후지코(三人藤子)」(전편, 후편) 등이 있다. 나가이 가후(永井荷風)의 일기인 1925년 11월 「단장정일승(斷腸亭日乘)」에는 레이요가 아자부구회(麻布区会) 의원 후보가 되었다는 기사가 있으나, 그 외에 대해서는 알려진 바가 많지 않다.

「신 불여귀」는 제목에서 알 수 있듯이, 가정 내 친구사상의 대립과 알력, 전염병에 대한 사회적 지식 등을 다루며 당시 일반 대중에게 받아들여져 베스트셀러가 되고 한국에서도 조중환이 『불여귀』로 번안하여 널리 알려지고 근대한국 문학 형성에도 결정적 역할을 하게 된 도쿠토미 로카(徳富蘆花)의 『불여귀(不如婦)』(『國民新聞』1898-1899)를 바탕으로 한 변주작이라 할 수 있다. 도쿠토미의 「불여귀」가 청일전쟁(1894-95)을 배경으로 하는 포스트 청일전쟁 소설이라 한다면, 레이요의 「신 불여귀」는 도쿠토미의 원작을 러일전쟁(1904-05)을 배경으로 하는 포스트 러일전쟁 소설로 번안한 것이라 할 수 있다.

전체적 구도 면에서 보면, 부부간(나미코와 다케오, 유리코와 도시오)의 순수한 사랑과 여 주인공인 며느리 나미코(浪子)·유리코(百合子)와 시어머니 가와시마(川島) 부인·게모 나카코(奈加子)의 갈등, 남자주인공인 아들 다케오(武男)·오바나 도시오(尾花敏男)와 어머니의 갈등, 지지와(千々石)와 아시가라(足柄)의 모략, 야마키(山木)와 그의 딸 오토요(お豊)나 사루와타리 간베(勘兵衛)와 그의 딸 시마코(島子)의 존재, 여주인공의 불치병을 구실로 시어머니가 아들이 출정한 사이 강제 이혼을 시키는 점, 그 사이 여주인공들이 처절한 죽음을 맞이한다는 비련의 모티프 등은 원작을 그대로 옮긴 가정소설의 성격을 띠고 있다. 그러나 1906년에 집필된 「신 불여귀」는 러일전쟁 발발 직전에서 러일전쟁 종결까지의 시기를 작품의 시대 배경으로 하고 있으며, 원작 「불여귀」보다 훨씬 더 시대적 콘텍스트가 전경화되어 있다. 이에 따라 작품의 기본 구도는 원작의 그것을 그대로 유지한다고 해도 구체적 설정은 상당히 변화를 주고 있다. 가장 눈에 띄는 차이는 여주인공 유리코의 아버지와 오빠라는 인물 설정이다. 유리코의 친정 아버지 니시와키 스케토시(西脇祐俊)는, 육군 소장으로 세이난전쟁(西南の役)과 대만출병에서 수훈을 세워 용맹을 떨쳤으며, 청일전쟁 때는 모여단장으로서 연

전연승 큰 공훈을 세운 군신으로 받아들여졌지만, 삼국 간섭에 의해 요동반도를 빼앗긴 울분을 못이겨 자결을 하고 오빠 요시스케(無人義祐)는 아버지의 원수를 갚고 유지를 실현하기 위해 전쟁에 참가한다. 이와 같은 설정으로 인해 「신 불여귀」는 원작의 가정 소설의 구도를 유지하면서도 러일전쟁이라는 역사적 사건을 작품을 이끌어가는 중심 모티프로 보이게 한다. 이것이 로카의 「불여귀」와 레이요의 「신 불여귀」의 가장 큰 차이라 할 수 있겠다. 두 번째로 주목할 점은 두 작품은 모두 메이지 시대의 격변하는 가족제도를 전경화시키고 있는 가정소설이지만, 청일전쟁(1894-5년)과 러일전쟁(1904-6)이라는 약 10년간의 시대의 차이를 반영하듯, 작품에서 다루어지고 있는 가족 관계나 결혼관 변화, 그에 따른 등장인물 조형에 변화를 보인다는 점이다. 동시에 도쿠토미 로카의 『불여귀』에서 작품의 낭만성을 극대화시키는 서사의 일축을 담당하였던 결핵 역시 전염병에 대한 사회적 지식의 변화에 따라, 『신 불여귀』에서는 그 활용 양상에 변화를 보이고 있다는 점이 흥미롭다.

본 발표에서는 청일전쟁을 배경으로 발표된 가정소설 도쿠토미 로카의 『불여귀』와 그것의 변주작으로 러일전쟁을 배경으로 하는 시노하라 레이요(篠原嶺葉)의 가정소설 「신 불여귀(新不如婦)」를 중심으로, 메이지시대 가족 관계의 재편 양상과 등장인물 조형을 검토하고 결핵이라는 전염병의 사회적 인식 변화가 작품의 서사에 어떤 식으로 반영되는지를 살펴보고자 한다.

전쟁과 재조일본인 가정의 아이들

- 『경성일보(京城日報)』에 실린 동화를 중심으로 -

李賢珍(高麗大)

1. 서론

재조일본인은 조선의 개항과 함께 형성되기 시작하여 한반도에 대한 일본의 영향력과 함께 성장하였으나 패전 후 소멸한 식민자 집단이었다고 할 수 있다.⁴⁴⁾ 청일전쟁에서 러일전쟁 목전에는 조선에 대한 <황무지, 남겨진 이익>의 이미지가 유포되고, 동시에 이민과 조선 무역을 권유하는 세론의 고조가 있었으며, 실제로 전후 거류지의 일본인은 배로 증가했다.⁴⁵⁾ 러일전쟁 전과 비교해 보면 1905년 말까지 한국으로 이주해 온 일본인은 15829명에서 42460명으로 급증했다.⁴⁶⁾

이후 식민지기 재조일본인의 수는 1910년 약 17만 명에서 1919년 약 34만 명으로 비약적인 증가세를 보였다. 초기에 도항한 하층민의 재조일본인들과는 달리 병합 후에는 관료와 교육자들이 조선으로 도항해 왔는데, 1910년에서 1919년까지 천여 명의 일본인 교육자가 조선으로 건너와 ‘외지수당’을 받는 교원이 되었다. 그 배경에는 총독부 학무국 관리나 교육계 인사 사이에 재조일본인 아동의 모국에 관한 관념이 희박해질 것이란 우려가 공유되었다. 당시 학무국장인 세키야 데이자부로(関屋貞三郎)는 1911년 8월 소학교 교원을 대상으로 한 하계강습회에서 “조선을 알면서 일본 내지를 모르는 자가 많다. 일본 모국에 대한 관념이 없어질 우려가 없지 않다”고 말하면서 “교육 훈련 시에는 항상 이를 유념하고 충군애국(忠君愛國)의 정신”을 육성할 것을 훈시했다.⁴⁷⁾

따라서 이와 관련지어서 고찰해 볼 때 『경성일보(京城日報)』에도 재조일본인 가정의 아이들을 중심으로 한 ‘충군애국’의 정신이 함양된 동화의 내용을 살필 수가 있다.

이에 본 발표에서는 당시 재조일본인 작가로 활동한 다쓰야마 루이코(龍山淚光)의 동화를 살펴봄에 있어 그의 동화가 『경성일보』에 실리게 된 계기와 그 양상이 어떻게 드러나고 있는지 고찰해 보고자 한다. 이것은 조선총독부 기관지 『경성일보』의 식민정책에 대한 역할을 파악해 본다는 점에서도 그 의의를 찾을 수가 있겠다.

2. 재조일본인 아이들의 교육을 통한 ‘충군애국’의 정신 함양

44) 이동훈 「‘재조일본인’ 사회의 형성에 대한 고찰-인구 통계 분석과 시기 구분을 통해-」 『일본연구』 제29집, 2018. p.232

45) 趙景達 『植民地朝鮮』 東京堂出版, 2011, p.154

46) 高崎宗司 『植民地朝鮮の日本人』 岩波書店, 2008, p.47

47) 『朝鮮總督府官報』 第314号, 1911. 9. 13일 참조.

1900년 11월 28일자 「외무성기록(外務省記録)」을 살펴보면, 거류지에 영구적으로 뼈를 묻고 자녀를 키우고자 하는 거류민들은 부산을 알면서도 일본을 알지 못한다. 더욱이 매일 미개한 한국인들과 접하는 것 외에는 아무런 자극도 없으므로 우선 교육제도를 확립하고 지도 편달하지 않으면 충군애국의 사상은 부지불식간에 사라지고 일본인다운 성격을 잃어 버리게 될 것이며 또한 지혜의 발달을 기대할 수 없을 것이다⁴⁸⁾로 되어있다.

당시 거류민 학교는 학령 아동이 늘어나면서 규모 면에서 크게 성장하고 있었다. 하지만 거류민 단체의 법적 근거는 애매했다. 이러한 까닭에 거류민역소 대표는 학교 운영을 거류민 ‘자치’에 맡기고 있는 실정을 비판하면서 이에 대한 개선을 요구했다. 현재 상황이 국민 교육이라는 취지에 반한다는 것이 이유로 제시되었다. 또한, 체류국 국민에 대한 모범 제시와 ‘충군애국’ 사상의 약화라는 논리를 동원하면서 국고보조금 제도의 시행을 요청⁴⁹⁾한 것이다.

다시 말해 재조일본인들이 내세운 논리는 거류지 학교의 역할을 단순한 아동 교육으로만 한정치 아니하고, 관민의 구별 없이 미개한 조선에 대항하는 이른바 ‘문명화의 사명’과 거류민 교육을 연계시키는 논리였다. 이후 1906년 통감부가 설치되면서 거류민 학교에 대한 권한은 문부성에서 통감부로 이관되었고, 교육제도의 거류지 적용 문제는 제도적으로 개선되었다.

이와 같은 상황 속에서 조선총독부 기관지 『경성일보』는 1910년대부터 재조일본인 독자를 위한 아동 문예물로 동화를 이용하는 움직임을 보였다.

3. 구루시마 다케히코의 구연동화

1910년대 조선에서 재조일본인 아동을 중심으로 전개된 구연동화는 1913년 10월 만선구연여행(滿鮮口演旅行)에 나선 이와야 사자나미(巖谷小波)의 조선 방문을 필두로 한다. 이후 1915년 10월 8일 문부성의 촉탁을 받아 동양협회 주최로 열리는 통속강연회에 출석하기 위해 구루시마 다케히코(久留島武彦)가 경성을 방문하게 된다.

당시 경성에서는 시정(始政) 5년 기념으로 조선물산공진회(朝鮮物産共進會)가 개최되고 있었고 이를 기념하기 위해 경성일보사와 매일신보사의 공동 주최로 가정박람회가 열리고 있었다.

구루시마는 1915년 10월 10일과 12일 두 차례 가정박람회 회장의 뒤뜰에서 남대문, 히노데(日の出), 종로, 사쿠라이(桜井), 모토마치(元町), 이 다섯 학교 소학생 2천여 명을 청중으로 하여 동화를 구연하였다. 이 다섯 소학교는 경성에 거주하는 일본인 거류민단이 일본인 자녀들을 교육하기 위해 세운 학교였는데, 그중 히노데소학교에는 1921년 덕혜옹주가 2학년으로 입학하여 1925년 3월 일본으로 강제 유학을 떠나기 전까지 재학한 것으로 알려졌다. 즉 이들 학교는 일본의 고관 자녀들이 다녔던 곳이다.

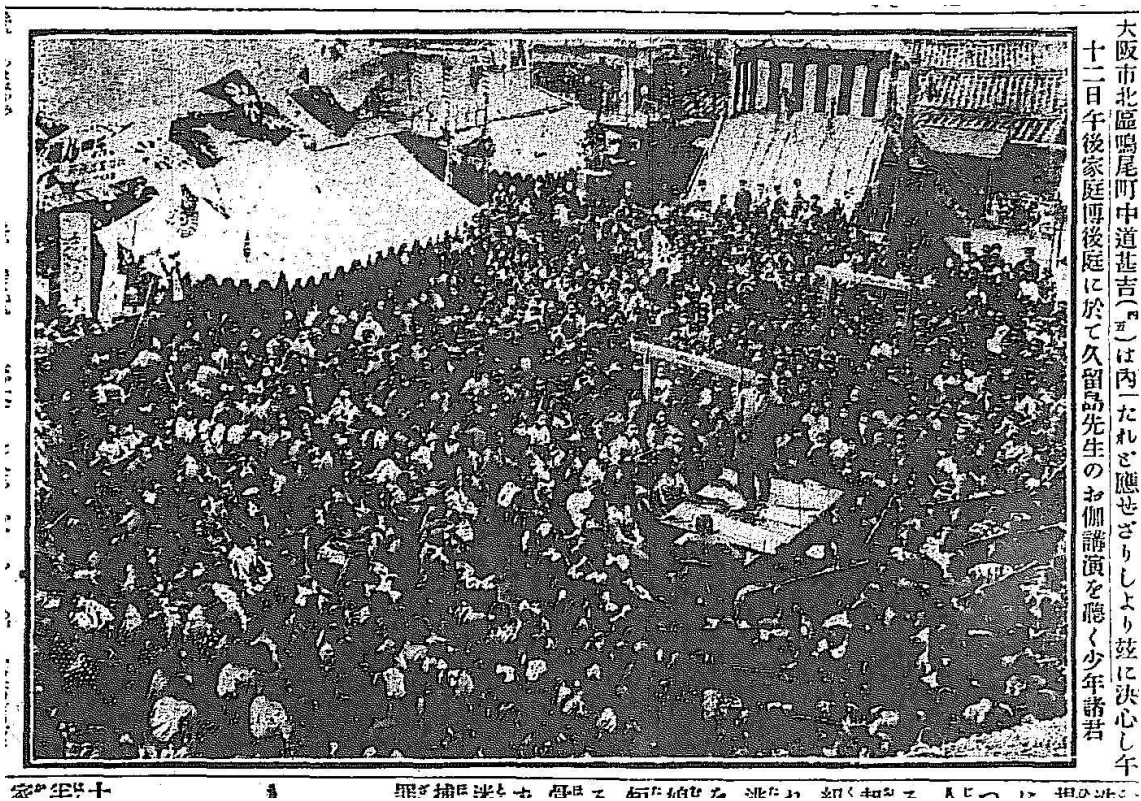
48) 「外務省記録」 3-10-2-15, 「韓國各居留地小學校教育費補助雜件」、1900.11.28

49) 이동훈 「『한국병합』 전후 재조일본인 교육 사업의 전개 - 거류민 단체에서 학교조합으로」 『한림일본학』 제 32집, 2018. p.125

이 아이들을 대상으로 구루시마는 <노기대장(乃木大将)>의 이야기를 구연하며 자신이 청일전쟁, 러일전쟁에 나간 체험과 관련하여 용기 있고 강인한 아동을 만드는 교육의 중요성을 강조하였고, ‘야마토혼(大和魂)’을 되새기게 하는 동화구연을 하였다.

구루시마의 구연동화회에 힘입은 경성일보사는 1918년부터 ‘경일동화강연회(京日お伽講演会)’라는 이름으로 구연동화회를 개최하기 시작하였다. 그리고 재조일본인으로는 처음으로 다쓰야마 루이코가 동화구연을 하게 된 것이다.

아래의 사진은 10월 12일 『경성일보』에 실린 것으로, 가정박람회 뒤뜰에서 구루시마의 동화강연을 듣고 있는 소년 제군의 모습을 찍은 것이다.



4. 다쓰야마 루이코의 군사동화(軍事お伽)

다쓰야마 루이코는 1918년 5월 5일 『경성일보』에 「제가 가장 사랑하는 소년 소녀에게 (私の最も愛する少年少女へ)」란 기사를 게재하였다.

“제1회 5일 날 나가는 학교 강연회는 제겐 가장 그리운 여러분을 처음으로 만나는 날입니다.”⁵⁰⁾ 라고 하면서 동화 강연회의 소식을 전하고 있다. 그의 첫 구연은 『경성일보』의 <경일지상(京日紙上) 동화강연(お伽講演)>란(欄)에 실린 「소좌의 애마(少佐の愛馬)」였다.

그 내용을 살펴보기로 한다.

다케시와 여동생 미쓰 짱은 모모노셋쿠(桃の節句)에 아버지가 축하 행사로 열어준 오토기바나시 모임에 가고, 선생님(다쓰야마 루이코)은 아이들에게 러일전쟁에 관한 이야기를 들려준다.

지금부터 14년 전, 우리 일본은 동양의 평화를 보호하기 위해 러시아와 전쟁을 해야 했기에 전투를 개시했어요. (중략) 천황폐하와 우리 국민을 위해서 진력해야 한다는 충의의 마음을 갖고 싸우면 이겼고, 공격하면 차지하는 상황이 되었어요. 1904년 10월 10일에 사허(沙河)라는 곳까지 공격해 들어갔습니다.⁵¹⁾

사허는 중국 랴오닝성(遼寧省) 선양(瀋陽)의 남쪽에 있는 지명으로 러일전쟁 때 대규모의 전투가 있었던 지역이다. 러시아 군대가 난공불락의 성으로 믿고 있어서 상당히 함락시키기가 매우 힘든 지역이었다. 그 사허를 공격한 지 닷새가 되었으나, 적은 쉽게 백기를 들지 않았다. 소좌의 부대는 맹렬히 싸웠고 끝내 소좌는 무참히 전사하고 만다. 소좌의 죽음을 알아챈 그의 애마 ‘사자나미’는 죽은 소좌를 향해서 달려간다.

선생님의 이야기가 끝나자 아이들 모두는 “말도 이런 충의를 가졌으니 우리도 열심히 공부해서 훌륭한 사람이 되어 충의를 다해야 한다는 결심”⁵²⁾으로 끝맺는다.

이후 다쓰야마 루이코의 군사동화는 일본의 시베리아 출병이라는 역사적 사건을 다룬 「시국 이야기 작은 애국자(時局物語小なき愛國者)」(1918년 8월 18일부터 9월 8일까지 4회 게재), 「이 부모, 이 아들(この親、この子)」(1918년 9월 15일부터 9월 29일까지 3회 게재), 「아버지 없는 형제(父なき兄弟)」(1918년 10월 6일)를 차례로 『경성일보』에 실었다.

「시국 이야기 작은 애국자」는 러일전쟁이 끝나고 얼마 있지 않아 조선에서 생활의 활로를 찾으려고 정든 탄갱 마을을 뒤로한 채 현해탄을 건너 부산에 정착한 재조일본인 가족의 이야기이다. 일가의 생계를 짊어진 아버지는 시베리아로 출병하게 되고 대신 생계를 떠맡게 된 아이들은 애국하는 힘으로 위안을 받는다. 또한 「이 부모, 이 아들」에서는 내지 일본의 한 가난한 아들이 효보다는 충을 선택해서 시베리아로 떠나는 이야기를 구연하였다.

일본의 시베리아 출병은 동시대적으로도 비판받는 전쟁이었고, 당시 정치적, 군사적으로 민감한 시베리아 출병에 관하여 동화라는 표상 장치를 빌려 고무적으로 내보이고 있는 것이다.

그럼 시베리아 전쟁에 척후병(斥候兵)으로 출병하여 장렬히 전사한 아버지를 그린 동화 「아버지 없는 형제」를 살펴보고자 한다.

두 소년이 해 질 무렵, 집을 향해 걸어가는데 어린 동생이 형에게 묻는다.

저기 있잖아. 나라를 위해 시베리아로 전쟁하러 가신 아버지는 지금 무얼 하고 계실까. 작은 새 소리를 들으니 갑자기 아버지가 생각나서……. 용감한 아버지이시니 지금쯤 아마 구렁 말에 올

50) 龍山淚光 「私の最も愛する少年少女へ」 『京城日報』 1918. 5. 5.

51) 龍山淚光 「少佐の愛馬」 『京城日報』 1918. 5. 5.

52) 龍山淚光 「少佐の愛馬」 『京城日報』 1918. 5. 5.

라타고 빗발치는 화살과 총알 속을 마다치 않고 전진하고 계시겠지.⁵³⁾

동생은 아직 아버지가 전사한 사실을 모른다. 그래서 형은 동생에게 이렇게 말했다.

아키 쟁, 아버지는 척후병으로 가셨고 돌아오는 길에 붉은 석양빛이 비치는 들판에서 끝내 전사하신 거야. 아버지는 힘차게 ‘만세’를 부르시고, 붉은 피범벅이 되어 웃고 계셨다고. 아버지의 용감한 얼굴이 생생히 보이는 것 같아. 부대에서 알려진 전사 통지문을 엄마와 함께 남포등 심지를 올리고 보았어.⁵⁴⁾

이야기를 다 들은 동생은 형과 함께 다짐한다. “우리는 일본의 남자다. 세계에서 강한 것은 우리다. 몇백만의 대군도…….”⁵⁵⁾

53) 龍山淚光 「父なき兄弟」 『京城日報』 1918. 10. 6.

54) 龍山淚光 「父なき兄弟」 『京城日報』 1918. 10. 6.

55) 龍山淚光 「父なき兄弟」 『京城日報』 1918. 10. 6.

귀환문학(引揚げ文学)에서의 가족 표상

후지와라 데이(藤原てい)의 「흐르는 별은 살아있다(流れる星は生きて
いる)」를 중심으로

송혜경(고려대)

1. 들어가며

무타 가즈에(牟田和恵)는 “가족은 예로부터 일정한 의미규정을 가진 보편적인 것이 아니라, 시대의 요구에 따라 변화하는 “정치적인 장치”(牟田和恵, 1996)라고 하고 있다. 시대적 흐름과 사회의 요구에 맞게 가족이 이용되었고 이용될 수 있다는 것이다. 전후 일본사회에서 일본인들의 귀환⁵⁶⁾의 기억, 귀환 서사에 있어 가족은 어떻게 전략적으로 이용되었을까. 이는 이후 일본사회에 어떠한 영향을 끼쳤을까.

1945년 제국 일본의 패전은 해외에서 일본으로 대규모의 인구이동을 가져왔다. 식민지나 점령지에 살던, 군인과 군속, 민간인 720만 명가량의 일본인이 본국 일본으로 돌아갔다. 그중 한반도에서 돌아간 일본인 민간인은 70여만 명에 이르며 여기에는 5, 6만 명 정도의 만주 피난민이 포함되어 있다. 이들은 6개월에서 1년 정도 북한지역에 억류되었다가 집단탈출의 형태로 남한을 거쳐 일본으로 돌아갔는데(『援護50年史』 1997, p.730.), 소련군의 침공 등으로 인하여 38선 이북이나 ‘만주’에서의 귀환 과정에서 일어나는 약탈, 살상, 강간, 억류 등 비참한 전쟁 참상을 경험해야 했다.

이러한 귀환 과정에서의 체험은 과거의 역사적 사건으로 끝나는 것이 아니라, 현재까지도 이어져서 일본의 식민지, 전쟁 책임에 대한 문제의 규명을 어렵게 만들고 있다. 특히 ‘만주’로부터의 귀환 과정에서의 참혹한 전쟁 체험의 서사는 일본인들에게 식민지 지배의 식민자로서의 가해의식은 삭제된 채 ‘전쟁의 피해자’라는 전도된 피해 의식을 갖게 하는 중요한 계기로 작용하고 있다.

「흐르는 별은 살아있다」(1949, 日比谷出版社)는 후지와라 데이의 자전적 소설로, 여기에는 신경(현재의 장춘)의 관상대(觀象臺)에 부임한 남편을 따라 만주에서 생활하던 후지와라가 북한에 억류되었다가 남하하여 일본으로 돌아가기까지 1여 년간의 고난의 여정이 담겨있다. 귀환문학을 정리하여 저술한 박유하는 수많은 귀환체험이 저술되는 가운데 「흐르는 별은 살아있

56) 패전 후 일본인들의 “귀환”에 대한 용어는 각 나라마다 다르게 표현되고 있다. 실제로 귀환업무를 관할했던 미군정청을 비롯한 미국 행정부는 송환하다(repatriate)라는 용어를 공식문서에 사용했다. 한편 일본 정부의 공식문서에서는 “인양원호(引揚援護)”를 사용하여 그 후 “히키아게(引揚)”가 역사용어로 정착했다. 한국어의 경우 인양은 “끌어서 옮김”의 의미로 사용되어 본고에서는 귀환으로 사용하고 그 내용은 식민지나 점령지에서 고향으로 돌아가는 것을 의미한다.(박경민, 2020 참조)

다」는 그 “시작”(박유하, 2016,p.23)이었다고 언급하고 있다. 이러한 평가는 당시에도 내려져서 귀환단체들의 중심적인 역할을 했던 동화협회(同和協會)의 기관지인 『월간 同和』의 <신간 안내>는 “북선(北鮮)으로부터의 귀환”을 서사한 “최초의 작품”(17호, 1949.5)으로 소개하고 있다. 당시 「흐르는 별은 살아있다」는 일약 베스트셀러가 되었고, 곧바로 영화(1949)화되는 등 큰 반향을 일으켰다. 이후에도 재판을 거듭하며 드라마(1982)로 제작되어 그 서사가 반복, 재생산되어 현재 ‘귀환=고난’, ‘귀환자=피해자’라는 일본인이 갖는 전쟁의 피해자 인식의 원류가 되고 있다.

한편, 한국에서 번역 출판(2003)된 『흐르는 별은 살아있다』의 역자후기에서 발췌한 표지에는 “어떻게든 살아남으려고 눈물겹게 노력하는 한 인간으로서의 그녀에게서 나는 삶과 죽음의 기로에 선 인간, 그리고 자기희생의 모정을 보았습니다. 또한 나의 가슴을 저미는 것은 다시 만날 기약이 없는 남편에 대한 한 젊은 아내의 지고지순한 사랑이었습니다.”라고 쓰여 있다. 또한 선행연구에서도 여성의 시각에서 쓰인 “인간상의 진면목을 보여주는 전쟁체험의 기록”(노영희, 2007)이나 “휴머니즘에 바탕한 진솔한 인간을 그린 소설”(노상래, 2015)이라는 평가를 내리고 있어, 참혹한 전쟁의 피해자로서의 일본에 대한 인식과 궤를 같이 하고 있다.

이러한 가운데 스메마스 도모히로(末益智広)는 「흐르는 별은 살아있다」에서의 “가족애”에 주목하고 있다. “‘가족애’, ‘모성’이라는 측면이 “사람들의 공감을 얻을 수 있었다”고 하면서 이를 각색된 영화 속에서 구체적으로 찾고 있다. 그러나 영화적 각색을 주로 하고 있어 자전적 소설인 「흐르는 별은 살아있다」가 어떠한 맥락에서 발표되었는지, 작품 속 가족은 어떠한 방식으로 구성되어 독자에게 수용되었는지에 대한 구체적인 분석이 없다.

본고에서는 전후 일본사회에서 “귀환자의 모델 스토리”로 여겨지는 「흐르는 별은 살아있다」가 어떠한 맥락 속에서 만들어졌으며 그 안에서 가족은 어떻게 구성되어 어떠한 역할과 작용을 하는지 고찰하고자 한다. 이를 통해 현재까지 참혹한 전쟁의 피해자로 인식되고 있는 일본인의 의식을 파악하는 단서를 제공하고자 한다.

2. 귀환의 기억과 귀환문학
3. 「흐르는 별은 살아있다」와 북선 귀환사업
4. 「흐르는 별은 살아있다」의 전략으로서의 가족
5. 나오며

「흐르는 별은 살아있다」는 후지와라 테이가 신경(현재의 장춘)의 관상대(觀象臺)에 부임한 남편을 따라 만주에서 생활하다 소련군의 침공으로 남편이 억류되면서 여자 혼자의 몸으로 세 명의 어린아이를 데리고 신경(新京)-봉천(奉天)-평양-부산을 거쳐 후쿠오카(福岡)로 귀환과정의 그린 자전적 소설이다. 이는 이후 베스트셀러가 되어 귀환서사의 전형을 만들고 있다.

이는 귀환사업이 일차적으로 마무리(1947)되는 직후의 이른 시기에 발표되었다는 시기적인 측면에서 기인한다. 그러나 그 영향은 시기적인 문제에만 국한되는 것이 아니었다. 당시 귀환단체의 구심점 역할을 했던 동화협회의 북선으로부터의 귀환에 대한 관심과 정책을 촉구하는 분위기 속에서 전개되어 『월간 동화』 실리며 선전되고 있다. 북선으로부터의 잔류 귀환에 대한 호소와 맥락을 같이 하는 것이다.

또한 작품의 내용에서 귀환서사의 전형을 찾을 수 있다. 예컨대 만주로부터의 귀환서사에서 일반적으로 등장하는 여성의 성적 긴장은 대부분 모호하게 전개되고 있다. 조선인이나 소련인과의 접촉이 등장하지만 그 조차 화자는 거의 관심을 두지 않는다. 그 내용은 가장 보편성을 떨 수 있는 가족에 집중되어 있다. 매 어려움의 순간마다 남편을 떠올리며 하나의 완전체를 이루는 가족을 상상하게 한다.

이들의 가족은 결국 고향에 도착하는 것으로 성공담을 이루어 완성된다.

이처럼 「흐르는 별은 살아있다」는 가족을 전략적으로 이용하여 귀환서사의 전형이 되고 있다. 이는 나아가 일본인의 참혹한 전쟁의 피해자로 간주되는 인식의 원류가 되고 있다고 할 수 있다.

현대 일본사회 속 일하는 여성과 가정

-기리노 나쓰오(桐野夏生)의 『아웃(OUT)』을 중심으로-

이정화(고려대)

1. 들어가며

코로나로 팬데믹 상황에 접어들면서 전 세계는 혼란이 가중되는 상황에 접어들었다. 이러한 상황에서, 가족의 의미와 그 역할에 전환이 이루어지고 있다.

일본에서는 일본에서는 고도 성장기를 거치면서 직장생활을 하는 여성 노동자가 늘어났고, 직업이 없는 주부를 지칭하기 위해 ‘전업 주부’라는 단어의 필요성이 제기되었다. 우에노 치즈코(上野千鶴子)에 의하면 1960년대에 들어와 일본 사회는 만성적인 노동력 부족에 시달리면서 풀타임 노동을 할 수 없는 가정이 있는 여성들도 “파트타임이라는 취업형태의 획기적인 발명”에 의해 노동시장에 등장하게 되었고, 1970년대에 들어서 정부의 노동통계를 통해 ‘단시간 취업 고용자’라는 분류항목이 공식적으로 포함되면서 이들의 지위와 노동형태에 대한 인식이 생겨나기 시작한 것으로 보인다.⁵⁷⁾

이 파트타임 여성 노동자들은 자신의 수입을 독립적으로 운용하기보다는, 가계를 보충하는데 사용하는 경향이 높았으며 주부로서의 역할과 직업인으로서의 역할이 갈등을 일으키지 않는다는 점에서 가부장제를 거스르지 않는 방식으로 운용되었다. 그러던 것이 1990년대에 들어와 버블경제 붕괴라는 사회적 여파가 가정 내 구성원들의 관계성과 기능에까지 영향을 미치게 되면서 파트타임 여성 노동자들에게는 가정 내 주부로서의 역할과 생계의 일부를 담당하는 가정의 역할까지 함께 부여된다. 기리노 나쓰오(桐野夏生)의 『아웃(OUT)』은 이러한 90년대 중반부터 나타나게 된 사회변화를 반영하면서 이러한 사회적 변화 속에서 나타난 가정의 붕괴, 새롭게 재정의되는 여성의 역할, 가족의 의미에 대해 묻는 소설이다. 이에 본고에서는 90년대 일본의 경제상황의 급격한 변화와 함께 이에 『아웃』에서 나타나는 여성의 이중부담과 가정의 모습에 대해 고찰하고자 한다.

2. 『아웃』에 나타나는 여성의 이중부담

57) 우에노 치즈코 저, 이승희 역 『가부장제와 자본주의』, 녹두, 1994, p.213-215. “단시간 취업 고용자’는 고도성장기 말에 가서는 216만 명으로 전체 고용자 가운데 6.7%를 점했다. 여성 고용자만을 따지자면 12.2%에 달했다. 그 후 1970년대를 통해 계속 증가하여 1985년에는 여성 고용자 가운데 22.0%에 달했다. 요컨대 여성노동자 5명 가운데 1명은 파트타임인 셈이다. 그들은 대개가 배우자가 있는 여성노동자였다. 이리하여 파트타임으로 취업하고 있는 주부 노동자는 일본 노동시장의 불가결한 한 부분으로 구조적으로 편입되었다.” (p.215.)

소설 『아웃』에 등장하는 주요 인물은 가토리 마사코(香取雅子), 조노우치 구니코(城之内邦子), 아즈마 요시에(吾妻ヨシエ), 야마모토 야요이(山本弥生)라는 네 여성으로 이들은 각각 저마다의 가정사 때문에 낮보다 시급이 높은 새벽 시간에 도시락 공장에서 일하게 된다. 이들이 맡은 일은 도시락 가공과정을 따라 레일에 늘어선 트레이 나열하기, 트레이에 밥을 퍼 담고, 고르게 퍼기. 반찬 담기 혹은 소스 물히기 등과 같은 단순 작업이다. 네 명의 여성들이 이러한 노동 공간에서 일을 하게 되는 경위와 그들의 상황을 간단히 소개하면, 마사코는 원래 20년 가까이 일하던 회사에서 정리해고를 당한 뒤 다른 마땅한 일자리를 찾지 못해 이곳에서 일하게 된다. 겉보기에는 멀쩡한 가정의 형태를 하고 있지만, 실제로는 가족 간에 감정교류는 전혀 없다고 할 만큼 개별적인 생활을 하고 있다. 요시에는 남편이 간경화로 5년 전 사망한 후 실질적인 가장으로 집안일과 공장 일을 병행하고 있으나 이러한 생활을 언제까지 할 수 있을지 지쳐있는 상태이다. 소설의 전개에 가장 중요한 ‘살인’을 저지르게 되는 인물인 야요이는 남편과 함께 맞벌이를 하며 생활을 이어가던 중 남편이 500만 엔에 가까운 저축을 도박으로 날렸다는 사실을 알고 이유를 추궁하자 가정폭력을 당하게 되고, 다음 날 충동적으로 살인을 저지르게 된다. 구니코는 자신의 수입 뿐 아니라 빚까지 내서 무계획적인 소비를 하는 인물로 묘사되는데, 사실상 실존 관계에 있는 데쓰야가 모든 짐과 돈을 가지고 도망쳐 카드 빚·사채 빚을 떠안게 된다.

『아웃』에서 모든 갈등이 시작되는 원인은 버블경제 붕괴 이후 일본 사회가 경기침체를 맞이하게 되면서, 그동안 주 부양자가 아닌 보조적 역할을 수행해온 주부들에게 가정주부로서의 가정 내 역할과 부양의 의무가 이중으로 가해지는 데에 있다. 특히 금전적 부담뿐 아니라 가정이라는 울타리 안에서조차 착취를 당하는 상황이 결정적이라고 할 수 있다. 고바야시 미에코(小林美恵子)도 주부들의 상황을 그려낸 기리노 나쓰오의 공적을 높이 평가하는 한편 주부들이 놓인 상황에서의 탈출에 대해 논하면서 「돈의 문제로 자각되고 있으나, 실제로는 그에 뒤따르는 인간관계의 균열」⁵⁸⁾이라고 지적하면서 금전관계 뿐 아니라 여성의 노동과 가정 내의 관계성에도 함께 주목하고 있다.

여성 등장인물들은 실질적인 가장임에도 가정 내 위치를 보면 주체성을 가지고 가장으로서의 역할을 하는 것이 아니라 이중적 착취를 당하고 있고, 스스로를 착취하게 된다. 또한 가족 구성원들은 이들의 노동을 당연한 것으로 인식하며, 가정 내에서 감당해야 하는 모든 희생은 주부들이 떠맡게 되고 이로 인해 가정 안에서는 계급관계가 형성된다.

3. 여성들의 협력의 한계와 권력관계

이렇게 소설 『아웃』에서는 나타나는 폭력성은 결국 여성들이 제각기 놓인 가부장적 상황에서 벗어나기 위한 방법으로 선택한 것이었으며 이는 곧 피고용인이자 가정 내 주부로서 이중의 역할을 통해 주체성을 잃었던 여성들이 주체성을 회복하고자 하는 욕망과 연결된다. 그러나 역설적으로 그들이 경제적 압박이나 가정 내의 이중부담에서의 해방을 꿈꾸기 위해 선택한 ‘폭력’은 다시금 새로운 폭력과 억압의 관계를 불러온다. 이들의 협력이 처음부터 ‘공장’이라는 노동의 특수한 공간에서 맺어진 관계였다는 점을 되짚어본다면, 공장이 아닌 사적인 영역에서도 협조적인 관계가 언제까지나 유지될 수는 없었다. 선행연구에서도 “그 현장을 떠나면 관계를 유지하는 의미가 없어진다”⁵⁹⁾고 지적된 바 있는데, 처음 공장 안에서의 노동과 협력이 공장 안에서

58) 小林美恵子, 앞의 논문(2008), p.60.

59) 小林美恵子, 앞의 논문(2008), p.61.

의 노동을 하는 동안에 느꼈던 특별한 감정은 그 공간을 떠나 사체 해체라는 비즈니스를 시작 하면서 새로운 관계 정립이 이루어지고 앞서 3절에서 살펴본 바와 같이 폭력성의 표출과 함께 일종의 권력관계가 형성된다.

『아웃』의 후반부에 이르러 서술되는 이러한 여성들 간의 관계성에 대해, 이노우에 마사루(井上優)는 자본주의적 관점에서 ‘채무자’와 ‘채권자’의 시각으로 보았다. 특히 이탈리아 철학자 마우리치오 라자라토의 <호모 데비토르>⁶⁰⁾라는 개념과 사회학자 지그문트 바우만(Zygmunt Bauman)가 주장한 “후기 근대의 사회는 소비자로서의 역할을 수행할 능력과 의지”가 사회구성원으로서의 자격이라는 점을 들어, 마사코와 요시에가 주문지의 제안을 거절하지 못하고 사체 처리를 비즈니스로 받아들인 것이나 구니코가 사체손괴를 발설한 것 등 일련의 사건들과 그 가운데 만들어진 여성들의 관계가 이러한 소비로부터의 채무 의식과 ‘돈’이 관련된 권력관계에서 비롯된다고 설명하였다.⁶¹⁾ 물론 이노우에의 분석처럼 『아웃』에서 여성들이 사건에 가담하고 그 가운데 형성되는 권력관계가 자본주의 체제 아래에서의 ‘소비력’의 차이에서 연유하는 것으로 볼 여지는 있지만, ‘소비력’만으로는 살인이 벌어진 직후 이득에 대한 대가나 약속 없이 야요이를 도운 마사코의 동기와, 나머지 인물들의 종속적 관계 속에서의 부담이나 억압 그리고 폭력성을 모두 설명할 수 없다.

오히려 마사코는 가부장제 자본주의의 이중적인 억압 아래 있었던 야요이를 흔쾌히 도왔으면 서도 추후 야요이와 자신 사이에 의뢰인-수탁인으로서 관계의 전도가 일어날 상황이 되자 관계를 끊는다. 이것은 가부장제 자본주의로부터의 마사코의 해방욕구로 읽어볼 수 있다. 뿐만 아니라 여성들의 협력 관계는 사건 초반에서 시간이 지날수록 균열이 생기는 양상이 나타나며, 여성들이 ‘가정’이라는 허울만 남은 관계 속에서 이중의 부담을 느꼈을 때와 같이 이 네 명의 관계도 일정한 권력관계가 형성되자 곧 부담을 느끼는 인물들에 의해 해체된다.

4. 나가며

본고에서는 소설 『아웃』에서 나타나는 여성들의 연대와, 그 이면에 나타나는 권력관계에 주목하여 어떠한 한계가 있었는지를 살펴보았다. 위의 내용을 통해 살펴본 바, 소설에서 각 인물들은 저마다의 처지에서 벗어나서 주체성을 되찾기 위한 방법으로 가정의 해체를 꿈꾸며, 그 수단으로 폭력을 선택했고, 이것이 역설적으로 여성들 사이에 또 다른 억압의 관계를 형성하게 되었다.

1990년대 이후의 일본 사회가 맞이한 급격한 경제침체를 반영하여 쓰인 이 소설은 가족의 붕괴와 여성의 역할, 가정의 의미를 탐구하면서 같은 목적을 공유하는 협력 안에도 다양한 층위와 권력관계가 존재한다는 점을 드러내고 있다. 또한 이러한 권력관계는 가부장제 자본주의의 노동 시스템 안에서 여성들이 놓인 억압과 폭력을 그대로 재현하는 것으로써 마지막에 유일하게 희망적 결말을 쟁취한 마사코는 결과적으로 “가부장 체제 내에서 여성에게 ‘평등’은 여성도 가부장 남성처럼 되는 것을 의미할 뿐이다”⁶²⁾라는 마리아 미즈(Maria Mies)의 주장을 체현

60) 호모 데비토르는 ‘빚진 인간’이라는 마우리치오 라자라토의 저서 『부채인간(L'homme Endetté)』(2011)에서 현대의 신용카드로 우리는 이미 금융 자본주의 시스템에 장악된 ‘부품’이며, 평생 부채를 지고 살아야 하는 사회 체제 속에 산다는 의미의 개념이다.

61) 井上優, 앞의 논문(2018), pp.81-82.

62) 마리아 미즈 저, 최재인 역 『가부장제와 자본주의 : 여성, 자연, 식민지와 세계적 규모의 자본 축적』, 갈무리, 2004, p.108.

한 것으로 읽어볼 수 있다.

【참고문헌】

한글 참고문헌

- 우에노 치즈코 저, 이승희 역 『가부장제와 자본주의』 녹두, 1994,
마리아 미즈 저, 최재인 역 『가부장제와 자본주의 : 여성, 자연, 식민지와 세계적 규모의
자본축적』 갈무리, 2004,
기리노 나쓰오 저, 김수현 역 『아웃』 1, 황금가지, 2007.
기리노 나쓰오 저, 김수현 역 『아웃』 2, 황금가지, 2007.

일본어 참고문헌

- 桐野夏生 「深夜の弁当工場で見た「奴隷労働」の女たち（現代「階級」考）」 『エコノミスト』 81(8),
2003, pp.66-68.
桐野夏生他 「家族から見る日本社会—希望格差社会をめぐる—」 『神奈川大学評論』 50, 2005,
pp.5-27.
太田哲男 「桐野夏生 『OUT』 をめぐって」 『桜美林世界文学』 Vol.2, 2006, pp.55-65.
中川智寛 「桐野夏生 「OUT」 論—香取雅子と佐竹光義の造型を中心に—」 『近代文学論集』 Vol.32,
2006, pp.121-131.
小林美恵子 「桐野夏生 『OUT』 にみる<金>と<渴き>の果て—主婦たちのベルトコンベアー—」 『社会文
学』 28, 日本社会文学会, 2008, pp.60-72.
種田和加子 「剥奪の構図—桐野夏生作品から考察する—」 『日本近代文学』 81, 日本近代文学会,
2009, pp.239-255.
桐野夏生 「『OUT』、『メタボラ』 ……<労働>を描く理由と尊厳を持って生きること、時代をかくということ」
『POSSE』 17, 2012, pp.5-14.
井上優 「切斷と断片化—桐野夏生 『OUT』 論—」 『跡見学園女子大学文学部紀要』 53, 跡見学園女子
大学, 2018, pp.73-90.
白井聡 「桐野夏生とその時代 : 『OUT』 『グロテスク』 『メタボラ』 について」 『思想』 1159, 岩波
書店, 2020, pp.8-28.